コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究　―単元構想の工夫と言語活動の充実―

高等学校新学習指導要領の趣旨を踏まえて，学習到達目標を明確にした単元構想と，言語活動を中心とした英語で行う授業の在り方について検討した。生徒の実態を捉えた上で，英語によるコミュニケーション能力を育成するために，ペア・ワークやグループ・ワークを設定したり，Ｑ－Ａやワークシートを工夫したりして授業実践を行った。各実践により日本語訳に頼らず英問英答による内容理解ができることや，英語での自己表現活動において生徒の意欲が高まるなどの成果が得られ，単元構想を活用した授業改善の効果が検証された。

＜検索用キーワード＞　新学習指導要領　外国語　英語　授業改善　ＣＡＮ－ＤＯリスト　学習到達目標　単元構想　言語活動

研究会委員

県立昭和高等学校教諭	名和　孝（平成23,24年度）
県立瀬戸西高等学校教諭	岡島　正純（平成23年度）
（現県教育委員会生涯学習課教育主事）	
県立長久手高等学校教諭	加藤　祐子（平成23,24年度）
県立一宮高等学校教諭	豊島　澄子（平成23,24年度）
県立豊田西高等学校教諭	今田　祐之（平成24年度）
県立松平高等学校教諭	山本　徳子（平成23,24年度）
県立成章高等学校教諭	谷中美奈子（平成23,24年度）
県立御津高等学校教諭	鈴木　稔（平成23,24年度）
総合教育センター研究指導主事	米津　明彦（平成23,24年度主務者）

１　はじめに

平成21年３月に告示された高等学校新学習指導要領では，外国語科の目標は「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」こととされている。また，英語に関する各科目については，「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに，授業を実際のコミュニケーションの場面とするため，授業は英語で行うことを基本とする」ことが明記された。生徒が授業の中でできるだけ多く英語を使用できるように，英語による言語活動を授業の中心とすることが求められている。

近年，ＳＥＬＨｉ（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）指定校等による先進的な取組を参考として，全国の高等学校で英語による授業を行うための工夫が進められている。愛知県でも，平成21年度から県教育委員会高等学校教育課による「英語科教員地区別研修」が実施され，授業改善の在り方や具体的な指導方法等を，研究授業及び研究協議を通して習得するなどの機会があり，多くの学校が授業に言語活動を取り入れる工夫を進めている。しかし，教員間での指導方針の相

違や目指す生徒像が定まっていないことなどから，授業改善を進めることが困難な学校もある。

このような背景から，本研究では，学習到達目標を明確にして，生徒の実態に応じた言語活動を取り入れた単元構想の在り方を検討し，授業実践による考察を経て，継続的な授業改善の参考となる取組を提案することとした。

２　研究の目的

高等学校新学習指導要領の趣旨を踏まえて，学習到達目標を明確にした単元構想と，言語活動を中心とした英語で行う授業の在り方について研究する。生徒が英語を使用しやすいようにペア・ワークやグループ・ワークを設定したり，Ｑ－Ａやワークシートを工夫したりすることにより，生徒の英語によるコミュニケーション能力を養うことをねらいとした授業実践の成果と課題を報告するとともに，今後の授業改善につながる指針を提案する。

３　研究の方法

生徒の英語によるコミュニケーション能力を養うための単元構想と言語活動の在り方について研究協力委員相互で協議し，次の項目について分析・考察する。また，その成果を広く発信する。

①　言語活動に対する生徒の意識について
②　単元構想の様式とＣＡＮ－ＤＯリストの作成方法について
③　単元構想を基にした授業実践による生徒の変容について

４　研究の内容

(1) 言語活動に対する生徒の意識分析

生徒のコミュニケーション能力を育成するためには言語活動を授業に導入することは不可欠であるが，生徒がどのような指導方法を望んだり，逆に抵抗を感じていたりするのかを把握して効果的に進める必要があると考えた。そこで，アンケート調査により高等学校第１学年生徒の授業や言語活動についての意識を分析した。

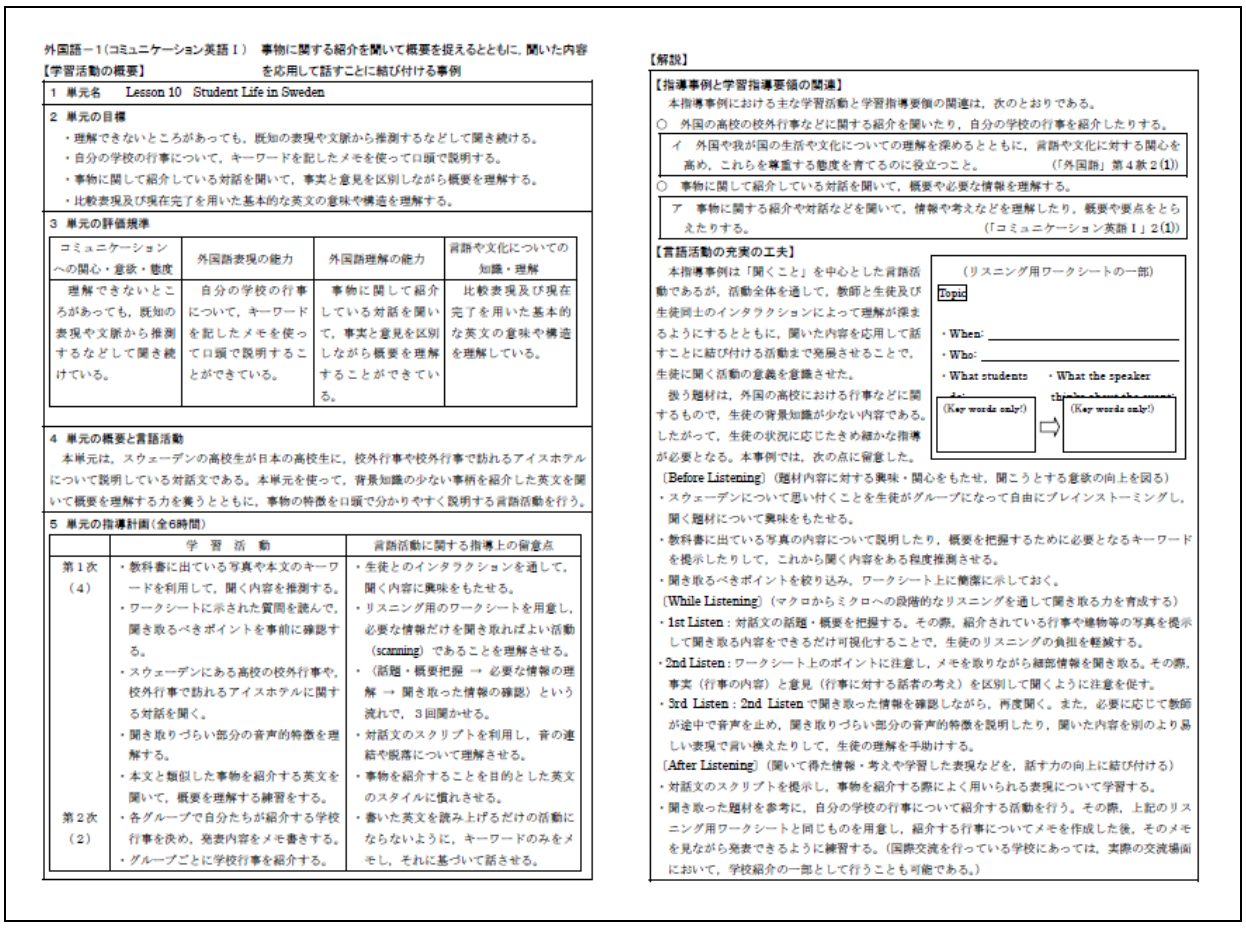
(2) 単元構想の様式とＣＡＮ－ＤＯリストの作成方法

一つの単元を通して身に付けさせたい力とそのための手順が明らかになるような単元構想のまとめ方とＣＡＮ－ＤＯの記述の仕方について，国立教育政策研究所による「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校　外国語）」（平成 24 年７月）及び文部科学省による「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】＜外国語科＞」（平成 24 年６月）を基に検討した。

ＣＡＮ－ＤＯリストの作成に関しては，県教育委員会による平成 24 年度高等学校新教育課程愛知県説明会において，「科目ごと，教科書の単元ごとの観点別評価の中で，特に『外国語表現の能力』と『外国語理解の能力』に焦点を当て，その２つの観点から４技能について『～ができる』という記述で学習到達目標を示すとともに，その評価時期及び評価方法を具体的に記載する形式」をまず考えることが各学校に示されており，その方針を踏まえた作成方法を協議した。特に学習到達目標（評価規準）に対応した言語活動を設定することに留意した。

単元構想の様式については，「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】＜外国語科＞」の各指導事例の【学習活動の概要】と【解説】の様式（**資料１**）を基本とすることにした。単元の概要，言語活動の位置付け及び工夫，さらにＣＡＮ－ＤＯを含む観点別評価規準を整然と記述できるため，各校における単元構想の共有にも有効であると判断したものである。

【資料１　「言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】＜外国語科＞」からの事例抜粋】



外国語－１（コミュニケーション英語Ⅰ）　事物に関する紹介を聞いて概要を捉えるとともに，聞いた内容を応用して話すことに結び付ける事例

【学習活動の概要】

1　単元名　Lesson 10　Student Life in Sweden

2　単元の目標

・理解できないところがあっても，既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続ける。
・自分の学校の行事について，キーワードを記したメモを使って口頭で説明する。
・事物に関して紹介している対話を聞いて，事実と意見を区別しながら概要を理解する。
・比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解する。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
理解できないところがあっても，既知の表現や文脈から推測するなどして聞き続けている。	自分の学校の行事について，キーワードを記したメモを使って口頭で説明することができている。	事物に関して紹介している対話を聞いて，事実と意見を区別しながら概要を理解することができている。	比較表現及び現在完了を用いた基本的な英文の意味や構造を理解している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は，スウェーデンの高校生が日本の高校生に，校外行事や校外行事で訪れるアイスホテルについて説明している対話文である。本単元を使って，背景知識の少ない事柄を紹介した英文を聞いて概要を理解する力を養うとともに，事物の特徴を口頭で分かりやすく説明する言語活動を行う。

5　単元の指導計画（全6時間）

	学　習　活　動	言語活動に関する指導上の留意点
第１次（４）	・教科書に出ている写真や本文のキーワードを利用して，聞く内容を推測する。 ・ワークシートに示された質問を読んで，聞き取るべきポイントを事前に確認する。 ・スウェーデンにある高校の校外行事や，校外行事で訪れるアイスホテルに関する対話を聞く。 ・聞き取りづらい部分の音声的特徴を理解する。 ・本文と類似した事物を紹介する英文を聞いて，概要を理解する練習をする。	・生徒とのインタラクションを通して，聞く内容に興味をもたせる。 ・リスニング用のワークシートを用意し，必要な情報だけを聞き取ればよい活動（scanning）であることを理解させる。 ・（話題・概要把握 → 必要な情報の理解 → 聞き取った情報の確認）という流れで，３回聞かせる。 ・対話文のスクリプトを利用し，音の連結や脱落について理解させる。 ・事物を紹介することを目的とした英文のスタイルに慣れさせる。
第２次（２）	・各グループで自分たちが紹介する学校行事を決め，発表内容をメモ書きする。 ・グループごとに学校行事を紹介する。	・書いた英文を読み上げるだけの活動にならないように，キーワードのみをメモし，それに基づいて話させる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は，次のとおりである。

○　外国の高校の校外行事などに関する紹介を聞いたり，自分の学校の行事を紹介したりする。

イ　外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに，言語や文化に対する関心を高め，これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。（「外国語」第４款２(1)）

○　事物に関して紹介している対話を聞いて，概要や必要な情報を理解する。

ア　事物に関する紹介や対話などを聞いて，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。（「コミュニケーション英語Ⅰ」２(1)）

【言語活動の充実の工夫】

本指導事例は「聞くこと」を中心とした言語活動であるが，活動全体を通して，教師と生徒及び生徒同士のインタラクションによって理解が深まるようにするとともに，聞いた内容を応用して話すことに結び付ける活動まで発展させることで，生徒に聞く活動の意義を意識させた。

扱う題材は，外国の高校における行事などに関するもので，生徒の背景知識が少ない内容である。したがって，生徒の状況に応じたきめ細かな指導が必要となる。本事例では，次の点に留意した。

（リスニング用ワークシートの一部）

Topic

・When: _____
・Who: _____
・What students　・What the speaker

(Key words only!)　⇨　(Key words only!)

〔Before Listening〕（題材内容に対する興味・関心をもたせ，聞こうとする意欲の向上を図る）

・スウェーデンについて思い付くことを生徒がグループになって自由にブレインストーミングし，聞く題材について興味をもたせる。
・教科書に出ている写真の内容について説明したり，概要を把握するために必要となるキーワードを提示したりして，これから聞く内容をある程度推測させる。
・聞き取るべきポイントを絞り込み，ワークシート上に簡潔に示しておく。

〔While Listening〕（マクロからミクロへの段階的なリスニングを通して聞き取る力を育成する）

・1st Listen：対話文の話題・概要を把握する。その際，紹介されている行事や植物等の写真を提示して聞き取る内容をできるだけ可視化することで，生徒のリスニングの負担を軽減する。
・2nd Listen：ワークシート上のポイントに注意し，メモを取りながら細部情報を聞き取る。その際，事実（行事の内容）と意見（行事に対する話者の考え）を区別して聞くように注意を促す。
・3rd Listen：2nd Listen で聞き取った情報を確認しながら，再度聞く。また，必要に応じて教師が途中で音声を止め，聞き取りづらい部分の音声的特徴を説明したり，聞いた内容を別のより易しい表現で言い換えたりして，生徒の理解を手助けする。

〔After Listening〕（聞いて得た情報・考えや学習した表現などを，話す力の向上に結び付ける）

・対話文のスクリプトを提示し，事物を紹介する際によく用いられる表現について学習する。
・聞き取った題材を参考に，自分の学校の行事について紹介する活動を行う。その際，上記のリスニング用ワークシートと同じものを用意し，紹介する行事についてメモを作成した後，そのメモを見ながら発表できるように練習する。（国際交流を行っている学校にあっては，実際の交流場面において，学校紹介の一部として行うことも可能である。）

(3) 単元構想を基にした授業実践による生徒の変容

授業実践については，目指す生徒像を設定し，その実現のための手だてを単元構想の中に組み込んで行うこととした。実践後，授業中の観察，ワークシートへの記入状況，アンケート結果などを分析し，生徒の変容を把握することとした。目指す生徒像に向けて生徒が成長しているかどうかを把握して考察することにより，さまざまな手だての有効性を検討した。さらに，継続的な授業改善につなげていくために今後の課題を挙げた。

なお，各授業実践は，現行の学習指導要領における科目で行われたが，単元構想の中で新学習指導要領の科目の内容との関連を記述した。これは，今後の単元構想及び授業実践において，新学習指導要領の内容との整合性を意識し，年間を通して内容のバランスが取れていることを確認するために有効であると考えたからである。

(4) 各学校の研究・実践概要

ア　愛知県立成章高等学校

「英語の授業に関する生徒の意識調査－言語活動を中心とした指導方法の工夫に向けて－」をテーマとした。高等学校第１学年生徒が，授業で何に重点を置いてほしいと考えているか，また，ペア・ワークやグループ・ワークなどを用いた指導方法に対してどのような意識をもっているかなどについて，本校及び県内５校の生徒へのアンケートを行い，その結果を分析・考察した。

多くの生徒は，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の４技能全てをバランスよく学びたいと思っており，授業で英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいとも考えている。しかし，言語活動の方法によっては抵抗感が見られ，特にスピーチを取り入れる場合には段階的に技能

を高めて自信をもたせるなど，指導手順の工夫や精神面への配慮が必要であると考えられる。

イ　愛知県立御津高等学校

「単元構想とＣＡＮ－ＤＯリストによる授業改善の工夫」をテーマとした。各単元における学習到達目標をＣＡＮ－ＤＯとして設定し，１年間分を積み重ねて，科目全体のＣＡＮ－ＤＯリストを作成することとした。年間学習指導計画と関連付けて，１年間で行う言語活動をバランスよく配置するなど，授業改善に役立つような作成方法を検討した。

科目全体のＣＡＮ－ＤＯリストの作成作業を実際に行う過程で，１年間を通して生徒に身に付けさせるべき力を俯瞰（ふかん）してイメージすることができるようになった。各単元が１年間の指導の中でどのような位置付けにあるか，あるいは各単元がどのように関連しているかという点についても教師の理解が深まり，４技能を総合的かつ統合的に指導するための資料として役立つことが分かった。

ウ　愛知県立昭和高等学校

「英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成－『書くこと』と『話すこと』を関連付けた言語活動の工夫－」をテーマとした。第２学年英語Ⅱの授業において，自分が思ったことや感じたことを分かりやすい英語で表現できるようにするために，教科書本文についての英問英答を中心とした内容理解と，本文についての自分の考えを伝え合う言語活動の工夫を単元構想の中心として授業実践を行った。

英問英答とフローチャートを用いた内容の整理や，パートごとの要約記述などの手だてにより，日本語訳に頼らずに内容理解ができることを生徒は実感することができた。また，思いどおりに英作文ができたと感じる生徒が増加するなど，自己表現活動に肯定的な生徒が多く見られた。今後は，添削指導の方法や，生徒が書いた英文を口頭で発表するための練習の在り方などをさらに工夫していく必要がある。

エ　愛知県立豊田西高等学校

「英文の内容理解を基に自己表現ができる生徒の育成－インテイクを充実し，英語を話すことへの抵抗感を軽減するための工夫－」をテーマとした。第１学年英語Ⅰの授業において，英語でコミュニケーションを図ることに意欲をもち，学んだことを基に自己表現ができるようにするために，英文の内容理解のための段階的な問いの工夫や，インテイクのための活動及び発表の準備と練習を単元構想の中心として授業実践を行った。

問いの工夫により，生徒は積極的に内容理解に努め，読んだ内容に基づいてまとまった分量の英語を書くことができた。発表については，自分の英文が正しいと自信がもてるように添削をして，練習時間も十分与えることにより，生徒は堂々と話せるようになることが分かった。今回のような言語活動を継続して抵抗感を軽減させながら，生徒同士の意見交換など実際の使用場面に近づけていくことが課題である。

オ　愛知県立一宮高等学校

「速読力・表現力を高める指導方法－オーバーラッピングとシャドーイングを取り入れた授業実践－」をテーマとした。第１学年英語Ⅰの授業において，英語の音読に積極的に取り組み，速読ができるとともに，英語による自己表現にも意欲的な生徒を育成することを目指して，シャドーイングなどの音読練習の手順やスピーチ活動の手順を工夫して単元構想に組み込み，授業実践を行った。

授業中に複数回の音読練習の手順を踏んだ結果，速読のスピードが上がってきた。スピーチについては，抵抗感はあっても英語による表現力が身に付くことを生徒は実感している。今後の課題は，相手に適切に伝えるための能力を伸ばすことである。

カ　愛知県立松平高等学校

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成－『英語の歌』『自己表現活動』『発表』を取り入れた言語活動の工夫－」をテーマとした。英語に興味・関心をもって，意欲的に相手の伝えようとするメッセージを理解し，自分の考えを英語で伝えるなど，積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指して，第１学年では英語の歌の聞き取りや暗唱を行った。第３学年では英語Ⅱの授業で，本文の内容と関連した自己表現活動と生徒間の相互評価を単元構想に取り入れて，授業実践を行った。

歌の聞き取りには生徒は進んで取り組み，歌のメッセージを理解しようとする意欲の高まりが見られた。自己表現活動では，参考資料や例文を示したり個別指導でアドバイスをしたりすることにより，生徒は自分の考えを英語で書くことに自信をもった。発表では，他の生徒から高い評価を得るために意欲的に取り組んだ。思うように表現できない生徒に対しては，教員が根気強く励ます必要がある。

キ　愛知県立長久手高等学校

「英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成－ライティングにおける自己表現活動－」をテーマとした。第３学年ライティングの授業で，様々な場面を設定し，段階的に「書くこと」に慣れていく活動を単元構想に取り入れることにより，生徒が興味をもって多様な英語表現を身に付けることをねらいとして授業実践を行った。

生徒は英語を書くことにはあまり抵抗感をもたずに取り組めた。今後は，より適切に気持ちを伝えたり，正確に表現させたりするための指導方法の検討が必要である。また，今回は「書く」ことから「読む」活動につなげたが，さらにそれを発表するなど「話す」,「聞く」活動にもつなげていきたい。

５　研究の成果と今後の課題

(1) 生徒の意識に応じた授業改善

高等学校第１学年生徒の英語の授業及び言語活動についての意識を調査した結果，英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは，新学習指導要領の目標として掲げられているだけでなく，生徒自身が希望していることが明らかになった。「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の４技能をバランスよく学習したいという意欲ももっている。また，英語Ⅰの授業で，英語による授業を受けているという実感をもっている生徒の割合が高く，教員の授業改善が進んでいることも示された。

今後の課題としては，スピーチなど言語活動の種類によっては抵抗感が見られるので，各校での生徒の実態を踏まえて言語活動の方法を選択したり，生徒が英語を使うための準備や練習を充実したりするなどの工夫が必要である。また，学習到達目標と言語活動のねらいを明確にして，生徒が主体的に取り組むための手だての工夫も必要となる。

必要に応じて今回のようなアンケート調査を行うことは効果的であるが，日々の授業の中での生徒の変容を捉えることも重要である。生徒の活動の様子を観察したり，ワークシートなどの記入状況を点検したりして授業の記録を積み重ねて，各校での課題を明らかにすることにより，評価を含めた授業改善の方向性が定まると考えられる。

(2) 単元構想の活用とＣＡＮ－ＤＯリストの具体例

単元構想については，統一した様式を用いることにより，言語活動を中心とした指導計画を立てて手だてを整理していくことができた。ＣＡＮ－ＤＯの記述も様式に含まれ，１年間の単元構想が積み重なってＣＡＮ－ＤＯリストが完成するという具体例を示すことができた。

課題として，ＣＡＮ－ＤＯの達成度を測るのに適したインタビューテストやスピーチテストなどの評価方法を設定することと，言語活動とその評価が１年間を通してバランスよく行えるような年間指導計画を立てることが挙げられる。

また，各学校の研究授業等で示される一時間当たりの学習指導案だけでは単元全体の計画が把握できず，改善のための検討が難しいことがあるが，単元構想を加えることで実践の全体像が明らかになり,問題点も見付けやすくなる。授業改善のための資料としても単元構想を活用することを提案する。

(3) 単元構想のさらなる工夫

各校で目指す生徒像を設定してその実現に向けた言語活動の工夫を試み，Ｑ－Ａ及びチャートを用いた本文の内容理解や，既習の英文の知識を活用した英作文などの手だてを単元構想に組み込むことができた。授業実践により，日本語訳に頼らず英問英答による内容理解ができることや，自己表現活動において生徒の意欲が高まることなどが示され，今回の実践の手だてが生徒のコミュニケーション能力を育成するのに有効であることが検証された。

生徒は英語で話すことに抵抗感をもっていたとしても，話せるようになりたいと望んでいるというアンケート結果を踏まえ，生徒の実態に応じて自己表現を促すための工夫をして，コミュニケーション能力を育成していく必要がある。今後も，単元構想による学習到達目標の明確化を基に，さらなる授業改善を続けていきたい。

参考文献等

１　単元構想及び言語活動の事例について

○　『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校　外国語）』
　国立教育政策研究所　　教育課程研究センター（2012）

○　『言語活動の充実に関する指導事例集【高等学校版】＜外国語＞』
　文部科学省（2012）

○　『TBLT 導入による英語授業の改善－タスク活動を通したコミュニケーション能力の育成－』
　愛知県総合教育センター（2009）

２　授業実践例及び学習指導案について

○　『新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料３』
　※各校に配付されているＤＶＤの学習指導案が文部科学省ウェブサイトに掲載されている。

○　『Broaden Your Horizons with English! －英語を使って羽ばたく日本人－』
　※各校に配付されているＤＶＤを授業で教材として活用する際に用いることができるワークシート例が文部科学省ウェブサイトに掲載されている。

３　授業での英語使用について

○　『More English in Class－英語で授業を行うための表現集－』
　愛知県総合教育センター（2002）　※解説付きの英語表現集

○　『Classroom English（教室英語集）』
　愛知県総合教育センター（2009）　※一覧表形式の英語表現集

○　北海道旭川北高等学校ウェブサイト「英語の授業」
　※平成 19～21 年度文部科学省ＳＥＬＨｉ指定校。英語による教員指導手順や生徒用予習補助プリント，Positive Feedback 表現例一覧などが公開されている。

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究

－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　1

英語の授業に関する生徒の意識調査

－言語活動を中心とした指導方法の工夫に向けて－

愛知県立成章高等学校　教諭　谷中　美奈子

１　はじめに

高等学校新学習指導要領の実施を目前に控え，外国語（英語）科の指導においては，英語で授業を行うことを基本とし，生徒のコミュニケーション能力の育成を目指した授業改善を進めることが強く求められている。生徒による英語の使用を充実するためには，各科目の目標に合った言語活動を授業に導入していくことが必要である。例えばペア・ワークやグループ・ワークを取り入れることにより，一人一人の生徒に実際に英語を使用する機会を与えることができる。

しかし，生徒がそれらの言語活動に対してどのような気持ちで取り組んでいるのかということについては，普段の授業の中で意識することは少ないのではないか。また，高等学校入学前に中学校でどのような授業を受け，さまざまな言語活動に対してどのような印象をもっているのかということを考えることも少ないであろう。

そこで，中学校及び高等学校において，生徒はどのような英語の授業を受け，どのような印象をもっているのか，また，どのようなことを求めているのかを把握し，今後の授業改善に資することを目的として，アンケート調査を行うことにした。

２　調査の方法

⑴ 調査方法

「英語の授業についてのアンケート」の実施（成章高 p.7 **資料１**）

⑵ 調査対象校及び調査対象者

県内の県立高等学校（６校）普通科第１学年生徒　各校任意の 80 人程度

男子生徒 247 人　女子生徒 229 人　合計 476 人（男女比　男子 51.9％：女子 48.1％）

⑶ 実施期間

平成 24 年６月 19 日(火)から７月 18 日(水)まで

３　調査の結果及び分析

⑴ 中学校での英語の授業について

中学校の英語の授業についてのアンケート結果を以下のようにまとめた。

① 授業は英語で行われていたか

ほぼ 行われていた	半分くらい 行われていた	あまり 行われていなかった	全く 行われていなかった
5.3％	**32.6％**	49.8％	12.2％

② ＡＬＴ（外国語指導助手）と話すことは好きだったか　※話したことがない：3.4％

好きだった	やや好きだった	あまり好きではなかった	嫌いだった
22.5％	**39.9％**	28.2％	5.9％

③ 言語活動について，それぞれ好きだったか

(ｱ) 英語を使ったゲーム（インタビューなどの活動）

(ｲ) 英語の歌

(ｳ) 生徒同士のペア・ワーク（二人での英語を使ったやりとり）

(ｴ) 生徒同士のグループ・ワーク（数人での英語を使ったやりとり）

(ｵ) スピーチ（英語による人前での発表，Show and Tell など）

〔全体〕　※したことがない：(ｲ) 歌 11.8％，(ｴ) グループ・ワーク 5.5％，(ｵ) スピーチ 9.5％

	好きだった	やや好きだった	あまり好きではなかった	嫌いだった
(ｱ) ゲーム	**29.2％**	**39.5％**	23.3％	7.4％
(ｲ) 歌	**27.3％**	**32.4％**	22.5％	6.1％
(ｳ) ペア・ワーク	**18.1％**	**36.6％**	33.8％	9.5％
(ｴ) グループ・ワーク	**25.8％**	**34.9％**	26.5％	7.4％
(ｵ) スピーチ	6.1％	15.8％	**38.7％**	**29.8％**

〔男女別〕　※上段男子，下段女子

	好きだった	やや好きだった	あまり好きではなかった	嫌いだった
(ｱ) ゲーム	29.2％	37.3％	24.7％	8.5％
	29.3％	41.9％	21.8％	6.1％
(ｲ) 歌	26.3％	32.4％	23.5％	8.1％
	28.4％	32.3％	21.4％	3.9％
(ｳ) ペア・ワーク	16.6％	39.3％	32.8％	9.3％
	19.7％	33.6％	34.9％	9.6％
(ｴ) グループ・ワーク	24.3％	33.2％	30.0％	8.1％
	27.5％	36.7％	22.7％	6.6％
(ｵ) スピーチ	6.5％	18.6％	38.9％	29.6％
	5.7％	12.7％	38.4％	30.1％

④ 授業ではどこに重点が置かれていたか

聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	４技能すべて
2.1％	14.1％	15.6％	**23.1％**	**44.8％**

⑤ 授業で英語でのコミュニケーション能力が身に付いたと思うか

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
8.8％	**44.3％**	37.4％	9.5％

⑥ 中学校の英語の授業に満足しているか

満足している	やや満足している	あまり満足していない	全く満足していない
27.3％	**42.0％**	24.8％	5.9％

①に示されるように，中学校で授業が英語で行われていたと回答したのは，「半分くらい」を含めても 37.9 ％であった。高校入学の段階では，６割以上の生徒が英語で授業が行われることには慣れていないことが分かる。

②では，ＡＬＴと話をするのが好きだった生徒が「やや好きだった」を含めて 62.4 ％おり，ＡＬＴが加わった授業を好意的に受けていたと思われる。また，「嫌いだった」と答えた生徒も 5.9 ％と少なく，ＡＬＴと話すことにはあまり抵抗感をもっていなかったことが分かる。

③の言語活動について，全体として最も好まれた言語活動はゲームであり，「やや好きだった」を含めると 68.7 ％の生徒が英語を使ったゲームに好意的であった。一方，多くの生徒から「嫌いだった」とされたのがスピーチで，「あまり好きではなかった」を含めると 68.5 ％の生徒が抵抗感をもっていたようである。ペア・ワークについては 54.7 ％，グループ・ワークについては 60.7 ％の生徒が「やや好きだった」を含めて「好きだった」と回答している。全体として個人で取り組む活動よりも集団で活動するのを好んだようである。また，男女別に見てみると，女子の方がゲームやグループ・ワークといった人数の多い集団で活動することを好む傾向が見られる。

④では，４技能がバランスよく指導されていたという回答が４割以上あり，次いで，「書くこと」「読むこと」「話すこと」の順に重点が置かれていたことが分かる。「聞くこと」に重点が置かれていたという回答は非常に少なかった。

⑤からは，授業でコミュニケーション能力が身に付いたと感じている生徒が「やや身に付いた」を含めると５割以上である。⑥では中学校の英語の授業について，「やや満足」を含めると７割近くが満足と回答している。多くの生徒は授業でコミュニケーション能力を身に付けた実感があり，満足している生徒も多い。

⑵ 高等学校での英語の授業について

高等学校の英語の授業についてのアンケート結果を以下のようにまとめた。

① 授業（英語Ⅰ）は英語で行われているか

ほぼ行われている	半分くらい行われている	あまり行われていない	全く行われていない
53.6％	**32.6％**	12.0％	1.9％

② ＡＬＴ（外国語指導助手）と話したいか

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
16.8％	**39.1％**	36.8％	7.4％

③ 言語活動をしたいか

⑺ 英語を使ったゲーム（インタビューなどの活動）

⑴ 英語の歌

⑼ 生徒同士のペア・ワーク（二人での英語を使ったやりとり）

⑽ 生徒同士のグループ・ワーク（数人での英語を使ったやりとり）

⑻ スピーチ（英語による人前での発表，Show and Tell など）

〔全体〕

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
(ｱ)ゲーム	**22.7％**	**37.8％**	30.0％	9.5％
(ｲ)歌	**24.8％**	**29.0％**	28.4％	17.9％
(ｳ)ペア・ワーク	**15.3％**	**34.0％**	37.2％	13.2％
(ｴ)グループ・ワーク	**20.2％**	**34.7％**	32.6％	12.6％
(ｵ)スピーチ	5.5％	11.1％	**42.2％**	**40.3％**

〔男女別〕　※上段男子，下段女子

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
(ｱ)ゲーム	23.9％	34.8％	29.2％	12.2％
	21.4％	41.1％	30.1％	6.6％
(ｲ)歌	24.7％	27.9％	28.3％	19.0％
	24.9％	30.1％	28.4％	16.6％
(ｳ)ペアワーク	14.2％	36.0％	37.7％	12.2％
	16.6％	31.9％	36.7％	14.4％
(ｴ)グループ・ワーク	20.7％	32.0％	34.8％	12.6％
	19.7％	37.6％	30.1％	12.7％
(ｵ)スピーチ	7.3％	13.4％	41.7％	37.7％
	3.5％	8.7％	42.8％	43.2％

④ 授業で重点を置いてほしいことは何か

聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	4技能すべて
6.1％	**21.0％**	5.0％	11.6％	**56.3％**

⑤ 授業で英語でのコミュニケーション能力が身に付けたいか

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
52.7％	**33.0％**	11.1％	2.1％

⑥ 高等学校の英語の授業に満足しているか

満足している	やや満足している	あまり満足していない	全く満足していない
29.0％	**49.2％**	16.0％	4.2％

⑦ ⑥で「あまり満足していない」，「全く満足していない」で回答した場合，その理由は何か

文法の学習が多い	日本語に訳す学習が多い	英語を使う活動が少ない
4.2％	5.2％	6.3％
授業内容が分からない	毎回同じような授業で単調	教材に興味がもてない
41.7％	15.6％	15.6％

①からは，英語による授業は，「半分くらい行われている」を含めると 86.2 ％であり，大半の生徒は英語Ⅰの授業が英語で行われているという実感をもっていることが分かる。中学校では４割に満たない生徒しか英語で行う授業を受けていなかったことと合わせて考えると，生徒は戸惑いや違和感をもたずに授業に臨んでいるのか，授業に対する不満はないのか，という点が心配される。しかし，⑥の授業に対する満足度を見ると，「やや満足している」を含めて満足していると回答した生徒は８割近くであり，中学校の授業よりも満足度は高い。よって，全体としては英語で行う授業への抵抗感はあまりないと考えられる。逆に，授業に満足していないと回答した約 20 ％の生徒のうち，「授業内容が分からない」とした生徒が一番多く約４割，次いで「毎日同じような授業で単調」や「教材に興味がもてない」という回答が見られた。

次に③の言語活動については，全体の傾向は中学校についての回答とほとんど変わっていない。最も好まれている活動は高等学校でもゲームであるが，中学校の時のようには好まれていない。おそらく心身の成長とともにゲームへの意識も変化したのであろう。また，顕著なこととして，スピーチについて「全くしたくない」と回答した生徒が約４割となっており，「あまりしたくない」を含めると８割以上の生徒が望んでおらず，中学校の時よりもさらに望まれない言語活動となっている。要因として，人前で発表することに慣れていなかったり，スピーチをする英語の正しさに自信がもてなかったりすることなどが考えられる。

歌が歌いたいかどうかについては，「そう思う」と回答した生徒が言語活動の中で最も多く 24.8 ％であるが，「全く歌いたくない」と回答している生徒も 17.9 ％となっており，生徒によって好き嫌いが表れやすい活動であることが分かる。言語活動についての男女別の傾向についても，中学校の時とあまり変わらないが，スピーチについては女子が敬遠する傾向が顕著になっている。男子が「あまりしたくない」を含めてスピーチをしたくないのが 79.4 ％であるのに対し，女子は 86.0 ％となっている。

②のＡＬＴについては，「話したいとやや思う」を含めると，５割以上の生徒が話したいと思っている。言語活動にＡＬＴとのやり取りなどを組み込んでいくことにより抵抗感を減らすことが期待される。特にスピーチについては効果的に組み込んでいきたい。

④の授業の重点項目については，「４技能をバランスよく」学びたいと思っている生徒が５割を超えている。また，「話すこと」，「書くこと」といった英語による表現に重点をおいてほしいと考える生徒は多いが，「聞くこと」，「読むこと」といった英語による理解については少ない。⑤の結果からは，９割近くの生徒がコミュニケーション能力を「身に付けたい」と思っていることが分かる。授業には生徒のコミュニケーション能力を高めるための手だてが必要であることが，生徒自身の声から読み取れる。

４　今後の課題

教員が生徒の実態に合わせて英語で授業を行うことを基本として，生徒の言語活動に４技能をバランスよく取り入れる必要がある。また，英語による表現の能力を高めるために「話すこと」「書くこと」を単元構想に組み込み，計画的に指導していくことで，生徒が望むコミュニケーション能力の育成ができる。これらを踏まえて，指導方法の工夫を重ねる必要がある。

今回の調査結果ではスピーチは不人気であったが，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し，表現の能力を高める点で重要な活動である。生徒の特性や能力に応じた取り組みやすい

テーマを設定し，分かりやすく原稿作成手順を示した上で，十分な練習時間を与えたり個人指導をしたりして，生徒が興味をもって取り組めるような手だてを工夫することが必要である。さらに，話し手としてだけでなく，聞き手としての留意点を具体的に示すなど，発表しやすい雰囲気づくりも大切であると考える。

また，今回は高等学校第１学年生徒の授業に対する意識を調べたが，いずれの学年のどの科目についても，生徒が授業を受けて学習目標を達成できたかどうかを振り返らせ，教員もその結果を踏まえて授業改善の取組を継続していく必要がある。また，生徒の意識や変容を捉えるためにはアンケートも有効であるが，教室での日々の生徒の表情や言動の変化にも気を配り，生徒を直接指導する教員にしか見付けることができない変化を見逃さないようにしたい。

５　おわりに

新学習指導要領の実施に向けて，各校でさまざまな取組がなされている。その際には，一緒に教える教員の共通理解や，指導と評価の一体化を忘れないようにしたい。生徒のコミュニケーション能力やコミュニケーションを図ろうとする態度の育成は，教員の側の団結があってこそ可能なのであろう。生徒の実態を捉えて３年間でどのように成長させるのか，更に授業改善を行いながら，本校の生徒の能力伸張のために他の教員とともに尽力していきたい。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年３月告示
○　文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』
○　愛知県総合教育センター（2005）『授業の手引き　高等学校　英語』
○　国立教育政策研究所　教育課程研究センター『評価基準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校　外国語）』

【資料１　英語の授業についてのアンケート】

○質問は問１から問 23 まであります。
○回答はすべてマークカードにＨＢの鉛筆かシャープペンシルでマークしてください。
○各質問についてマークするのは一つだけです。
○問 23 で「⑦その他」と答えた場合は，マークカードの⑦にマークするとともに，この用紙の指示された欄に記述してください。

問１　性別を答えてください。
　①　男　　②　女

◆問２から問 11 までは中学校での英語の授業についての質問です。

問２　授業は英語で行われていましたか。
　①ほぼ英語で行われていた　　②半分くらい英語で行われていた
　③あまり英語では行われていなかった　　④全く英語では行われていなかった

問３　ＡＬＴ（外国語指導助手）と話すことは好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤話したことがなかった

問４　英語を使ったゲーム（インタビューゲームなどの活動）は好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤したことがなかった

問５　英語の歌を歌うことは好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤歌ったことがなかった

問６　生徒同士のペア・ワーク（二人での英語を使ったやりとり）は好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤したことがなかった

問７　生徒同士のグループ・ワーク（数人での英語を使ったやりとり）は好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤したことがなかった

問８　スピーチ（英語による人前での発表，Show and Tell など）は好きでしたか。
　①好きだった　②やや好きだった　③あまり好きではなかった　④嫌いだった
　⑤したことがなかった

問９　授業ではどこに重点が置かれていたと思いますか。
　①英語を聞くこと　②英語を話すこと　③英語を読むこと　④英語を書くこと
　⑤英語を聞くこと，話すこと，読むこと，書くことをバランスよく

問 10　授業で英語でのコミュニケーション能力が身に付いたと思いますか。
　①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 11　中学校の英語の授業に満足していますか。
　①満足している　②やや満足している　③あまり満足していない　④全く満足していない

◆問 12 から問 23 までは<u>高等学校での英語の授業</u>についての質問です。

問 12　「英語Ⅰ」の授業は英語で行われていますか。

①ほぼ英語で行われている　②半分くらい英語で行われている

③あまり英語では行われていない　④全く英語では行われていない

問 13　「オーラル・コミュニケーションⅠ」の授業は英語で行われていますか。

①ほぼ英語で行われている　②半分くらい英語で行われている

③あまり英語では行われていない　④全く英語では行われていない

問 14　ＡＬＴ（外国語指導助手）と話したいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 15　英語を使ったゲーム（インタビューゲームなどの活動）をしたいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 16　英語の歌を歌いたいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 17　生徒同士のペア・ワーク（二人での英語を使ったやりとり）をしたいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 18　生徒同士のグループ・ワーク（数人での英語を使ったやりとり）をしたいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 19　スピーチ（英語による人前での発表，Show and Tell など）をしたいですか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 20　授業で重点を置いてほしいことは何ですか。

①英語を聞くこと　②英語を話すこと　③英語を読むこと　④英語を書くこと

⑤英語を聞くこと，話すこと，読むこと，書くことをバランスよく

問 21　授業で英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいと思いますか。

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④全くそう思わない

問 22　高等学校の英語の授業に満足していますか。

①満足している　②やや満足している　③あまり満足していない　④全く満足していない

問 23　<u>問 22 で③または④と回答した人のみ回答してください。</u>

なぜ英語の授業に満足していませんか。最も当てはまるものを一つだけ回答してください。

①文法の学習が多いから　②日本語に訳す学習が多いから

③英語を使う活動が少ないから　④授業の内容が分からないから

⑤毎回同じような授業で単調だから　⑥教材に興味がもてないから

⑦その他

※「⑦その他」と答えた方は，下の（　）内に理由を記述してください。

（　　）

アンケートにご協力いただき，ありがとうございました。

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究

－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　２

単元構想とＣＡＮ－ＤＯリストによる授業改善の工夫

愛知県立御津高等学校　教諭　鈴木　稔

１　はじめに

本校は平成 23 年度から 3 か年，愛知県教育委員会より県立学校アクティブチャレンジ事業（魅力ある授業づくり部門）研究校として指定を受けた。この事業では英語教育の先進的実践が行われている高校を視察し，大学との連携を図るなどして英語教授法の研究を深めるとともに，実践することで授業改善に向けた取組を行っている。また，平成 16 年度から平成 18 年度まで文部科学省よりＳＥＬＨｉ（スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール）の指定を受けた。現在もＳＥＬＨｉでの実践により蓄積されたノウハウを再検証しながら，更なる授業改善に取り組んでいる。

２　研究の目的

各単元の構想からＣＡＮ－ＤＯリストを作成し，年間学習指導計画と関連付けることで，各単元の位置付けを明確化できるとともに，各単元で行う言語活動をバランスよく考えることができる。そのことにより，年間を通じて４技能のバランスの取れた授業へと改善していくことができる。本研究では，単元構想とＣＡＮ－ＤＯリスト作成の過程を明らかにしていく。それを年間学習指導計画の中に組み込みながら普遍化・一般化し，各校で活用可能なものとしていきたい。

３　研究の方法

本校英語科の授業において，一つの単元における単元構想とＣＡＮ－ＤＯの設定を，以下の手順で行うこととした。

(1) 教材研究により単元の概要を把握する。

(2) 単元の目標を設定する。

(3) 単元の評価規準を設定する。

　ア　４観点のそれぞれについて評価規準を設定する。

　イ　「表現の能力」「理解の能力」の部分がその単元のＣＡＮ－ＤＯとなる。

(4) ＣＡＮ－ＤＯに基づく活動を設定する。

(5) 設定した言語活動を含めた指導計画を作成する。

４　研究の実際

本校英語科第３学年の総合英語について，まず単元構想を作成し，次に各単元の評価規準と活動例を年間学習指導計画に組み込んでＣＡＮ－ＤＯリストを作成した。以下，単元構想の作成例と年間学習指導計画のＣＡＮ－ＤＯリスト関連部分を順に示す。

(1) 単元構想

1　単元名　Function 3: What Do You Think of Cloning Your Pet?

2　単元の目標

・習った項目を積極的に用いて，ペア・ワーク，グループ・ワークにおいて会話を続けようとしている。
・クローニングについての他の例を考えながら話し合い，話をまとめることができる。
・登場人物になりきってイントネーション，速さ，アクセントに気を配りながら感情豊かに演じることができる。
・理解した内容について，自分の言葉で他者に説明することができる。
・まとまった量の文章を読み，その要点を把握することができる。
・「賛成する」「反対する」「意見を述べる」などの表現や，使用する場面を理解している。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	**外国語表現の能力** **CAN－DO**	**外国語理解の能力** **CAN－DO**	言語や文化についての知識・理解
習った項目を積極的に用いて，ペアワーク，グループワークにおいて会話を続けようとしている。	**クローニングについての他の例を考えながら話し合い，話をまとめることができる。**（A） **登場人物になりきってイントネーション，速さ，アクセントに気を配りながら感情豊かに演じることができる。**（B） **理解した内容について，自分の言葉で相手に説明することができる。**（C）	**まとまった量の文章を読み，その要点を把握することができる。**（D）	「賛成する」「反対する」「意見を述べる」などの表現や，使用する場面を理解している。

4　単元の概要と言語活動

生物工学が進歩し，身近な動物のクローニングの可能性も出てきた。本文からクローニングの語源やソメイヨシノの起源，クローニングの功罪について述べられている。それらを読み取り，その内容を相手に伝える。また，「賛成する」「反対する」「意見を述べる」などの表現を学び，それらを用いてクローニングについての会話を続け，意見を交換し合う力を養う。

5　単元の指導計画（全４時間）　※1時間：50分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第1次 (1)	【pre-reading】 ・プリントの英文を読み，クローニングについて考えるきっかけとする。 ・「賛成」「反対」「意見を述べる」ことに関する表現の意味と用法を学習する。	・生徒に質問を投げかけ，答えさせることで興味・関心を喚起する。 ・それぞれの表現を示し，意味を確認させ，使用場面を意識させる。
第2次 (2)	【while-reading】 ・本文を読み，教員の質問に答える。	・全員を起立させ，解答できたら座らせる。不正解の場合はヒントになる質問を続け，正解へと導くように心がける。

	・ペアを作り，質問シートを用いて互いにQ－Aを行う。 ・ペアを作り，Carol と Koji の役割に別れてペア・リーディングを行う。 ・クローンのメリット，デメリットをワークシートを用いて明らかにする。 ・ペアを作り，clone という語の語源やソメイヨシノの期限を相互のQ－Aで確認する。	・教員が準備した質問以外にも自分で質問を作らせる項目も設ける。 ・「賛成」「反対」「意見を述べる」場面を意識させ，ふさわしい口調や間の取り方，イントネーションを工夫して読ませる。 ・頃合いを見て生徒に発言させ，考えを共有させる。 ・うまくQ－Aができたペアを指名し，発表させる。
第３次 (1)	【post-reading】 ・クローンのメリット，デメリットを再確認する。 ・ペアでジャンケンをし，クローンに対して賛成，反対のそれぞれの立場から意見を交換する。 ・全体の場で発表をする。 ・教科書以外のクローニングの例を考え，ペアで考えをシェアする。 ・教員の発問に答える形でクローニングの例を答える。 ・ワークシートを用いて例文を暗唱する。	・Q－Aで生徒に自由に答えさせる。 ・机間指導をして観察をし，うまくQ－Aを行っているペアを選ぶ。 ・いくつかのペアを指名し，発表させる。 ・例にたどり着けるようにヒントを与える。 ・全体に質問を投げかけ，例を挙げさせる。 ・Read & Look up で暗唱させる。

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　クローニングについての他の例を考えながら自分の意見を相手に伝えることができる。

ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験に基づき，情報や考えなどについて，話し合うなどして結論をまとめる。　（コミュニケーション英語Ⅱ２(1)）

○　登場人物になりきってイントネーション，速さ，アクセントに気を配りながら感情豊かに演じることができる。

イ　説明，評論，物語，随筆などについて，速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また，聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
（コミュニケーション英語Ⅱ２(1)）

７　言語活動の充実の工夫

【単元の評価規準達成のための活動】

・初見の英文を読み，それを伏せた状態で内容に関するQ－A（D）
・クローニングのメリット・デメリットを読み取り，内容を相手に伝える活動（C，D）
・メモ等事前の準備無しで，自分の考えを相手に伝える活動（A，C）
・「賛成」「反対」等の表現を適切に使用して自分の意見を相手に伝える活動（A，C）
・クローニングの本文以外の例を考え，相手に伝える活動（A）
・登場人物の感情を想像し，それにふさわしい口調で音読をする活動（B）
・登場人物になりきって暗唱する活動（B）

(2) 年間のＣＡＮ－ＤＯリストの作成と年間指導計画との関連付け

アと同様の作業を他の単元についても行い,ＣＡＮ－ＤＯの部分を年間学習指導計画にはめ込んで,１年間を通した学習到達目標を明確にした（御津高 p.5 **資料１**）。

５　おわりに

今回，単元構想からＣＡＮ－ＤＯリスト作成，さらに年間指導計画へのはめ込みという一連の作業をしてみて,年間を通して生徒に付けさせるべき力をより明確にイメージをすることができた。また，一年の指導において各単元がどのような位置付けにあるか，単元同士がどのような関連をもつのかということを考えることで，より有機的，複合的な視点で教科指導を捉えることもできた。４技能のバランスが取れた指導計画を立てていくために，単元構想とＣＡＮ－ＤＯリストを関連付けることは有効である。

今後の課題としては，以下のことが挙げられる。本研究では一つの学年の１年間のＣＡＮ－ＤＯリストを作成し，年間指導計画に盛り込むにとどまったが，３年間のＣＡＮ－ＤＯリスト作成と年間指導計画への盛り込みをしていく必要がある。そのためには学年の枠を超え，英語科の全教員の協力体制の元でリスト作成に取り組む必要がある。

新学習指導要領が完全実施される直前である現在，日本の英語教育は転機を迎えている。その中でＣＡＮ－ＤＯリストの作成は，我々英語教員に対してより高い視点から広い視野で英語教育を捉える機会となる。本研究が各校におけるＣＡＮ－ＤＯリスト作成の一助となることを願ってやまない。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年３月告示
○　文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』
○　愛知県総合教育センター(2005)『授業の手引き　高等学校　英語』

【資料１　年間学習指導計画（各単元の評価規準と活動例）】

<table>
<tr><th rowspan="3">学期</th><th rowspan="3">月</th><th rowspan="3">編</th><th rowspan="3">学習内容
（単元・教材）</th><th rowspan="3">配当時数</th><th colspan="4">評　価　規　準</th></tr>
<tr><th>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</th><th>外国語表現の能力
（CAN－DOリスト）</th><th>外国語理解の能力
（CAN－DOリスト）</th><th>言語や文化についての知識・理解</th></tr>
<tr><th colspan="4">評価規準達成のための活動</th></tr>
<tr><td rowspan="4">1</td><td rowspan="2">4</td><td rowspan="4">7</td><td>In Search of Light

ゴッホの作品とあわせて本文を読み，浮世絵が与えた影響や作品の由来を理解する。</td><td rowspan="3">13</td><td>・習った項目を用いてペアワーク，グループワークにおいて，会話をしようとしている。</td><td>・ゴッホの人生について理解した項目を，メモを見ながら相手に伝えることができる。

・自分の考えを，自分の言葉を用いて文章に再構成することができる。</td><td>・ゴッホの人生について，書き手の意図をくみ取りながら理解することができる。</td><td>・S+V+O+p.p，動名詞の意味上の主語の意味や用法を理解している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td colspan="4">・内容理解のためのQ－A活動
・理解した内容を伝える活動
・理解した内容を文章にまとめ直す活動
・文の内容を理解する活動
・理解した内容を，自分の言葉で再構成する活動</td></tr>
<tr><td colspan="4">一学期中間考査</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6</td><td rowspan="3">8</td><td>Will This Be the Bio-Century?

遺伝子組み換え食品について興味をもち，調べる。</td><td rowspan="2">11</td><td>・習った項目を用いてペアワーク，グループワークにおいて，会話をしようとしている。</td><td>・遺伝子組み換え食品について理解した項目を，メモを見ながら相手に伝えることができる。</td><td>・相手の意見を聞いたり読んだりして，互いの考えを深めることができる。</td><td>・If S were to ，If S should，will have p.p の意味や用法，使用する場面を理解している。</td></tr>
<tr><td colspan="4">・内容理解のためのQ－A活動
・理解した内容を伝える活動
・既習項目を用いて会話をする活動
・文の構成を理解する活動
・構成を意識してまとまりのある文章を書く活動
・構成を意識して自分の考えを相手に伝える活動</td></tr>
<tr><td colspan="4">一学期期末考査</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2</td><td>7</td><td rowspan="4">9</td><td>Reading
Patch Adams

異色の医師の生き方を通して医療の現状と問題点を考え，意見を交換する。</td><td rowspan="3">14</td><td>・習った項目を用いてペアワーク，グループワークにおいて，会話をしようとしている。</td><td>・CDを聞いて，その内容について既習項目を活用してその概要を書き直すことができる。
・医療の問題について理解した項目を，メモを見ながら相手に伝えることができる。</td><td>・まとまった量の文章を読んで，その概要を把握することができる。</td><td>・仮定法過去，仮定法過去完了の意味や用法，使用する場面を理解している。</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="4">・内容理解のためのQ－A活動
・理解した内容を伝える活動
・既習項目を用いて会話をする活動
・聞いたことの概要を文章にまとめる活動
・仮定の話を相手に伝える活動
・仮定法を用いた文を含む文章を書く活動</td></tr>
<tr><td>10</td><td colspan="4">二学期中間考査</td></tr>
</table>

		10	Function 3 What Do You Think of Cloning Your Pet? ペットという身近な話題から，賛成反対を述べる表現を習得する。	4	・習った項目を積極的に用いてペアワーク，グループワークにおいて，会話を続けようとしている。	**・クローニングについての他の例を考えながら自分の意見を相手に伝えることができる。** **・登場人物になりきってイントネーション，速さ，アクセントに気を配りながら感情豊かに演ずることができる。** **・理解した内容について，自分の言葉で他者に説明することができる。**	**・まとまった量の文章を読み，その要点を把握することができる。**	・「賛成する」「反対する」「意見を述べる」などの表現や，使用する場面を理解している。
		11			・内容理解のためのQ－A活動 ・理解した内容を伝える活動 ・既習項目を用いて会話を続ける活動 ・感情豊かに音読をする活動 ・登場人物の感情を想像して暗唱する活動			
		11	Reading for Pleasure The Pianist 登場人物の気持ちや性格を推測しながらストーリーを味わう。	8	・習った項目を積極的に用いてペアワーク，グループワークにおいて，会話を続け，相手の考えを引きだそうとしている。	**・読んで理解をした内容に関して，自分の感想や考えを交えながら相手に伝えることができる。** **・自分の感想や考えを，読みやすい文構成を意識しながら文章にまとめることができる。**	**・小説の一場面を，状況や登場人物の心情を考え，理解しながら読むことができる。**	・小説ならではの省略，婉曲（えんきょく），指示語，会話表現について理解している。
					・内容理解のためのQ－A活動 ・感想や考えを交えて内容を伝える活動 ・感想や考えを文章にまとめる活動 ・心情や状況を内容を味わいながら読む活動 ・積極的に相手の考えや感想を聞き出す活動			
			二学期期末考査					
3		12	英語総合演習	12	・難しい箇所があっても，前後の文脈から内容を想像で補いながら関心をもって読み，理解しようとしている。	**・理解した内容を要約し，150～200語程度の文章にまとめることができる。** **・まとめた要約文を見ずに，同様の内容を話すことができる。** **・相手の要約を聞いてその内容に関する質問をすることができる。**	**・600～800語の初見の長文を読み，内容を的確に読み取ることができる。** **・1分間に150語程度で読まれる英文を聞き，内容を的確に捉えることができる。**	・言語的，文化的な既習事項を活用している。
					・内容理解のためのQ－A活動 ・感想や考えを交えて，内容を効果的に伝える活動 ・感想や考えを，構成を考えながら文章にまとめる活動 ・心情や状況を内容を味わいながら読む活動 ・積極的に相手の考えや感想を聞き出す活動 ・CDを聞いて理解した内容を要約して書く活動			
			学年末考査					

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究

－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　３

英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成

－「書くこと」と「話すこと」を関連付けた言語活動の工夫－

愛知県立昭和高等学校　教諭　名和　孝

１　はじめに

平成 20 年に本校に赴任したことを機に，英語Ⅰ・Ⅱやリーディングの授業で教科書本文を全て日本語に訳させる従来の指導を改めて，英問英答や True or False による内容把握を中心に据えた授業展開を試みてきた。さらに，口頭での追加・補足的な英問英答についても工夫してきた。これは，教員との英語でのやり取りを通して,生徒のコミュニケーション能力を向上させたいと考えたからである。

しかし，教員と生徒の間のやり取りだけでは英語を使う生徒の数は限られ，話す時間も短い。生徒のコミュニケーション能力を伸ばすためには新たな手だてが必要であると感じるようになった。そこで，本研究では，単元構想を工夫することによって生徒が英語を使う時間を確保し，読んだ英文の内容について自分の考えや意見をもたせ，それを英語で伝え合う活動を充実させれば，生徒の英語による表現の能力を育成できると考え，具体的な指導の在り方を探ることとした。

２　生徒の実態

本校第２学年生徒 117 名に対し,英語の授業への希望や言語活動に対する意識について調査した(平成 24 年７月実施)。

①英語の授業で重点を置いてほしいこと。

聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	4技能をバランスよく
6.3%	**21.6%**	16.2%	11.7%	**44.1%**

②英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいですか。

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
44.1%	**48.6%**	6.3%	0.9%

③生徒同士のペア・ワークをしたいですか。

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
16.2%	30.6%	**43.2%**	**9.9%**

④生徒同士のグループ・ワークをしたいですか。

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
24.3%	**34.2%**	28.8%	12.6%

⑤スピーチをしたいですか。

そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
2.7%	21.6%	**49.5%**	**26.1%**

①の結果から,英語の授業において４技能をバランスよく身に付けたいと考える生徒が４割を超え，最も多いことが分かる。次いで「話すこと」に重点を置いてほしいと考える生徒が約２割となっている。また，②の「コミュニケーション能力を身に付けたいか」という質問に対しては,「そう思う」「ややそう思う」という肯定的な回答をした生徒が９割を超えている。４技能をバランスよく身に付け，コミュニケーション能力を向上させたいという生徒の希望が読み取れる。

③，④，⑤の結果からは，言語活動の内，ペア・ワークとスピーチに対しては抵抗感をもっている

生徒が多く，グループ・ワークにはやや意欲的であることが分かる。また，４技能のそれぞれについての意識を尋ねたところ,「得意である」と回答した生徒の割合は,「読むこと」(45.0%),「聞くこと」(37.8%),「書くこと」(31.5%),「話すこと」(19.8%) の順であった。生徒は英語を理解することに比べて英語で表現することには自信がもてないようである。よって，コミュニケーション能力を身に付けたいという生徒の希望をかなえるためには，４技能のバランスを考慮して言語活動に意欲的に取り組ませる工夫が必要である。

３　研究の目的

「読むこと」が中心であった英語Ⅱの授業において，生徒が自信をもてていない「書くこと」と「話すこと」の活動もバランスよく行うことによって，生徒が抵抗感をもつことなく，相手に分かりやすい英文で自分の考えや意見を伝え合うことができるようにしたい。

【目指す生徒像】
自分の考えや意見を，相手に分かりやすい英語で伝え合うことができる生徒

４　研究の仮説

研究の目的を達成するために，次のような仮説を立て検証することにした。

仮説１：フローチャートと関連付けた英問英答を中心とする授業展開を工夫すれば，生徒は日本語訳に頼らずに本文の概要を把握することができるだろう。
仮説２：英文についての自分の考えを伝え合う言語活動を工夫して単元構想に組み込めば，相手に分かりやすい英文を書いて伝え合うことができるだろう。

５　研究の方法

研究の仮説を検証するために，第２学年英語Ⅱの授業において，以下の方法で実践を行うことにした。

(1) 英問英答を中心とした授業展開に関する工夫の手だて

ア　補充プリントや授業プリントを用いた本文を読み切るための支援…手だてＡ
　(ｱ) 文法事項は例文を用いて使用場面を示し，英文を書くことにより定着を図る。
　(ｲ) 単語や熟語については，内容理解のためにあらかじめ知っておくことが必要なものを示す。
イ　教員－生徒間の英問英答…手だてＢ
　(ｱ) 本文理解のための英問に答えさせる。
　(ｲ) 内容整理のためのフローチャートを完成させる。
　(ｳ) 生徒の考えを引き出す英問に答えさせる。
ウ　パートごとの要約文の記述・・・手だてＣ

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動の工夫の手だて

ア　単元全体について自分の考えの記述・・・手だてＤ
イ　グループ・ワークでの自分の意見の発表・・・手だてＥ
　(ｱ) グループ・ワークを進める英語表現を示す。
　(ｲ) 評価のポイントを示した上で，評価シートを用いて相互評価させる。

(3) 検証方法

ア　アンケートによる生徒の意識の変化の把握
イ　生徒の様子や反応，書いた英文や発表の内容の分析

(4) 単元構想

1　単元名　　Lesson 6　A Man Who Saved the World

2　単元の目標

・ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動に積極的に取り組んでいる。
・読んだ内容について，自分の意見を書いてまとめ，聞き手に分かりやすく伝えることができる。
・本文についてのフローチャートを作成して概要を把握することができる。
・仮定法の用法や理由を表す表現について理解している。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動に積極的に取り組んでいる。	読んだ内容について，自分の意見を書いてまとめ，聞き手に分かりやすく伝えることができる。	本文についてのフローチャートを作成して概要を把握することができる。	仮定法の用法や理由を表す表現について理解している。

4　単元の概要と言語活動

ベトナム・ハノイで発見された謎の新種ウィルス（ＳＡＲＳ）に対し，自らの命を賭けて闘ったイタリア人医師カルロ・ウルバニ氏についての文章である。ウルバニ氏の行動や医者としての信念を読み取り，彼の立場ならばどうするか自分の考えを書いて伝え合う活動を行い，英語で相手に分かりやすく伝える力を養う。

5　単元の指導計画（全６時間）　※1時間：65分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第1次 （1）	【イントロダクション】 ・教師のオーラル・イントロダクションを聞いて，ＳＡＲＳについての知識を得る。 ・本文で扱われる文法事項を用いた英文を書くことで，文の構造と意味を理解する。	・単元に興味をもたせるようなオーラル・イントロダクションを行う。 ・文法事項などは例文を示し，使用場面を意識させる（**資料８　補充プリント**）。手だてＡ
第2次 （4）	【内容理解：パートごとに学習する】 ・教員から発問される段落ごとの質問に答え，フローチャートを完成させることにより，本文の概要を把握する。 ・各パートの要約を３文程度の英語で書く。 ・各パートの新出表現などを含む英文についての説明を聞いて理解する。	・段落ごとに順に口頭での発問を行い，生徒の答えを引き出しながら，本文の概要を把握させる（**資料９　授業プリント**）。手だてＢ ・各段落のトピック・センテンスを選んで要約をまとめさせる。手だてＣ ・新出表現や文構造などを簡潔に解説する。
第3次 （1）	【自分の考えの発表】 ・自らを主人公と仮定し自分ならどうするか，その理由も含め，書いてまとめる。 ・書いたものをペアで発表練習し，次に，グループ内で発表し，お互いを評価し合う。最後に代表者が全体の前で発表する。	・仮定法や，理由を述べる表現を活用するよう指導する（**資料 10　“Write your idea!”プリント**）。手だてＤ ・評価のポイントを事前に説明し，発表の際に意識させる（評価シート）。手だてＥ

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　まとまった量の説明文を聞いたり読んだりして，概要や要点を的確に理解することができる。

イ　説明や物語などを読んで，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。また，聞き手に伝わるように音読する。　（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

○　聞いたり読んだりした内容について，自分の意見とその理由を聞き手に伝えることができる。

ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりする。　（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

７　言語活動の充実の工夫

４技能のバランスを考慮した指導手順の詳細は以下のとおりである。

【内容理解】

＜予習＞

⇩ ・本文をノートに写し，授業の前に読んでおく。意味の分からない単語は辞書で調べて書く。

＜Pre-Reading＞

⇩ ・前時に生徒が作成した要約を２～３例読みあげて，前時の内容を思い出させる。
・新出単語・熟語の発音やアクセントを確認する。

＜While-Reading＞

⇩ ・本文をＣＤで聞き，教科書を目で追いながら，声に出さずに読む。
・段落ごとに教員の英問に答えながらフローチャートを完成させて概要を把握する。また，生徒の考えを引き出す英問に答えることでより深く内容を理解する。

＜Post-Reading＞

⇩ ・パートの要約を３文程度でまとめ，その後教員のまとめた要約を聞く。
・本文の音読（センス・グループごとにＣＤの後に続いての音読，それ以外にバズ・リーディング，ペア・リーディング，オーバーラッピングなどから選んで行う）。

【自分の考えの発表】

＜Write your idea!＞

⇩ ・「ウルバニ医師は危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどうすると思いますか」という問いに対する自分の考えを５～６文の英語で書く。
・書き出しは，If I were in Dr. Urbani’s place, ～　とするよう指示をする。
・教員が作成した例文を紹介し，作成の際のポイントを伝える。

＜Presentation＞

・教員がクラス全体の前で例文を発表した後，発表（評価）の３つのポイントを次のように伝える。
「声の大きさ・話し方」「話の内容が理解できる」「アイコンタクト・熱意」
・作成した英文をペアで読み合い，修正を加えて，発表の練習をする。
・グループ内発表（５～６名）の手順を説明した後，司会の合図で発表を行い，相互評価する。
・各グループの代表者１人が全体の前で発表する。

６　研究の実際と考察

(1) 英問英答を中心とした授業展開

ア　補充プリントや授業プリントの活用　**手だてＡ**

補充プリントは単元全体の文法事項やイディオムをまとめたもので，単元の最初の授業で配付した。その中の三つの文法事項は既に既習のものであり，復習として簡単な説明を加え，この文法事項を使った英作文を行うことにより定着を図った。生徒は授業に入る前に予習として本文を読んでくることになっており，その際に，補充プリントを活用して独力で読み切ることを狙っている。

授業プリント（**資料１**）はパートごとに作成したもので，新しいパートに入る時点で配付した。その中の【Words & Phrases】では，生徒が意味を取りにくい，あるいは意味を取り違えそうな単語や語句を取り上げ説明してある。予習として読んだ内容を確認するためのものと位置付けている。

これらのプリントを作成したのには，授業中に文法事項やイディオム，単語を細かく説明する時間を省き，内容理解や言語活動の時間を確保する目的もある。

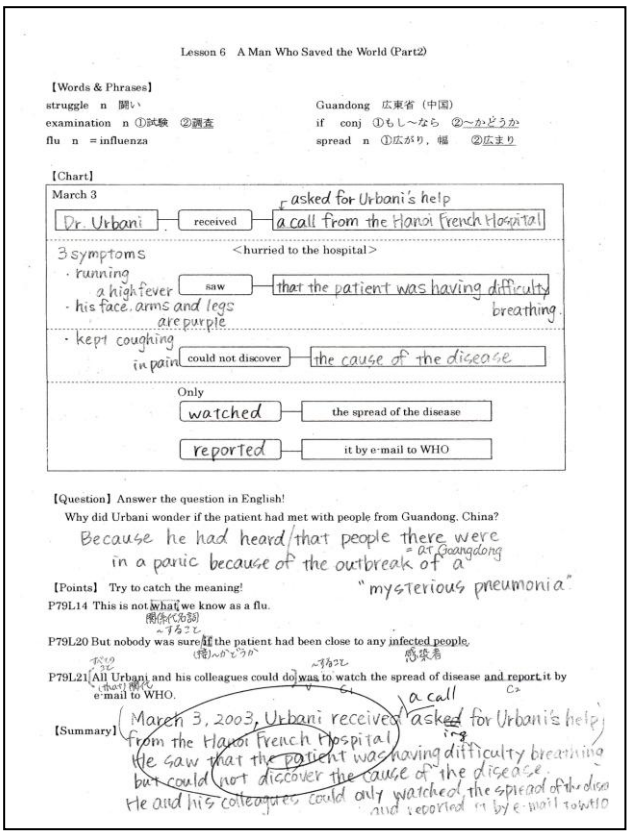
イ　教員と生徒間の英問英答　**手だてＢ**

この英問英答には１パートにつき 10 問前後の質問を用意した。一つのパートを最初から最後まで通してやるのではなく，段落ごとにＣＤで本文を聞いた後，クラス全体に対して口頭で質問を行い，生徒を指名して答えさせた。その質問の答えが授業プリントの【Chart】の空欄に当たる部分は板書したり，事前に紙に書いたものを貼ったりした。それ以外にも内容把握を促すような質問の答えは【Chart】に追加する事項として板書した。

段落ごとに，しかも文の順に質問を重ねていくため，生徒はしっかり聞いていれば答えられないということはあまりなかったが，質問の意味が分からなくて答えられない生徒がいる場合は，質問の仕方を変えたり，ヒントを与えたりして答えられるようにした（**資料２**）。

こうした本文の事実確認の英問英答に加え，生徒自身の考えや意見を問うような英問を授業

【資料１　授業プリント（Part 2)】



Lesson 6　A Man Who Saved the World (Part2)

【Words & Phrases】
struggle　n　闘い
examination　n ①試験　②調査
flu　n　= influenza
Guandong　広東省（中国）
if　conj　①もし～なら　②～かどうか
spread　n　①広がり，幅　②広まり

【Chart】
March 3
Dr. Urbani — received — asked for Urbani's help / a call from the Hanoi French Hospital
<hurried to the hospital>
3 symptoms
・running a high fever
・his face, arms and legs are purple
saw — that the patient was having difficulty breathing.
・kept coughing in pain
could not discover — the cause of the disease
Only
watched — the spread of the disease
reported — it by e-mail to WHO

【Question】Answer the question in English!
Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guandong, China?
Because he had heard that people there were in a panic because of the outbreak of a "mysterious pneumonia" at Guangdong

【Points】Try to catch the meaning!
P79L14 This is not what we know as a flu.
P79L20 But nobody was sure if the patient had been close to any infected people.
P79L21 All Urbani and his colleagues could do was to watch the spread of disease and report it by e-mail to WHO.

【Summary】
March 3, 2003, Urbani received a call / asked for Urbani's help from the Hanoi French Hospital. He saw that the patient was having difficulty breathing but could not discover the cause of the disease. He and his colleagues could only watched the spread of the disease and reported it by e-mail to WHO

【資料２　英問英答での実際のやりとり】

T：What did he see at the hospital?
S1：He saw that the patient was having difficulty breathing.
T：Good!　Next question.　What are three symptoms, S2?
S2：…
T：OK.　Tell me more information about the patient.
S2：The man was running a high fever, close to 40 degrees.
T：Great!

【資料３　生徒の考えを問う英問に対する英答 例】

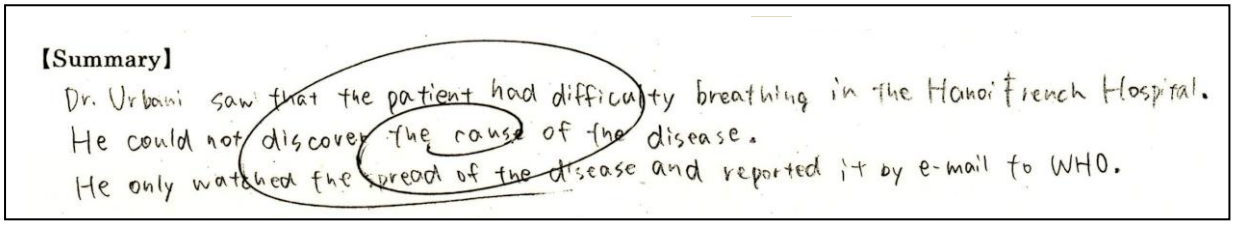
【Question】Answer the question in English!
How do you think the patients felt in an isolation ward?
I think they felt ~~very~~ lonely.
Why do you think Urbani decided to leave Hanoi for Bangkok?
Because he think his family precious ~~existence~~.

プリントに記載した。例えば Why do you think ～?から始まるような質問で，本文から答えを探すのではなく，本文の内容をヒントにして自分の考えを書く必要があり，より深く本文を読むことになる（**資料３**）。

ウ　パートごとの要約文の記述　**手だてC**

英問英答により本文の概要を把握することができると考えられるが，それぞれのパートの要点を捉えることができているか確認する必要がある。そこで，５分間の制限時間内に３文程度の英語でパートの要約文を書かせることとした。生徒はフローチャートを参考にしながらもう一度パートの本文を読み，その上で要点をまとめた（**資料４**）。制限時間になった時点で教員の書いた要約例を読み上げ，生徒には自分の要約と比べさせた。教員の要約はあくまでも参考であり，別の表現でも要点を捉えていればよいということを説明した。

【資料４　要約文の例（Part 2)】


【Summary】
Dr. Urbani saw that the patient had difficulty breathing in the Hanoi French Hospital.
He could not discover the cause of the disease.
He only watched the spread of the disease and reported it by e-mail to WHO.

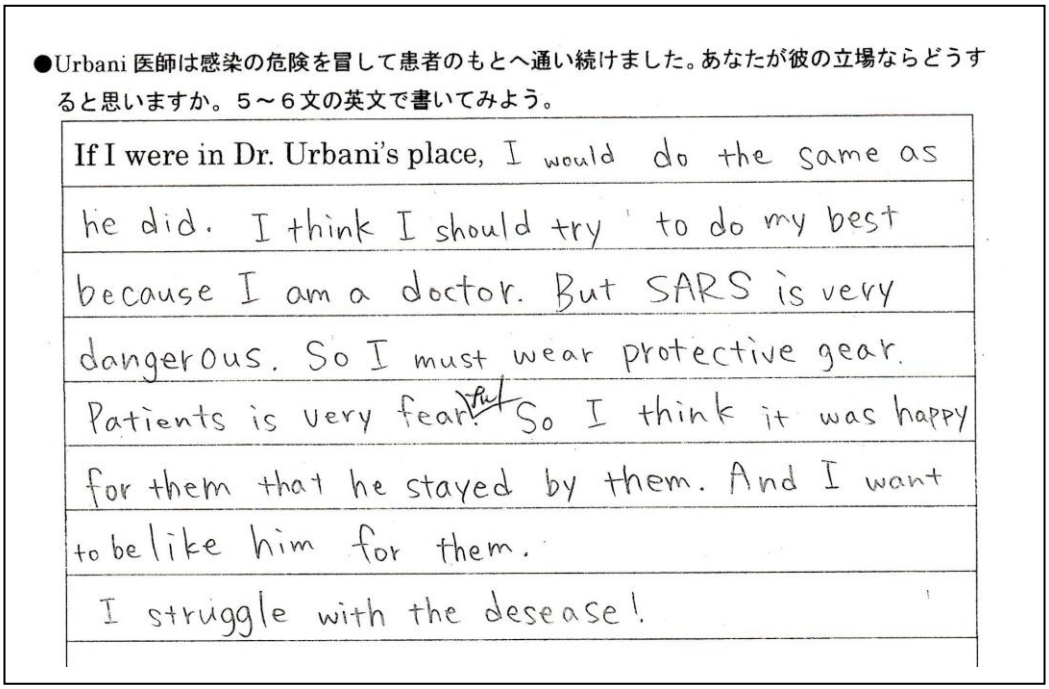
(2) 自分の考えを伝え合う言語活動

ア　単元全体について自分の考えの記述　**手だてD**

本文で扱われたウルバニ医師の立場に自分を置き，自分のとる行動を考えさせ，５～６文の英語で考えを書くように指示をした。まず教員が考えた例文を紹介し，分かりやすい英語を用いて相手に自分の考えを伝えられるように書くことが大切であることを伝えて，プレゼンテーションができるように準備させた。

今回は前単元に続いて２回目の英作文となったため，大半の生徒は 15 分前後で書き終えていた。後で回収して内容を点検すると，本文から表現を抜き出してまとめたものが多い中，独自の考えを表現したり，正直な感情を書き出したりした作文もあり，内容的に読みごたえがあった（**資料５**）。

【資料５　英作文の例】


●Urbani 医師は感染の危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどうすると思いますか。５～６文の英文で書いてみよう。

If I were in Dr. Urbani's place, I would do the same as he did. I think I should try to do my best because I am a doctor. But SARS is very dangerous. So I must wear protective gear. Patients is very fear. So I think it was happy for them that he stayed by them. And I want to be like him for them.
I struggle with the desease!

イ　グループ・ワークでの自分の考えの発表　手だてＥ

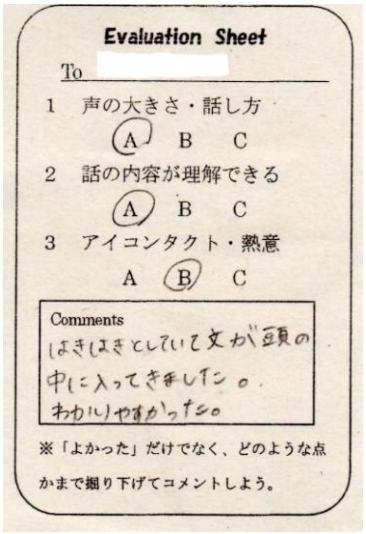
まず，教員が例として生徒の前で発表した。その後，評価の三つのポイントを示してプレゼンテーションをする際に注意すべき点を説明した。１グループは５～６人とし，進め方の手順をプリントに示し（**資料 11**），進行のための定型表現を参考にして，司会を中心にグループでの発表を行った（**資料６**）。

積極的に取り組むグループもあれば，淡々と進めていくグループもあり，司会によってグループの雰囲気は異なっていた。一人の発表が終わると，他のメンバーが評価シートに評価とコメントを記入した(**資料７**)。評価シートはグループのメンバー全員の発表が終わった時点で本人に渡すこととした。

評価段階（A，B，C）ごとの配点に基づき，生徒は自分の合計得点を計算し，グループの中で最も得点の高かった生徒が代表者となり，全体の前で発表した。この活動も２回目のため前回よりもゆっくりはっきり話すように心がけていた生徒が多く，全体的に分かりやすかった。

【資料６　グループ・ワークの様子】

【資料７　評価シートの例】



(3) アンケート結果

今回の研究のために都合３回のアンケートを実施した。授業実践を行う前の「実践前」，初めて英作文を書いて発表した「前単元」，新たな内容把握の実践と２回目の英作文・発表を行った「今単元」である。

ア　内容把握に関する質問

(ｱ) 本文の内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	**52.7%**	**38.2%**	9.1%	0.0%

(ｲ) 各パートの段落ごとの口頭質問に答え，チャートを完成させるやり方はよいと思いますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	**56.4%**	**36.4%**	7.3%	0.0%

(ｳ) 各パートの終了後に要約を行うことはよいと思いますか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	**56.9%**	**36.7%**	6.4%	0.0%

(ｱ)にあるように，本文の内容を理解できていると答えた生徒は「ややそう思う」も含め９割を超えている。大半の生徒が理解できていると考えられる。

(ｲ)の教員が口頭で発する英語の質問に対し英語で答えながらフローチャートを完成させていく内容把握の方法に対しても９割を超す生徒が肯定的に捉えている。「段落ごとに順を追って理解できるので分かりやすく記憶に残りやすい」や「フローチャートは視覚的に理解できてよい」などの意見があった。

(ｳ)の各パートの要約についても９割以上が肯定的に捉えている。「ちょっと難しいけど内容が深く分かると思う」「本文の大事なところを何回も読める」「要約を書こうとしてどこが大切か本文から探す練習ができてよかった」「英作文の力がつく」といった意見が多かった。生徒にとって要約は頭を使う大変な活動であるが，内容理解の点でも英文を書くという点でも，目的を理解して取り組んでいるようである。

イ　自分の考えを伝え合う言語活動に関する質問

(ｱ) 英作文は思いどおりに書けましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
前単元	13.5%	47.7%	36.9%	1.8%
今単元	**23.6%**	**48.2%**	27.3%	0.9%

(ｲ) 生徒同士のペア・ワークをしたいですか。(実践前)

英作文をペア・ワークで発表し合うことは，やってよかったですか。(前単元)

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
実践前	16.2%	30.6%	43.2%	9.9%
前単元	**43.2%**	**45.0%**	11.7%	0.0%
今単元	実　施　せ　ず			

(ｳ) 生徒同士のグループ・ワークをしたいですか。(実践前)

英作文をグループ・ワークで発表し合うことは，やってよかったですか。(前単元・今単元)

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
実践前	24.3%	34.2%	28.8%	12.6%
前単元	49.5%	43.2%	6.3%	0.9%
今単元	**40.5%**	**40.5%**	16.2%	2.7%

(ｴ) グループ内での発表は思いどおりに話せましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
前単元	21.8%	61.8%	13.6%	2.7%
今単元	**36.1%**	**50.0%**	11.1%	2.8%

(ｵ) グループ内で他の人が話す内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	**13.9%**	**66.7%**	13.9%	5.6%

(ｶ) 代表者が全体の前で話す内容は理解できましたか。

	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
今単元	**27.0%**	**54.1%**	13.5%	5.4%

(ｱ)から読み取れるように，英作文が思いどおりに書けた生徒は前単元の 61.2%から今単元の 71.8%へと約 10%増えている。英作文は２回目であるため，書くことに慣れてきたことが要因と考えられる。一方「あまりそう思わない」と答えた生徒の中には「率直な感想を書こうとしすぎて簡単な

英文を書けなかった」「自分の伝えたいニュアンスに合った単語が見付けられなかった」と記述する者がおり，自分の考えを英語にすることの難しさを実感したようである。

(ｲ)，(ｳ)の結果から，実践前にはペア・ワークやグループ・ワークで自分の考えを発表し合うことに抵抗を感じていた生徒が多かったが，実際に行ってみると「やってよかった」と思った生徒が増えている。「やっぱり恥ずかしいが楽しくてよかった」「みんなの考えを英語で聞けておもしろかった」「英語が聞き取れるとうれしかった」「生きている英語を学べた気がする」という肯定的な意見が多かった。

(ｴ)では，グループ発表で思いどおりに話せたかという質問に対し「ややそう思う」と答えた生徒がもっとも多く，「そう思う」も含めて思い通りに話せたと答えた生徒の割合は８割を超えていた。教員の視点ではまだまだ改善すべき点が多いと感じたが，生徒の満足度は高い。発表する前の心配が大きかった分，やってみたら意外とできたという感覚であろう。それでも「みんなにちゃんと全文伝えたかった」「相手に自分の気持ちを伝えるのは難しいと思った」「もっとアイコンタクトをとれるようにしたい」など反省点を述べ，向上心を見せる生徒もいた。

(ｵ)，(ｶ)では相手が話す内容を理解できたかどうかについて尋ねたところ，「そう思う」または「ややそう思う」と答えた生徒はいずれも８割を超えている。発表内容はある程度理解はできていると考えられるが，「書くことも難しかったが聞くことのほうが数倍難しかった」「リスニングが苦手だからみんながしゃべっていることが全然分からない」と述べ，聞き取ることの難しさを感じた生徒もいた。

７　成果と課題

(1) 仮説１の検証

本文の内容理解について，今回は１パートを段落ごとに区切り，しかもその段落の中で文の順に口頭質問を投げかけ，ランダムに生徒を指名して答えさせた。さらにフローチャートを用いて内容を整理し，各パートを英語で要約させた。

結果としては，アンケート結果ア(ｱ)にあるように本文の内容を理解できていると肯定的な回答をした生徒が９割を超えた。ほとんどの生徒が日本語訳に頼らず英問英答により内容理解ができることが示され，仮説１は支持されたと言える。さらに，アンケート結果ア(ｲ)と(ｳ)にあるように今単元の授業展開について肯定的な回答をした生徒も９割を超え，生徒の授業参加への意欲も高めたと言える。

(2) 仮説２の検証

自分の考えを書いてそれを伝え合う言語活動は２単元にわたりそれぞれ１回ずつ計２回行った。結果としては，自分の考えを書くことについては，アンケート結果イ(ｱ)にあるように，自分の思いどおりに書けたと思う生徒は「ややそう思う」も含めると７割を超え，前回と比べても１割増えていた。

また，伝え合う活動については，アンケート結果イ(ｴ)にあるように，思いどおりに話せたと思う生徒は「ややそう思う」も含め 86%で，前回と比べて若干増加していた。一方，アンケート結果イ(ｵ)と(ｶ)では，聞く側として話す内容が理解できたと思う生徒は「ややそう思う」も含め８割を超えていた。これらのアンケート結果から，仮説２は支持されたと言える。

(3) 今後の課題

内容把握については，扱う教材が変われば内容把握の方法も変わってくる。今回の単元はさほど難解ではない説明文であり時系列に話が進んでいくため，文章の順に口頭で次々と質問を投げかけ答えさせる方法が可能であった。しかし，難解な論説文などにおいても同じ方法が可能かどうかは検討しなければならない。

また，今回，フローチャートは教員がその枠組みを作り，それを生徒が埋めて完成するという方法をとった。フローチャートを作成することはいわば大切な箇所を抜き出す一種の要約であり，これを教員ではなく生徒が自らの力で作り上げることが理想である。今後の検討課題としたい。

一方，自分の考えの発表については，今回は内容が伝わるかどうかに重点を置いた。その結果，人が話す内容を理解できたと思う生徒の割合は「ややそう思う」も含め８割を超え，その意味では目標を達成できた。

しかし実際には，声が小さくなったり，早口になったり，原稿ばかり見ていたりする生徒が目に付いた。これは単に恥ずかしいだけではなく，生徒が自由に書いたものを事前に添削せずそのまま発表させたために自分の話す内容に自信がもてていないことや，十分に話す練習ができていないことが影響しているように思われる。自信のもてない英作文に対して読む練習をする気持ちになれないのかもしれない。今後は，英作文を書き終えた時点で教員が添削した後に，話す練習をしっかりした上で発表へとつなげていけば，正しい表現の文章を自信をもって発表できると考える。

今回は，発表まで終わった時点で英作文の原稿を集めて添削をした。伝えたい内容が読み取れるものであれば間違った表現を添削したが，時には全く内容が読み取れない文があり，添削することができなかった。それでも何かを伝えたいと思って書いている英作文を大切に扱い，該当の生徒に作文の意図を確認し，その表現方法をアドバイスしていくことで，生徒の自己表現の能力と意欲を高めていきたい。

今回の実践では，生徒は書く力・話す力を少し身に付けて，ようやく英語での言語活動に慣れてスタート地点に立ったというところであろう。「読む」活動に比べて，「書く」・「話す」活動の機会は今まで少なかったので，今後も単元構想の工夫を重ねて英作文や発表の機会を充実していきたい。

８　おわりに

内容理解のための口頭での英問英答の実践について，生徒のアンケートに「口頭質問に答えようとすると集中して聞けるのでよいと思う」という意見があった。このように前向きに取り組もうとしている生徒が大半を占めているが，授業中の生徒の様子を見ていると「この生徒は本当に聞いているのだろうか」と不安に思うことがある。また，英問を聞こうとしていても聞き取れない生徒もいるかもしれない。

英語で授業を進めていく場合，生徒にとってハードルが高い分，生徒の取り組もうという意欲を維持させることがより必要になる。生徒自身が学習意欲をもつことはもちろん大切であるが，教員側にも生徒の意欲を持続させる仕掛け作りが求められる。今後も，生徒の理解を助けるワークシートの作成といった授業展開の工夫や,生徒の理解の程度に応じた分かりやすい英語の使用などを心がけたい。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年３月告示

○　文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』

○　伊東治己(2008)『アウトプット重視の英語授業』教育出版

○　金谷憲(2011)『高校英語授業を変える！ 訳読オンリーから抜け出す３つのモデル』アルク

○　田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸編著(2011)『推論発問を取り入れた英語リーディング指導　深い読みを促す英語授業』三省堂

○　平野靖雄(2002)『提言―高校英語教育の現場から―生徒のうめき声から学ぶもの―』桐原書店

【資料８　補充プリント】

Lesson 6　A Man Who Saved the World　＜Supplementary Handout＞

Part 1

○P77L1　***be about to do***　　まさに～しようとしている

○P77L5　***run + 形容詞***　～の状態になる（悪い状態）

（例）The river has ran dry.（川が干上がった）

○P77L6　***be to 動詞の原形***

予定「～する予定である」・義務「～すべき」・運命「～する運命である」・可能(不定詞は受動態を使う)を表す。

Questions!!

1. The Prime Minister (next month / is / visit / China / to).【予定】

2. You (are / until / stay / to / in this room / I return).【義務】

3. No one (in the street / to / seen / was / be).【可能】

4.I do not know (is / happen / to / what / to us).【運命】

○P77L7　***set off ～***　　～を引き起こす

○P78L4　**前置詞 + 関係代名詞(目的格)**　　前置詞の目的語としての関係代名詞

（例）The professor to whom I talked yesterday was Akira's father.（私が昨日話をした教授は明のお父さんだった）

＝The professor who(m) I talked to yesterday was Akira's father.

(The professor was Akira's father.　+　I talked to him yesterday.)

Questions!!

1. In the world there are many things (very much / about which / don't / know / we).

2. She was sitting at a large desk (there / two computers / were / on which).

3. This is the box (of my parents / in which / old pictures / found / I).

○P78L5　***be popular with ～***　　～の間で人気がある

Part 2

○P79L4　***be in ～ condition***　～な状態にある

（例）The patient was in serious condition.（その患者は重傷だった）

○P79L5　***what is wrong with ～***　～はどうしたのか、～はどこが悪いのか

○P79L5　***would appreciate it if you would(could) do***　～をしていただけるとありがたいのですが〔仮定法〕

（例）I would appreciate it if you would reply to our invitation.（私たちの招待にご回答いただければ幸いです）

○P79L8　***have difficulty (in) doing***　～するのに苦労する

○P79L8　***run a fever***　熱を出す

○P79L10　***in pain***　苦しんで

○P79L21　***all S can do is to do***　Sができることは～することだけ

（例）All I can do is to pray to God.（私ができることは神に祈ることだけだ）

Part 3

○P80L7 **keep ～ from doing**
P83L9 **prevent ～ from doing** } ～が…するの妨げる

○P80L17 **work out ～** ～を考えだす、～を練って作る

○P81L2 **be concerned about ～** ～を心配している cf. be concerned with ～：～に関係している、関心がある

○P81L4 **be reluctant to do** ～することに気が進まない

○P81L5 **turn down ～** ～を断る、拒絶する

Part 4

○P82L2 **in a while** 間もなく cf. for a while しばらくの間

○P82L4 **give up on ～** ～に見切りをつける、～を見捨てる

○P82L6 **have no idea 疑問詞 ～** ～か分からない
(例) We have no idea where she has gone. (彼女がどこに行ったのか我々は全く分からない)

○P82L7 **as well** 同様に

○P82L11 **show (人) around (場所)** (人)に(場所)を案内する

○P82L11 **完了形で始まる分詞構文** 主節より前の時を表す。
(例) Having been much hunted, the animal is becoming extinct. (その動物は乱獲されたので、絶滅しつつある)
(=As the animal was much hunted, it is becoming extinct.)

Questions!!

1. (leave my house), I realized that I had forgotten to lock the door.
2. (finish my homework), I decided to go shopping.
3. Not (be to the library before), I had difficulty finding where it was.

Part 5

○P83L1 **put ～ on alert** ～を警戒体制に置く

○P83L6 **at the cost of ～** ～を犠牲にして

○P83L7 **from that moment on** それ以来 (←その瞬間からずっと) cf. from now on 今からずっと

○P83L8 **come to do** ～するようになる

○P84L4 **bring ～ to tears** ～を泣かせる、～の涙を誘う(← ～を涙の方へ連れていく)

○P84L4 **doubt that S + V** SがVであるということを疑う、SがVであるかどうか分からない

○P84L5 **the same ～ as …** …と同じ～

○P84L6 **be in one's place** ～の立場にある

○P84L15 **supply ～ with …** ～に…を供給する

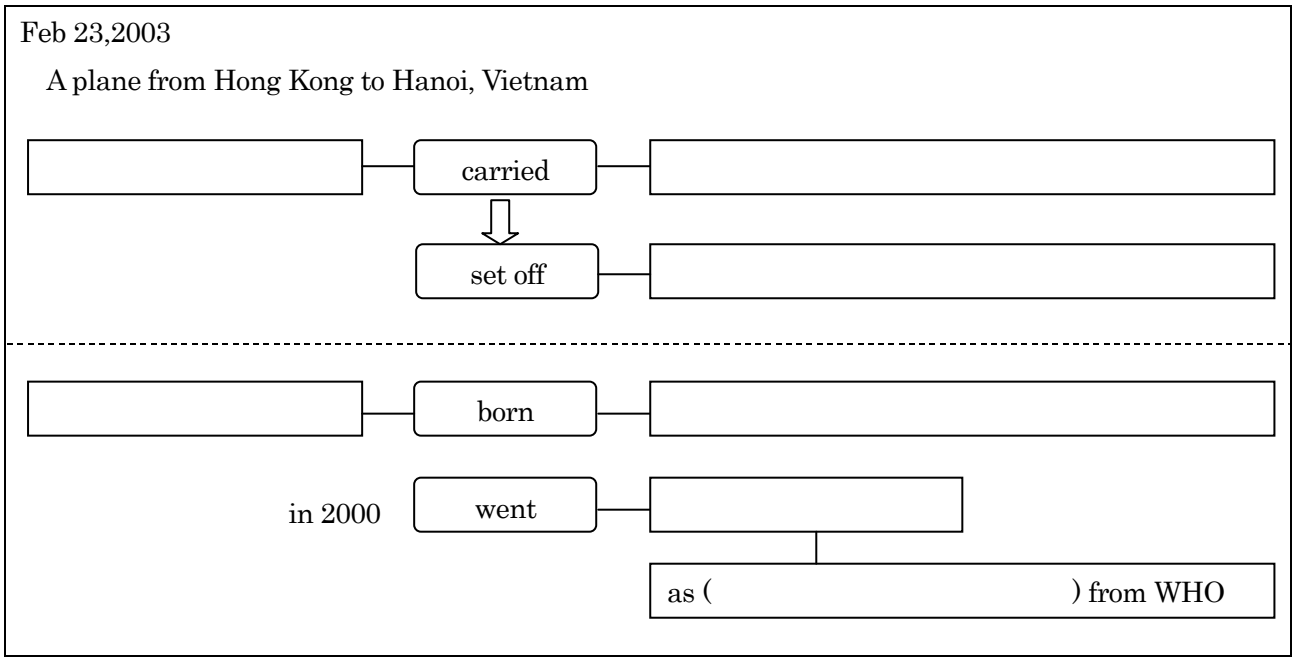
○P84L18 **give in to ～** ～に屈する、～に負ける

【資料９　全パートの授業プリント（チャート部分）と教員用英問英答資料】

Lesson 6 (Part 1)

＜生徒配付の授業プリント（チャート部分）＞

【Chart】



【Question】Answer the question in English!

Why was Urbani popular with patients and people around him?

＜教員用　英問英答資料＞

【Q&A】

1 Who is the key person in the 1st paragraph?

2 Who was one of the passengers?

3 What was the businessman feeling?

4 What did he carry?

5 What did he set off?

6 Who is the 2nd paragraph written about?

7 Where did Urbani often go?

8 Why did he go there?

9 Why was Urbani popular with patients and people around him?

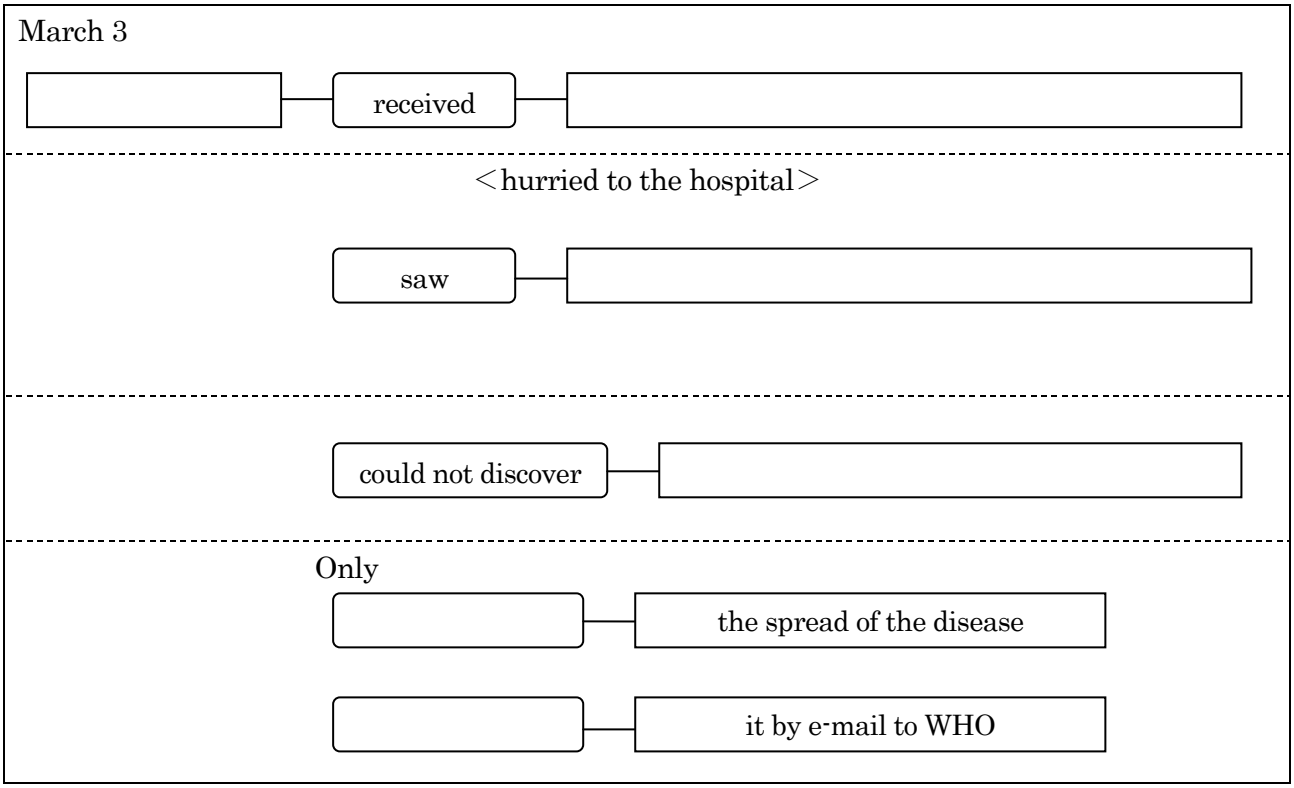
10 In 2000, where did he go?

11 Who did he go there with?

Lesson 6 (Part 2)

＜生徒配付の授業プリント（チャート部分）＞

【Chart】



【Question】Answer the question in English!

Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guandong, China?

＜教員用　英問英答資料＞

【Q&A】

1 Who is the main character in Part2?

2 What did he receive?

3 What did the call ask for?

4 Why did the hospital ask for Urbani's help?

5 What did he see at the hospital?

6 Tell me more about the patient.　What are 3 symptoms?

7 What couldn't he discover?

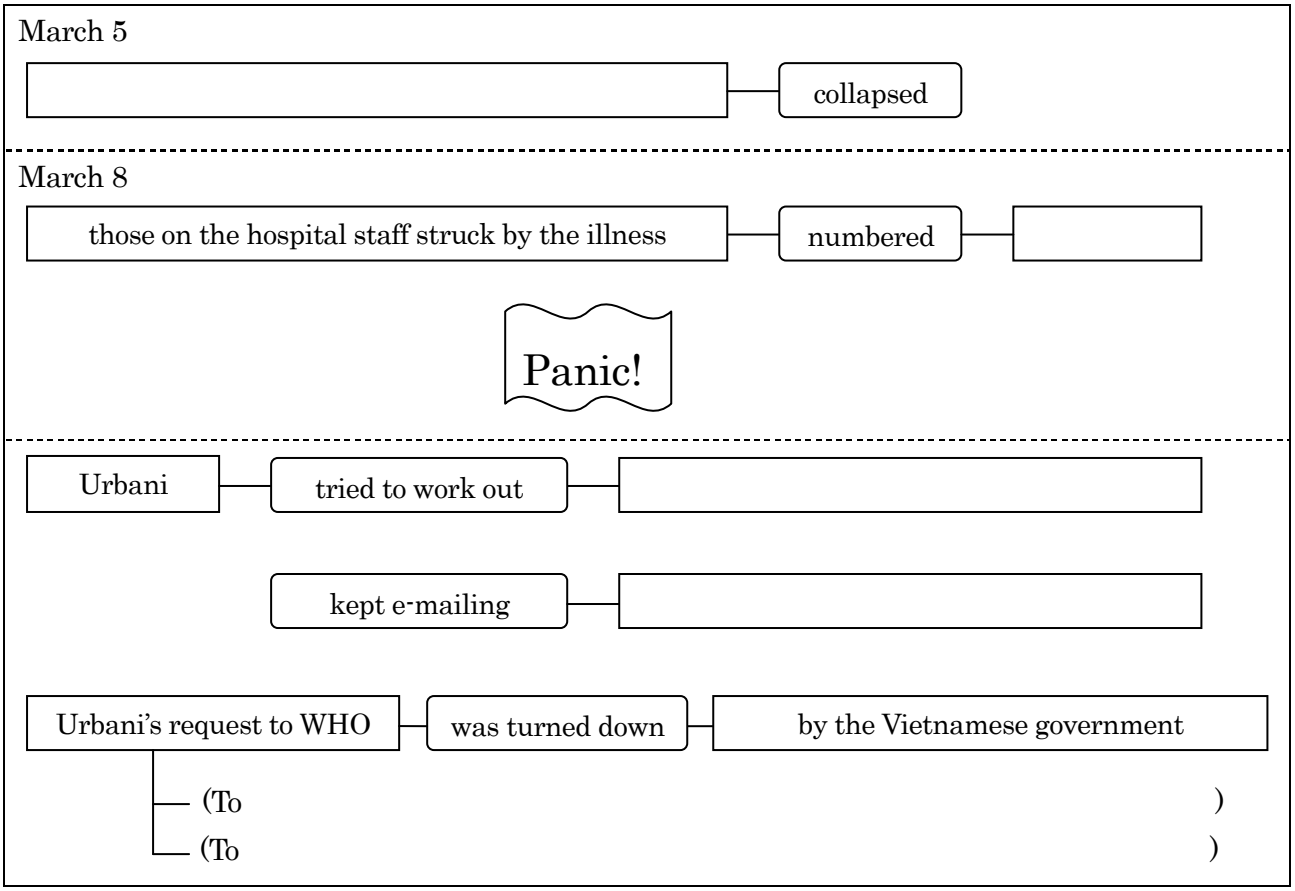
8 Why did Urbani wonder if the patient had met with people from Guandong, China?

9 So what did Urbani and his colleagues do?

Lesson 6 (Part 3)

＜生徒配付の授業プリント（チャート部分）＞

【Chart】



【Question】Answer the question in English!

Why was Urbani's request turned down by the Vietnamese government?

＜教員用　英問英答資料＞

【Q&A】

1 On March 5, what happened?

2 Why did the nurse become unable to move?

3 By March 8, how many people on the hospital staff were struck by the illness?

4 How was the isolation ward?

5 There was little the hospital could do.　Why?

6 What did Urbani try to work out?

7 What did he keep e-mailing?

8 What was the data?

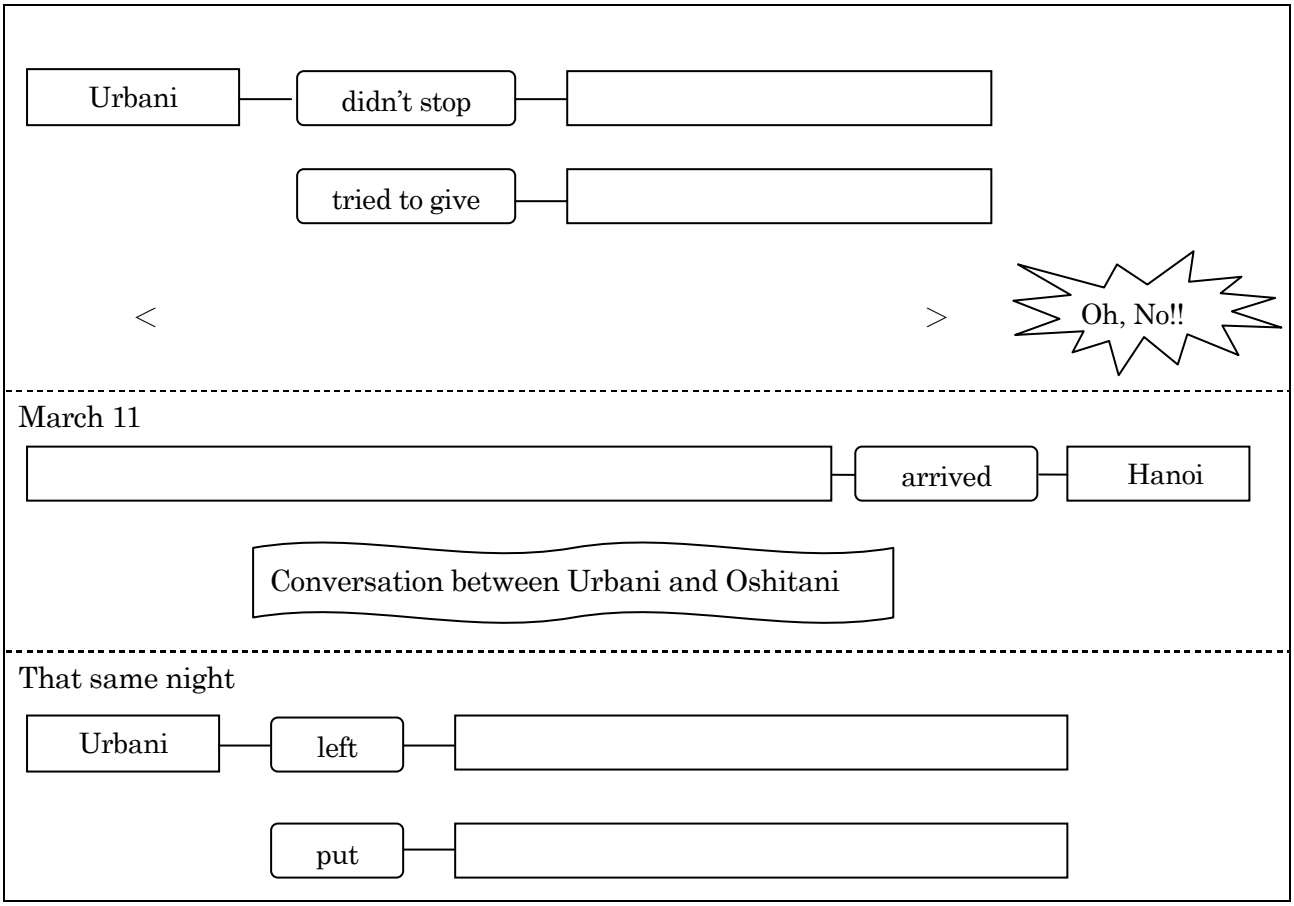
9 What was Urbani's request to WHO?　There were two requests.

10 Why was Urbani's request turned down by the Vietnamese government?

Lesson 6 (Part 4)

＜生徒配付の授業プリント（チャート部分）＞

【Chart】



【Question】Answer the question in English!

How do you think the patients felt in an isolation ward?

Why do you think Urbani decided to leave Hanoi for Bangkok?

＜教員用　英問英答資料＞

【Q&A】

1 How do you think the patients felt in an isolation ward?

2 What did Urbani do for the patients?

3 What did Urbani say to the patients?

4 What did one of the patients say about Urbani?

5 What was happening to Urbani's body at that time?

6 On March 11, who arrived in Hanoi?

7 What is his name?

8 What did Urbani ask Dr. Oshitani?

9 What did Dr. Oshitani answer to Urbani's question?

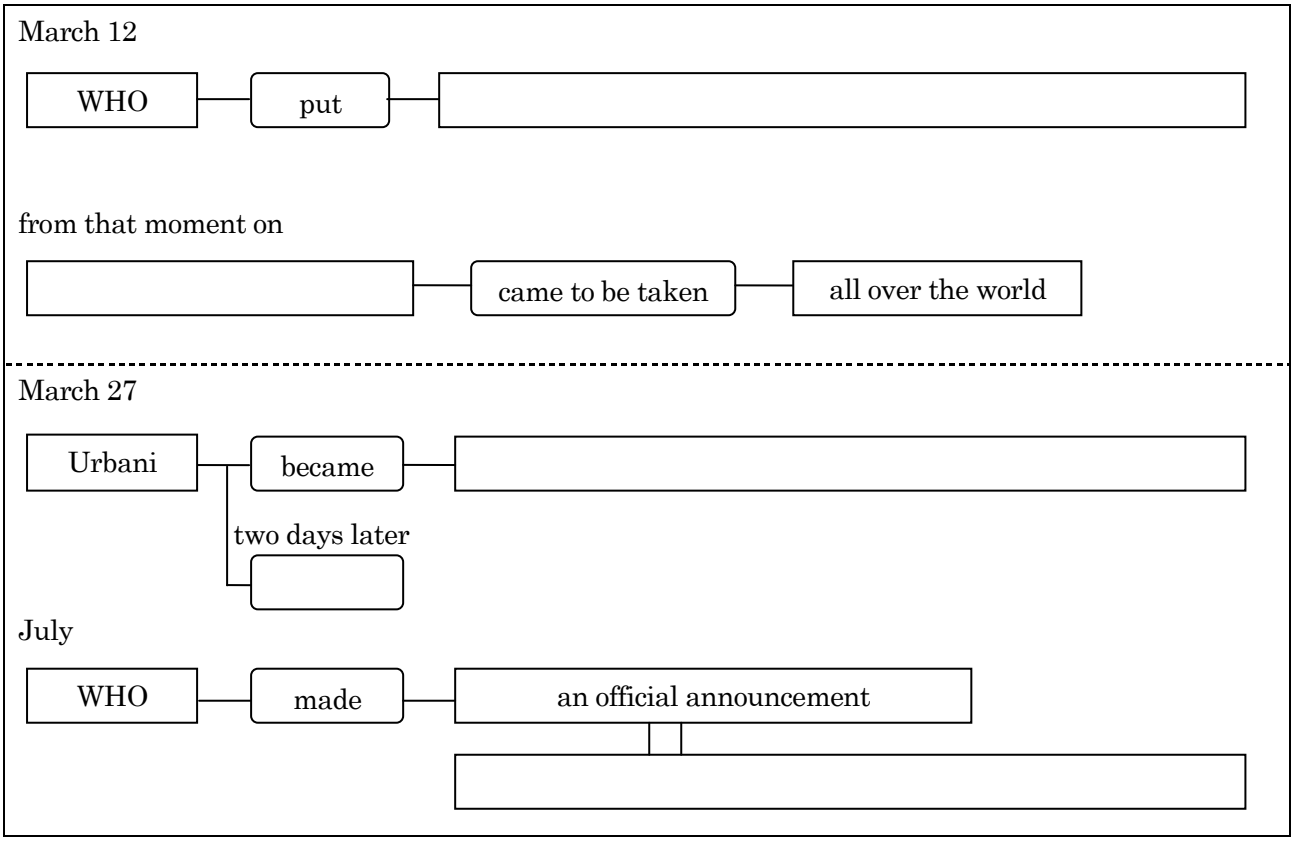
10 That same night, what did Urbani do?

11 Why do you think Urbani left Hanoi for Bangkok?

Lesson 6 (Part 5)

＜生徒配付の授業プリント（チャート部分）＞

【Chart】



＜教員用　英問英答資料＞

【Q&A】

1 On March 12, what did WHO do?

2 Has WHO ever put the whole world on alert?

3 What did the alert state?

4 From that moment on, what came to be taken all over the world?

5 On March 27, how did Urbani become?

6 Two days later, what happened to him?

7 When he died, how long was it after Urbani first saw the sick tourist in Hanoi?

8 When he died, how old was he?

9 In July WHO made an official announcement.　What was the content of the announcement?

10 According to the expert, if Urbani had not found the virus in the early stages of the outbreak, how many people might have been the victims?

11 Back in 1999, what was given to the MSF?

12 At that time, what did Urbani say to the press that he would keep doing?

【資料 10　英作文用“Write your idea!”プリント】

Read and catch the belief of Urbani

On March 27, Urbani became seriously ill with SARS.　Two days later he died at the age of 46.　It was 27 days after he first saw the sick tourist in Hanoi.

Back in 1999, when the Nobel Peace Prize was given to the MSF, Urbani said to the Italian Press: “It is my hope that I can supply sick people all over the world with the best possible medical treatment. To make this happen, I'll keep doing two things: One is to stay by my patients, and the other is never to give in to any obstacles.”

Write your idea!

●Urbani 医師は感染の危険を冒して患者のもとへ通い続けました。あなたが彼の立場ならどうすると思いますか。５～６文の英文で書いてみよう。

If I were in Dr. Urbani's place,

ヒント：本文にも出てきた表現を上手く活用しよう。例えば…

stay by patients
give (人) great encouragement
give (人) hope
work out a means to stop the disease
get more information
ask for help ～
wear protective gear　防護用具を身に付ける

Number (　　)　Name(　　)

【資料 11　Presentation の進め方】

Presentation の進め方

1　机をあわせます。
2　司会(Moderator)を決め、発表する順番を決めます。
3　司会と発表者は次の手順で進行させます。
4　司会と発表者だけでなく、聞き手も【ほめ言葉】や【励ましの言葉】を使って盛り上げよう。
5　一人の発表が終わるごとに１分程で評価シート(Evaluation Sheet)を記入します。
　まず、発表者の名前を書き、３つの評価のポイントに○をつけ、コメントを記入します。
　書き終わったら、発表者に評価シートを渡します。
　　１　声の大きさ・話し方　　２　話の内容が理解できる　　３　アイコンタクト・熱意

①司会(Moderator)

Let's start our presentation.
The first speaker is ～.　Please start you presentation.
(Presentation)
Thank you for your speech.
(To all members) Do you have any questions?
Now write your evaluation sheet in 1 minute.
(1 minute)
Let's move on to the next speaker.　Next speaker is …
(Repeat)

(All members have finished)
Now, presentation has finished.　Thank you, everyone.

②発表者(Speaker)

OK. I will start my presentation.
<Presentation>
Thank you for listening.

【ほめ言葉】

Good!	いいね
Great!	すばらしい
Wonderful!	すばらしい
Good job!	よくできた
Well done!	よくできた

【励ましの言葉】

Cheer up!	がんばって
Take it easy.	落ち着いて
Don't give up.	あきらめないで
Try it again.	もう一度やってみよう
You can do it.	できるよ
Don't worry	気にしないで

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究

－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　４

英文の内容理解を基に自己表現ができる生徒の育成

―インテイクを充実し，英語を話すことへの抵抗感を軽減するための工夫―

愛知県立豊田西高等学校　教諭　今田　祐之

１　はじめに

本校英語科では，平成 21 年度から新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に取り組んでいる。英語を用いた授業展開は定着してきており，改善は一定の成果を上げている。特に，平成 22 年３月には，以下のように，英語Ⅰ・英語Ⅱの授業に関する英語科教員全員の共通理解事項を設定するに至った。

授業展開	目　的	活動例
①pre-reading	**スキーマの活性化** （教科書の題材についての予備知識を与えるなどして，本文を読みたいという気持ちにさせる。）	・内容についてのオーラル・イントロダクション ・写真や絵を用いた活動 ・新出単語の導入
②while-reading	**概要把握→理解→内在化** （トップダウン方式で速読をさせたあと，より深く教材を理解させる。その後，その教材を「使えるレベルまでインプット」＝「インテイク」させる。）	・リスニングによるＱ－Ａ ・速読による内容把握（概要確認のためにＱ－A等） ・スキャニング，スキミング（True or False等で） ・推論発問による本文のメッセージについての深い読み（論説文の場合，文章の構成にも着目） ・文法事項確認（一部和訳も） ・サイト・トランスレーション ・シャドーイング ・絵やチャート等を用いたStoryのRetellingとWriting ・本文の内容を英語で要約
③post-reading	**表現活動** （アウトプット活動を通して教材と自己を結びつけるpersonal involvementを目指す。）	・レッスンを通じて最も印象に残った点や興味をもった点を挙げさせ，これに関連して自分が更に調べたい点を絞らせ，調べ学習 → 発表 ・筆者の意見に賛成か，反対かをまとめさせ，議論 ・自分が主人公の立場だったらどうするかをまとめさせ，発表 ・教科書の内容に関連した他の英文を読ませ，相違点や類似点をまとめさせ，発表

しかし，まだ生徒に十分な英語によるコミュニケーション能力を身に付けさせているという実感はない。特に「英語を話すこと」に関しては不十分であると感じている。本研究では，読み取った内容を基にいかに自己表現をさせるかを考えながら，英文のインテイク量を増やし，英語を話すことに結び付ける授業方法を探っていきたい。

なお，本研究では「インプット」と「インテイク」の２語を次のように定義して使用する。

・インプット … 言語情報に触れること。
・インテイク … 自分に必要なものとして認識された言語情報を，使用できるよう理解して知識体系の中に取り込むこと。

２　生徒の実態

本校第１学年生徒 320 名に対し，英語の４技能に対する意識調査をした（平成 24 年４月実施）。

①得意か不得意か

	得意	どちらかといえば得意	どちらかといえば不得意	不得意
読むこと	16.9%	41.9%	32.2%	9.1%
書くこと	12.5%	33.8%	40.9%	12.8%
聞くこと	15.6%	26.3%	38.1%	20.0%
話すこと	10.6%	22.2%	**39.7%**	**27.5%**

②抵抗感の有無

	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
読むとき	6.9%	22.2%	39.4%	31.6%
書くとき	6.9%	23.8%	36.6%	32.8%
聞くとき	11.6%	24.7%	34.1%	29.7%
話すとき	**19.7%**	**29.1%**	29.1%	22.2%

③自分の英語力で弱い力

	一番目	二番目
読む力	9.5%	11.9%
書く力	21.5%	25.5%
聞く力	29.0%	27.0%
話す力	**40.1%**	**35.5%**

④自分の英語力で伸ばしたい力

	一番目	二番目
読む力	11.7%	16.2%
書く力	9.5%	21.9%
聞く力	17.4%	41.0%
話す力	**61.5%**	**21.0%**

①の結果より，生徒は英語を話すことが最も不得意と感じており，その数は「不得意」と「どちらかといえば不得意」を合わせると約３分の２にも上る。そのため，英語を話すときに感じている抵抗感は，②に示されているように，他の３技能に比べて強いようだ。そして，③，④からは，生徒が４技能の中で話す力が一番弱いと感じており，この話す力を最も伸ばしたいと感じていることが分かる。

３　研究の目的

英語の授業の中で，まとまった量の英語を，生徒が自信をもって話すようにさせるには，次のような段階的な指導が効果的であると考える。

英文読解 → 英文のインテイク → インテイクした英文を用いた自己表現（書く活動→話す活動）

まず第１段階として，英文の内容を正確に理解し，著者の主張やメッセージを積極的に読み取れるような問いについて考えたい。第２段階として，内容を読み取った後に，音読や暗唱練習を繰り返すことで英文をインテイクさせ，英語表現力の向上を図る。そして，第３段階として，読み取った英文の内容に関連する事項についての自己表現活動を取り入れる。この際，インテイクした英文をなるべく多く使うよう促す。また，事前に原稿を作成させて添削し，正しいと自信をもって発表できる英文を完成させる。そして音読等の練習時間を十分に与えてから発表させることで，英語を話す際の抵抗感を軽減させたい。

【目指す生徒像】
英語でコミュニケーションを図ることに意欲的で，学んだことを基に自己表現ができる生徒

４　研究の仮説

研究の目的を達成するために，次のような仮説を立て検証することにした。

仮説１：英文の内容理解について，段階的な問いの工夫をすれば，生徒は積極的に内容を理解しようと努め，また，登場人物の心情や筆者のメッセージを正確に把握することができるだろう。
仮説２：英文のインテイクのための活動を充実させれば，生徒はまとまった量の英文を書くことができ，自分の英語表現力が向上したと感じることができるだろう。
仮説３：自分が書いた英文を発表するための準備や練習を充実させれば，生徒は抵抗感をもたずに堂々と英語で話すことができるだろう。

５　研究の方法

研究の仮説を検証するため，第１学年英語Ⅰの授業において以下の方法で実践を行うことにした。

⑴ 英文の理解に関する手だて

ア　ワークシートを用いた段階的読解の支援…手だてＡ
　(ｱ) 概要把握から詳細理解へと導く設問を示す。
　(ｲ) 前後関係から空所を補充させるなど，積極的な読解を促す。
　(ｳ) 文法事項を含めた，細部までの理解を求める。

⑵ 英文のインテイクに関する手だて…手だてＢ

ア　センス・グループごとにスラッシュを引き，一つのまとまりとして認識させる。
イ　英文と日本文を左右に配置し，Sight Translation ができるようにする。
ウ　繰り返し音読させたり，覚えた英語を書かせたりして，確実な定着を図る。

⑶ 自己表現活動（アウトプット活動）の準備と練習…手だてＣ

ア　インテイクした英文を活用し，内容理解に基づいた自己表現ができるようなテーマを設定する。
イ　書く活動を行ってから，話す活動へとつなげる。
ウ　発表する前に十分に練習をさせ，抵抗感を軽減させる。

⑷ アンケートによる生徒の達成状況の把握

単元終了後に，授業の取組や学習目標の達成度に関する自己評価アンケートを実施し，その結果を分析する。

(5) 単元構想

1　単元名　　Lesson 4　Yukina's Message: Until the Battery Runs Out

2　単元の目標

・単元で扱われている内容に関心をもつとともに，ペア・ワークに積極的に取り組む。
・読んだことに基づき，由貴奈さんの母親になったつもりで，送られてきたキルトについて報告する手紙を由貴奈さんに書く。
・上記の手紙を，由貴奈さんに語りかけるように音読する。
・登場人物の言動やその言動の理由などを捉えることを通じ，本文の概要や要点を理解する。
・他の生徒の発表を聞いて正しく理解し，感想を伝える。
・過去完了形，関係代名詞 what の意味や用法を理解する。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・単元で扱われている内容に関心をもつとともに，ペア・ワークに積極的に取り組んでいる。	・読んだことに基づき，由貴奈さんの母親になったつもりで，送られてきたキルトについて報告する手紙を，由貴奈さんに書くことができる。 ・上記の手紙を，由貴奈さんに語りかけるように音読できる。	・登場人物の言動やその言動の理由などを捉えることを通じ，本文の概要や要点を理解することができる。 ・他の生徒の発表を聞いて正しく理解し，感想を伝えることができる。	・過去完了形，関係代名詞 what の意味や用法を理解している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は，5年以上に及ぶ闘病生活の末，小児ガンのため 12 才で亡くなった宮越由貴奈さんについての話である。由貴奈さんの闘病生活の様子と，その中で彼女が感じた命の大切さや助け合うことの重要さが，「命」の詩の背景にあることが述べられる。まず登場人物の言動やその言動の理由等を捉えて本文の内容を理解する。最終的には，彼女の母親になったつもりで，本文の内容を要約しながら由貴奈さんに当てた手紙を書き，適切に音読する活動を行い，相手に伝える力を養う。

5　単元の指導計画（全 11 時間） ※1 時間：50 分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第1次 (0.5)	【イントロダクション】 ・教師のオーラル・イントロダクションを聞いた後，「命」の詩を読む。本文や詩の内容とともに，キルトの制作者が誰なのかについても関心をもつ。	・本文や詩の内容とともに，キルトの制作者が誰なのか関心を湧きたてる。
第2次 (7.5)	【Part 1～4 の内容理解，音読，暗唱】 ・本文を読み，Task 1, 2 の質問に答える。追加の質問にも英語で答える。	・空所補充のワークシート（**資料6**）を用いて答えさせ，さらに理解を深める質問を口頭で行う。手だてA

		・過去完了形，関係代名詞 what，及びその他の重要表現を学習する。	・予習用ワークシートを用いて新出語句の確認や文法事項の説明を手短に行う。手だてＡ
		・センス・グループごとに教師の後に続いて音読し，次に暗唱できるまで練習する。	・Buzz Reading，Read and Look Up など様々な方法を用いる。手だてＢ
	第３次	【手紙を書く→音読する】	
	（３）	・与えられた条件で手紙を書く。	・作文用ワークシート（**資料７**）を用いる。
		・音読の練習をする。	・手紙の内容について含めるべき情報を与え，生徒が暗唱した英文を使えるようにする。手だてＣ
		・ペアで発表しお互いを評価する。ペアを変えて再度行う。最後に，グループや全体で代表者が発表する。	・練習時間を十分設け，話すことへの抵抗感を軽減させる。手だてＣ
		・自己評価を行う。	

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　読んだことに基づき，由貴奈さんの母親になったつもりで，送られてきたキルトについて報告する手紙を，由貴奈さんに書くことができる。

> エ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

○　登場人物の言動やその言動の理由などを捉えることを通じ，本文の概要や要点を理解することができている。

> イ　説明や物語などを読んで，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。また，聞き手に伝わるように音読する。（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

７　言語活動の充実の工夫

【授業の流れ】

第１次＝スキーマ活性化（イントロダクション） → 第２次＝内容理解＋暗唱（インプット，インテイク） → 第３次＝アウトプット（英作文と音読）

本単元では，内容を理解するだけでなく，理解したことに基づいて英文をアウトプットさせることをねらいとしている。その英文も，書く内容を指定することで，本文中に出てきた出来事を要約したり，登場人物の気持ちを考えたりするなど，内容理解の一端を担っている。

また，本文の内容を主に書くため，本文をインテイクできていれば，その表現を使って作文することが可能となる。授業内でしっかりと練習していれば，それほど苦労なく英文を書けるだろう。

最後に，書いた英文を相手に音読するのだが，ほとんどが本文中に出てきた表現であるため，既に音読練習が終わっている語句が多い。このため，音読する際も心理的障壁は低いだろう。

【第３次の指導内容と留意点】

①〈本文を見ずに書く〉覚えた英文を実際に使ってみる。

②〈与えられた設定で構想を考える〉 感情を表現するところは特に注意する。

③〈ペアの相手に音読する〉聞き手は評価シートで評価し，コメントを記入する。

④〈ペアを変えて繰り返す〉１回目の評価を基に，修正するべき箇所は修正する。

６　研究の実際と考察

(1) 英文の理解

初見の文章の概要把握（前後関係に注意して読む） → 著者のメッセージ読み取り → 細部の理解

今回取り入れた空所補充問題（Task 1）は，字面だけ追うのではなく，英文をじっくりと読み，話の流れや前後関係を把握しなければ解けないよう工夫した。例えば Part 4 の，由貴奈さんの人生について説明されている箇所で，以下のように空欄を埋めることを求めた。

Yukina's life was short, but she had lived on until life said, "I'm (　　)."

この空欄に入る語は tired であるが，これは「命」の詩の中に含まれる表現から著者が引用してきているものである。最初は答えが分からなかった生徒も多かったが，"You can find the answer if you read Yukina's poem again."というヒントを与えたところ，大部分の生徒が正しく解答できた。

また，概要把握の後，各パートにおいて，筆者の最も伝えたい内容は何かを考えさせた。例えば Part 1 に，this message や her message という表現があり，由貴奈さんが伝えたかったそのメッセージは何かを，英語４語で答えるよう出題した。本単元のタイトルも"Yukina's Message"であり，このメッセージの中身を捉えることが内容理解の上で最も重要なことであると考えたからである。答えは how important life is であるが，多くの生徒がこの答えかそれに近いものを書いていた。

これらの活動に対する生徒の取組状況は良好で，解答後，ペアで答えを比較させたところ，解答の根拠を熱心に説明し合う姿が見られ，積極的な読解ができていると感じられた。また理解が不十分と思われた箇所については，英問英答問題も数問追加し，生徒の内容理解を助けた。

その後，複雑な構造の文や新出文法項目等について説明して，各文の完全な理解を促した。これで内容と文構造の両方の理解が確認され，暗唱の準備が整った。

(2) 英文の暗唱（インテイク）

読み方	回数・時間	目的・留意点
ペア読み	１回	ペアの片方が読む。お互いに発音できない語をチェックする。
範読に続いての読み	１回	分からなかった語の発音を確認し，教師に続いて繰り返す。
Buzz Reading	２回	範読を基に，正しい発音で読みの練習をする。
Read & Look Up	１回	教師がセンス・グループごとに英文を読んでいるときは本文を見て確認し，自分で発話するときは顔を上げる。
Sight Translation	４～５分	ワークシートの日本語のみを見て英語にできるかを確認する。
ペアで暗唱確認	１回	ペアの相手に Sight Translation を確認してもらう。

左半分に英文，右半分に日本語の文を配置したワークシートを使用して音読を行った。日本語の部分には，英文の語順に合わせたセンス・グループごとの訳を示した。生徒には，その日本語文のセンス・グループごとに引かれているスラッシュを参考にして英文にもスラッシュを書かせ，意味のかたまりを把握させた。

その後，ペア読みでお互いに発音できない語をチェックさせた。範読でその語の発音を確認させ，Buzz Reading，Read & Look Up，Sight Translation などを行い，日本語を見て英文が言えるようになるまで練習させた。最後に，ペアで暗唱確認をさせた。

どれも年度当初から行っている活動であるため，生徒も慣れており，取組状況も良好であった。また，次の自己表現活動では教科書やワークシートを見ずに手紙を書く活動を行うことを繰り返し伝えたので，生徒は熱心に取り組んでいた。

(3) 自己表現活動（アウトプット活動）の準備と練習

作文(100 語程度，30 分) → 教師による添削 → 修正 → 音読練習(重点項目の確認)
→ ペアで発表・相互評価(２回) → グループで代表者１名発表・評価 → 代表者２名が全体発表

作文の課題は,「由貴奈さんの母親になったつもりで,天国の由貴奈さんに手紙を書く」こととして，授業中に取り組ませた。手紙に含めるべき内容は，以下の４点とした。

・彼女の詩「命」が刺繍(ししゅう)されたキルトを受け取ったこと。
・そのキルトを作った人たちと作った理由について。
・そのキルトを受け取った後，自分は何をしたか。
・そのキルトを受け取って，自分は何を感じたか。どう感じたか。

この内容をきちんと手紙に書くことができれば，本文の内容を正確に理解できており，本文の要約が英語で書けることにもなる。また,「自分は何を感じたか」の部分を表現するには，母親の心情を正確に読み取っている必要がある。このように，読んだ内容に基づいて，自己表現ができるよう工夫した課題を設定した。

また，英文暗唱の成果を試すため，生徒には教科書やワークシートは見ずに手紙を書くよう指示した。暗唱した英文を，人称を変えたり時制を変えたりしながら，実際の場面で使用させるよい機会となった。大部分の生徒が，90～130 語程度の手紙を，約 30 分で書き終えることができた。

この出来上がった原稿はすべて添削した。文法的な間違いが多い英文をインプットさせても，英語表現力向上に必要な「自分のものとして使える正しい英文」量を増やすことにはならない。生徒も自分が書いた英文が正しいか，通じるかを確信できないまま発表するのには不安を感じるはずである。今回の活動については，自信をもって発表できるよう添削指導が必要と判断した。

資料１は，生徒の作文例である。文法的な誤りについては添削をしたが，手紙の構成には手を加えていない。下線部が，本文の表現を利用している箇所である。暗唱した表現をたくさん使用しており，内容的にも申し分ないものが出来上がった。

【資料１　生徒の作文例】

Dear Yukina

A long time has passed since you are gone. I'm doing fine.

By the way, we received a quilt on which your poem was embroidered. Elementary school students gave it to us. Their teacher was worried about the bullying in her class. She wanted them to understand the preciousness of their lives. So she read the poem to her students and they realized how important life is. They wanted to do something to thank you and they made the quilt.

After I got it, I sent them a beautiful bouquet with a letter in place of you. I was very glad that your message touched their hearts. I hope that your message will spread from person to person and you continue to live on in all of us.

添削した作文を生徒に返却し，訂正すべき箇所は直させた後,音読の練習のため 20 分ほど時間を与えた。練習開始の前に，発表時には以下の観点から聞き手が評価をすることを伝え，練習する際の重点項目とするよう伝えた（**資料２評価シート**参照)。

・手紙をなるべく見ずに発表すること。
・由貴奈さんの母親になったつもりで，由貴奈さんに語りかけるように発表すること。
・相手が分かりやすいように，ゆっくりと，はっきりと発音すること。

練習後，ペアを組んでお互いに発表させ，評価をさせた。その後，ペアを変え再度，発表と評価を行った（**資料３，４**）。次に４人グループになり，代表者１名が発表し，残り３名が評価をした。最後に，クラス全体の前で２名に発表をしてもらった。この際は，評価はさせなかった。

【資料２　評価シート】

Evaluation Sheet for Post Reading of Lesson 4

Presenter: _____

Evaluator: _____

Listen to your partner read his / her letter to Yukina and evaluate their presentation.

1. Your partner has talked about the following things:
   - ①彼女の詩「命」が刺繍（ししゅう）されたキルトを受け取ったこと。 [○ ×]
   - ②そのキルトを作った人たちと作った理由について。 [○ ×]
   - ③そのキルトを受け取った後，自分は何をしたか。 [○ ×]
   - ④そのキルトを受け取って，自分は何を感じたか。どう感じたか。 [○ ×]
2. Your partner was just like Yukina's mother reading the letter to Yukina. [◎ ○ △ ×]
3. Your partner read the letter clearly enough for you to understand it easily. [◎ ○ △ ×]
4. Your comments:

.....

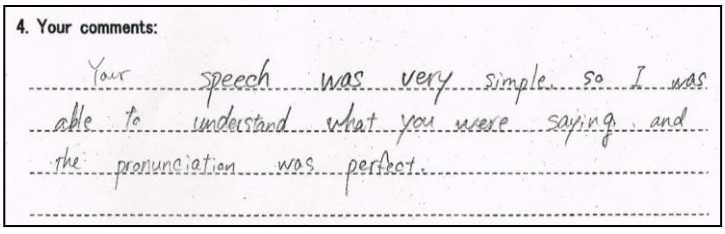
.....

.....

.....

【資料３　発表の様子】

【資料４　生徒のコメント例】



(4) アンケートによる生徒の達成状況（自己評価）の把握と考察

単元終了後に，担当する２学級の生徒(各 40 名，計 80 名)を対象にアンケート調査を行った。項目は，単元目標の達成度合いを自己評価させるものに加え，仮説の検証のために，「手紙の発表が堂々とできたか」と，「英語表現力が向上したか」についても質問した。結果は**資料５**のとおりである。

【資料５　アンケート結果】

観点	質問項目	評価基準	A組（人）	B組（人）	計（人）	%
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度について	①答えの確認や暗唱活動，発表などで，積極的にペアワークに取り組むことができた。	良くできた	20	13	33	41.25
		まあまあできた	20	22	42	52.50
		あまりできなかった	0	5	5	6.25
		できなかった	0	0	0	0.00
	②Part 1に出てきたクラスの生徒たち，由貴奈さんと友人，母親の心情などについて，積極的に読み取ろうとした。	良くできた	17	13	30	37.50
		まあまあできた	20	21	41	51.25
		あまりできなかった	3	6	9	11.25
		できなかった	0	0	0	0.00
イ 外国語表現の能力について	①本文の内容に基づき，由貴奈さんの母親になったつもりで，送られてきたキルトについて報告する手紙を，由貴奈さんに書くことができた。	良くできた	14	9	23	28.75
		まあまあできた	20	18	38	47.50
		あまりできなかった	6	13	19	23.75
		できなかった	0	0	0	0.00
	②この手紙を，由貴奈さんに語りかけるように音読することができた。	良くできた	3	3	6	7.50
		まあまあできた	16	9	25	31.25
		あまりできなかった	19	27	46	57.50
		できなかった	2	1	3	3.75
ウ 外国語理解の能力について	①Part 1に出てきたクラスの生徒たち，由貴奈さんとその友人，母親の心情などについて，読み取ることができた。	良くできた	15	9	24	30.00
		まあまあできた	24	26	50	62.50
		あまりできなかった	1	5	6	7.50
		できなかった	0	0	0	0.00
	②他の生徒の発表を聞いて，正しく理解し，英語で感想を伝えることができた。	良くできた	3	2	5	6.25
		まあまあできた	18	19	37	46.25
		あまりできなかった	15	14	29	36.25
		できなかった	4	5	9	11.25
エ 仮説の検証	①Lesson 4を学習する前と比較して，音読，暗唱，発表の活動を通じて，自分の英語表現力が向上した。	向上した	10	9	19	23.75
		まあまあ向上した	22	20	42	52.50
		あまり向上しなかった	8	7	15	18.75
		向上しなかった	0	4	4	5.00
	②この手紙を音読するときに，堂々と発表することができた。	良くできた	11	1	12	15.00
		まあまあできた	21	18	39	48.75
		あまりできなかった	8	21	29	36.25
		できなかった	0	0	0	0.00

「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」については，ア①，②から，生徒の授業に対する取組と積極的な読み取りをしようとする態度は良好であることが分かり，目標はおおむね達成できたと言える。

「外国語表現の能力」のイ①については，７(2)で述べる。イ②については，生徒の達成度合いが著しく低くなっている。これは，生徒が「演じる」ことに慣れていなかったことが原因であると考えられる。手紙が出来上がった後の音読練習や発音練習には熱心に取り組んでいたが，母親が由貴奈さんに語りかけるように音読することは「照れ」もあり，難しかったようだ。このような表現力を苦手とする生徒は多いので，根気よく指導を続けていきたい。

「外国語理解の能力」については，ウ①は良好であった。しかし，ウ②については，約半分の生徒が達成できていないと感じていることが分かった。授業中の観察では，発表を聞く態度はよく，相手の発表を理解することもできていたようだが，感想を英語で書くことが難しかったと思われる。褒めるときの表現や理解を示す表現などを紹介し，定着させていきたい。

7　成果と課題

(1) 仮説１の検証

登場人物の心情を積極的に読み取ろうとしたかというア②の質問に対して,「良くできた」と回答した生徒が 37.5%,「まあまあできた」とした生徒が 51.2%おり，合わせて 88.7%の生徒が肯定的な回答をした。また,実際に読み取ることができたかというウ①の質問に関しても,「良くできた」が 30.0%,「まあまあできた」が 62.5%で，92.5%の生徒が肯定的な回答をした。このことから，段階的な問いの工夫をすることにより，生徒が積極的に内容理解をしようと努め，また，筆者のメッセージや登場人物の心情を読み取ることができると分かった。

(2) 仮説 2 の検証

６(3)でも述べたとおり，今回のアウトプット活動では，生徒が書く手紙の内容を指定し，その手紙がそのまま本文の要約にもなるよう工夫した。その結果，時間内に手紙を完成できなかった生徒は，皆無に等しかった。添削の必要はあったが，ほぼ全ての生徒が，読んだ内容に基づいてまとまった分量の英語を書くことができた。

生徒の自己評価では，指示された内容を含めた手紙を書くことができたかというイ①の質問について,「良くできた」と「まあまあできた」を合わせた肯定的意見が 76.25%であった。このことから,まとまった分量を書くだけではなく，内容的にもある程度満足のいくものが書けていたようだ。

また，音読・暗唱・発表により英語表現力が向上したかというエ①の質問に対して,「向上した」と回答した生徒が 23.75%,「まあまあ向上した」とした生徒が 52.5%おり，合わせて 76.25%の生徒が肯定的な回答をした。本文やワークシートを見ずに由貴奈さんへの手紙を書く活動があることを何度も伝えておいたため，本文の暗唱に積極的に取り組んだ生徒が多かった。そして，実際に本文を見ずに手紙を書き，音読練習をし，発表するという活動ができたことで，英語表現力が向上した，と答えた生徒が多かったと思われる。

しかし反面，イ①，エ①ともに，約４分の１の生徒が否定的な意見をもっていることも注目に値する。これらの生徒は英語に苦手意識があり，英語を覚えること自体が困難だったことが原因の一つであると考えられる。この点については，７(4)で詳しく述べる。

これらのことから，まだ具体的な手だてには改善の余地はあるが，単元で示される英文を確実に理解した上で,繰り返し音読練習や暗唱をさせれば,「自分のものとして使える正しい英語」の量が増え，多くの生徒の英語表現力が向上することが分かった。また一方，暗記や暗唱だけでは全ての生徒の英語力を伸ばすには不十分であり，別の指導方法を考えていく必要があることも分かった。

(3) 仮説の３検証

自分が書いた手紙を堂々と発表ができたかというエ②の質問については，学級間の相違という興味深い結果が得られた。Ａ組の方では,「良くできた」は 27.5%,「まあまあできた」が 52.5%で，肯定的意見が 80.0%であった。自由記述においても「本文をまねて作ったので，自分の書いている文が理解しやすかった。また，先生の添削があり，直すことができたので，堂々と発表することができた」というような意見が多く記されていた。

一方，ほとんど同じ方法で授業を進めていたにもかかわらず，Ｂ組の方は，肯定的意見の生徒は 47.5%しかおらず,「あまりできなかった」と回答した生徒が 52.5%と過半数を占めた。Ｂ組の生徒の自由記述欄には,「自分が書いた文章が正しいのか自信がもてず，堂々と発表できなかった」という記述が多数見られた。私としては，どちらのクラスも同様に添削したつもりであったが，Ｂ組の生徒

は添削を受けた後の自分の文章にあまり自信がもてていなかった。もう少し丁寧に指導する必要があったと思われる。

これらのことから，正しいと自信がもてる英文を，練習時間を十分に与えてから発表させれば，生徒が英語を堂々と話すことができることが分かった。逆に，英文の正しさに自信がもてないときの生徒の抵抗感は，相当強いことも分かった。

(4) 今後の課題

本研究で立てた仮説はほぼ妥当であると考えられるが，改善すべき点も多く見つかった。特に７(2)で述べたとおり，英語に苦手意識があり，英語を覚えること自体に困難を感じる生徒には，今回の活動はあまり有効ではないことが分かった。

また，仮説３の「堂々と発表する」ことについては，「英語の発音に自信がもてないため，堂々と発表できなかった」という記述も目立った。十分な音読練習をさせてきたつもりであったが，発音が得意でない生徒の苦手意識は想像以上に強いことが分かった。

これらの問題点を解決するためには，授業をさらに実践的な活動の場に変えていく必要があると考える。つまり，音読や暗唱に過度の時間を割くのではなく，「生徒が自己表現のために英語を使用する機会」を十分に与えることの方がより有効なのではないか。そのような場面を多く取り入れることで，生徒は常に英語を使うことが求められるため，表現の正確さについては曖昧さを抱えながらも，意味内容を伝えることの方が重要だと気付くはずである。また，生徒自身が「使えるようになりたい」と感じる表現に注意を払い，それを使ってみることでインテイクする，という実際の言語習得の場面に近い流れが出来上がると考えられる。

さらに，発音が苦手な生徒には，その改善に向けた指導ももちろん行っていくが，自分の英語でも相手に伝わるという経験を積み重ねさせることで，英語を話すことに対する不必要な抵抗感を軽減させることができるだろう。また，相手にうまく伝わらなかったときには，何が問題だったのかを自ら考え，次の活動時にはうまく伝えることができるよう，自発的に学習していく態度も身に付けられるのではないか。

具体的には，読んだ内容に基づいて，自分ならどうするか，自分はどう考えるか，という問いを毎回の授業で生徒に投げかけ，ペア・ワークやグループ・ワークで意見を述べさせ，議論させることなどが考えられる。また同時に，自分がなぜそう考えるのかも述べさせることで，論理的思考力も養うことができるだろう。

今後このような内容を取り入れた授業を実践し，生徒の変容を見ていきたいと考えている。

８　おわりに

アンケートの自由記述の中で，印象に残るコメントがあった。それは「ペアの相手がしっかりと聞く姿勢を示してくれて発表しやすかった」というものであった。コミュニケーションとは一方的なものではなく，双方向的なものである。話すことや書くことなど，発信することの重要性が強調されることが多いが，真剣に相手の言うことを聞く態度も同様に大切であることを改めて認識した。

最後に，英語科内のチームワークについて，その重要性を強調しておきたい。いよいよ来年度の１年生からは新学習指導要領に対応した新しい教科書を使用することになる。その内容について事前に英語科教員全員で話し合い，新しい授業方法とワークシートなどの教材を共同で作っていく体制が理想であると考える。そして一度使った教材については，反省をもとに改良を加えて次年度に再び使用するというシステムが出来上がれば，よりよい授業方法とよりよいワークシートが引き継がれ，学校

の財産となっていくはずである。そのような体制の構築が,授業改善とともに我々に求められている。

多くの生徒にとって,日常生活の中で英語に接する機会はきわめて少ない。そのような状況の中で,英語によるコミュニケーション能力を伸ばしていくためには，英語の授業をより実践的なものに変えていく必要がある。本校でも今回の研究を通して見えてきた新しい可能性に向けて，英語科全体で協力し，さらなる授業改善を進めていきたい。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年３月告示
○　文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』
○　愛知県総合教育センター(2005)『授業の手引き　高等学校　英語』
○　磯田貴道(2010)『教科書の文章を活用する英語指導―授業を活性化する技 108』 成美堂
○　今井康人(2011)『スーパー英文読解 英語を自動化するトレーニング 基礎編』 アルク
○　今井康人(2012)『スーパー英文読解 英語を自動化するトレーニング 応用編』 アルク
○　卯城祐司編著(2011)『英語で英語を読む授業』 研究社
○　大井恭子編著(2010)『パラグラフ・ライティング指導入門』 大修館書店
○　岡部幸枝・松本茂編著(2010)『高等学校新学習指導要領の展開 外国語科英語編』 明治図書
○　金谷憲編著(2011)『高校英語授業を変える！ 訳読オンリーから抜け出す３つの授業モデル』アルク
○　齋藤榮二(2011)『生徒の間違いを減らす英語指導法―インテイク・リーディングのすすめ』三省堂
○　高島英幸(2000)『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』大修館書店
○　高島英幸(2005)『文法項目別 英語のタスク活動とタスク―34 の実践と評価』 大修館書店
○　高島英幸(2011)『英文法導入のための「フォーカス・オン・フォーム」アプローチ 』大修館書店
○　田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸編著(2011)『推論発問を取り入れた英語リーディング指導―深い読みを促す英語授業』 三省堂
○　和田玲(2009)『5 STEP アクティブ・リーディング』 アルク

【資料６　ワークシート（一部）】

PRO-VISION ENGLISH COURSE I Worksheet No. 30 / Lesson 4 No. 1

Lesson 4 Yukina's Message: Until the Battery Runs Out

＜One of the Goals of this Lesson＞

由貴奈さんの母親になったつもりで、由貴奈さんに手紙を書く。（本文・ワークシートを見ずに！）

＜Pre-Reading＞

① Look at the picture on page 40 in your textbook. Read the introduction there.

② Read the poem called "Life."

③ Yukina wrote the poem, but this quilt was not made by her. Who do you think made this quilt? Guess and answer in English.

_____

_____

④ New words:

"precious"… very important to you

"needle"… a thin, pointed metal object with a small hole at one end for thread, used in sewing

＜宮越由貴奈さんの「命」の詩を掲載＞

＜While-Reading Part 1＞

Task 1: First Reading Read Part 1 and answer the following questions.

There was an elementary school teacher who was worried about the ① bullying in her class. She tried hard to solve the problem and hit on a good idea. She read a poem called "Life" to her students. She hoped they would understand the *preciousness of their lives and respect each other. As she read on, the class became silent. ② Something touched their hearts.

Miyakoshi Yukina, the author of "Life," is not alive, but the students wanted to do something to [A] her. They decided to ③ embroider her poem on a quilt and send it to Yukina's family. When they started the work, they found that *needlework was not as easy as they had expected. The classmates gave a helping hand to each other. To their surprise, the class had been ④ united by the time they finished. There was no more [B] in the class.

After the students sent the quilt to Yukina's family, a beautiful ⑤ bouquet with a letter arrived at their classroom. It was from Yukina's mother.

"Thank you for the present. I am sending you these flowers in place of Yukina. When she was writing the poem, there was a lot of news about bullying and ⑥ suicide. She was very angry to hear such news. Some of her friends [C] in the hospital, although they had wanted to live. She knew how important life is and wanted to give ⑦ this message to us. I am sure that Yukina is [D] you understood ⑦ her message."

1. What's the meaning of the word ① bullying? Answer in Japanese. **いじめ**
2. Fill in [A] with one English word. **t thank**
3. What's the meaning of the word ③ embroider? Answer in Japanese. **～を刺繍する**
4. What's the meaning of the word ④ unite? Answer in Japanese. **～を一つにする**
5. Fill in [B] with one English word. **bullying**
6. What's the meaning of the word ⑤ bouquet? Answer in Japanese. **花束**
7. What's the meaning of the word ⑥ suicide? Answer in Japanese. **自殺**
8. Fill in [C] with one English word. **d died**
9. Fill in [D] with one English word. **g glad**

Task 2: Second Reading

1. Fill in the blanks below, using words you can find in the same paragraph.（動詞は過去形に）
   ②≒ They **understood the preciousness of their lives**.
2. What is ⑦? Answer in English.
   ⑦≒ **how important life is**

【資料７　作文用ワークシート】

PRO-VISION ENGLISH COURSE I Worksheet No. 41 / Lesson 4 No. 12

Lesson 4 Yukina's Message: Until the Battery Runs Out

Post Reading

由貴奈さんの母親になったつもりで、以下の情報を入れて天国の由貴奈さんに手紙を書きなさい。

①彼女の詩「命」が刺繍（ししゅう）されたキルトを受け取ったこと。

②そのキルトを作った人たちと作った理由について。

③そのキルトを受け取った後、自分は何をしたか。

④そのキルトを受け取って、自分は何を感じたか。どう感じたか。

※教科書・ワークシートを見ずに書くこと。

Dear Yukina,

Class (　　) No.(　　) Name (　　)

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業
コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究
－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　５

速読力・表現力を高める指導方法

－オーバーラッピングとシャドーイングを取り入れた授業実践－

愛知県立一宮高等学校　教諭　豊島　澄子

１　はじめに

本校には普通科とファッション創造科があり，普通科はほぼ全員が大学に進学し，ファッション創造科も短期大学，専門学校を含めて９割以上の生徒が進学している。また，文部科学省から平成 15 年度と平成 20 年度にそれぞれ５年間のスーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）の研究指定を受け，科学技術教育を重視した教育課程になっている。

学習指導については，より深く濃い授業となるように 65 分授業を行うとともに，授業への集中と家庭での予習・復習を徹底している。英語科で特徴的なこととしては，ＳＳＨの一環として，第２・３学年の理系で科学に関する英語の読み物を読んだり，英語の講演を聞いたりする授業を行い，発展的な学習ができるよう工夫をしていることである。

２　生徒の実態

(1) 本校普通科生徒の授業に対する意識

本校普通科第１学年２クラス 80 人に対して平成 24 年７月にアンケートを行った。

質問１　授業で重点をおいてほしいことは何ですか。	
①　英語を聞くこと	4 人（ 5.0%）
②　英語を話すこと	22 人（27.5%）
③　英語を読むこと	3 人（ 3.8%）
④　英語を書くこと	5 人（ 6.3%）
⑤　英語を聞くこと，話すこと，読むこと，書くことをバランスよく	46 人（57.5%）
質問２　授業で英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいと思いますか。	
①　そう思う	54 人（67.5%）
②　ややそう思う	23 人（28.8%）
③　あまりそう思わない	3 人（ 3.8%）
④　全くそう思わない	0 人（ 0.0%）
質問３　高校での英語の授業でスピーチをしたいですか。	
①　そう思う	7 人（ 8.8%）
②　ややそう思う	19 人（23.8%）
③　あまりそう思わない	43 人（53.8%）
④　全くそう思わない	11 人（13.8%）

アンケートの結果によると，英語の授業で重点を置いてほしいこととして，約６割の生徒が「英語を聞くこと，話すこと，読むこと，書くことをバランスよく」と答え，約３割の生徒は「英語を話すこと」と回答している。英語でのコミュニケーション能力を身に付けたいと思っている生徒は９割を超えている。一方，授業でスピーチをしたいかという質問に対しては，「そう思う」「ややそう思う」を合わせて約３割の生徒が肯定的な回答をしている。

(2) 授業改善の方向性

生徒のコミュニケーション能力を育成するという新学習指導要領の趣旨を踏まえながら，生徒の実態に合った授業改善を進めることが重要である。生徒の希望である「英語を話すこと」を含めた表現の能力を伸ばし，同時に理解の能力もバランス良く向上させるための手だてが必要である。

３　研究の目的

音声ＣＤを活用し，音読を重視した授業実践を以前より行っているが，平成 17 年度の調査（豊島『リーディングの授業における音読に関する研究－リスニング力・速読力の育成を主眼において－』平成 17 年度愛知県総合教育センター県立学校長期研修研究報告書）において，音読によく取り組んでいる生徒及び意味の切れ目や発音を意識するなど音読のレベルが高い生徒は，黙読のスピードが速くなり，リスニングにも効果があるということが報告された。これを踏まえて，音読を中心とした単元構想に基づく授業実践により，生徒が英語でコミュニケーションを図るための能力を段階的に高めたい。

【目指す生徒像】：英語の音読に積極的に取り組み，速読ができるとともに，英語による自己表現にも意欲的な生徒

４　研究の仮説

研究の目的を達成するために，次のような仮説を立て検証することにした。

仮説１：シャドーイングなどの音読練習の方法を工夫すれば，英文を速読できるようになるだろう。
仮説２：スピーチなどの言語活動を生徒が取り組みやすいように工夫すれば，英語による自己表現ができるようになるだろう。

５　研究の方法

本校普通科第１学年生徒を対象に，英語Ⅰの授業において以下の方法で実践することとした。

(1) 黙読・音読指導の工夫…手だてＡ

ア　音読レベルプリントによる，音読のねらいの理解（**資料１**）
イ　黙読と所要時間の計測（**資料２**）
ウ　ワードハント（**資料２**）
エ　オーバーラッピング
オ　シャドーイング
カ　逐次通訳

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動の工夫…手だてＢ

ア　１分間スピーチとＱ－Ａ（**資料３，４**）
イ　授業についての感想文（**資料５**）
ウ　新出表現を活用した作文（**資料５**）

(3) アンケートによる生徒の変容の把握

・　単元終了後にアンケートを実施し，その結果を分析する。

(4) 単元構想

1　単元名　　Lesson 6　Do It Now or Later

2　単元の目標

・理解できないことや未知の語句があっても，推測するなどして読み続ける。
・他の生徒の発表を聞いて，質問に積極的に答える。
・授業の感想を英語で簡潔に書く。
・習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて，聞き手に分かりやすく伝える。
・登場人物の言動やその言動の理由を捉えることを通じ，概要や要点を理解する。
・他の生徒の発表を聞いて正しく理解し，質問に答える。
・関係代名詞非制限用法，形式主語 It is 形容詞(名詞) that SV，同格の that を理解する。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・理解できないことや未知の語句があっても，推測するなどして読み続けている。 ・他の生徒の発表を聞いて，質問に積極的に答えている。	・授業の感想を英語で簡潔に書くことができる。 ・習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて，聞き手に分かりやすく伝えることができる。	・登場人物の言動やその言動の理由を捉えることを通じ，概要や要点を理解することができる。 ・他の生徒の発表を聞いて正しく理解し，質問に答えることができる。	・関係代名詞非制限用法，形式主語 It is 形容詞(名詞) that SV，同格の that を理解している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は，高校生のユキが，先生からもらった質問を読み，優先順位の決め手は何なのかについて考える話である。

本文の内容を黙読，音読，授業の解説，シャドーイング等を通して理解し，最終的には，生徒自身の場合に当てはめて，本文の内容を使って表現できる力を養う。

5　単元の指導計画（全５時間）　※１時間：65 分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第１次 （１）	【１分間スピーチ】 ・当てられた生徒が１分間スピーチをする。 ・スピーチ生徒自身が２～３問，スピーチについての質問をするので，他の生徒はその質問に答える。 ・生徒自身が次の生徒を当てる。 【イントロダクション】 ・パート全体を黙読し，読むスピードを計る。 ・ワードハント：本文中の新出単語，キーワードなどの意味を書いたプリントに該当の英単語を書きだす。	・難しい単語などを使った場合は適宜板書し，生徒の理解の手助けをする。 ・質問がうまくできないときは手助けする。手だてＢ ・文脈より単語の意味を類推させる。 手だてＡ

	・オーバーラッピング（パート全体）をする。 ・章末の Comprehension に答えさせ，答え合わせをする。	・間違えても，ついていけなくてもそのための努力をさせる。手だてＡ
第２次 (3.5)	【１分間スピーチ】 ・第１次と同様に行う。 【Part1ー4 の内容理解】 ・本文をオーバーラッピングする。 ・脚注のＱ－Ａに答える。 ・各パートのあらすじを答える。 ・段落ごとの１行要約をする。	
	・本文の内容を理解する。ここで必要に応じて単語の読みを行ったり，文を教員の後に続いて読ませたりする。	・曖昧に読んでいた単語の適切な読み方を覚えさせる。手だてＡ
	・本文をＣＤとオーバーラッピングする（できる生徒はこの段階で教科書を閉じてシャドーイング)。 ・教科書を閉じてシャドーイングする。 ・教員が日本語を言い，生徒がその英語を言う（逐次通訳）。長い文は途中で区切ることもある。	・内容理解前よりうまく読めているか確認させる。手だてＡ
第３次 (0.5)	・パート全体を黙読し，読むスピードを計る。	・内容理解前と読むスピードがどの程度速くなったのか把握させる。手だてＡ
終了後 宿題	【自分の考えの発表】 ・本文を読み終えた感想や自分の考えを書いてまとめる。 ・新出単語や表現を使った例文を５文以上作る。	手だてＢ

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　授業の感想を英語で簡潔に書くことができる。

エ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，簡潔に書く。（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

○　習った表現を使って身近なことを英語で簡潔に書いて，聞き手に分かりやすく伝えることができる。

ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりする。（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

６　研究の実際と考察

(1) 黙読・音読指導

年度当初の授業で，音読レベルプリント（一宮高p. 10 **資料１**）を使用して，音読の大切さを説いた。そして，毎回の授業ごと，そして家庭での復習時に記録が取れるようにして，生徒の音読の力を把握させている。

各課の最初に黙読の速度を測り，プリント（一宮高p. 11 **資料２**）に記入させている。15 分ほど時間を取っているが，大半の生徒は 10 分以内で読めるので，残りの時間をワードハントに取り組ませている。「速度を測る」と言われると，気持ちが焦ってしまい，目を通すだけで「読んだ」という気になってしまう生徒もいるが，ワードハントに取り組ませることでそれを防ぐ意味も込めている。また，生徒はこのプリントを絶えず手元に置いているため，各課が終わったあとにもう一度黙読の速度を測る際もすぐに比較をすることができる。

各課全体で読む（黙読・音読ともに）回数はおおむね以下のとおりである。「全体の」と記していないものについては各パートごとの回数を示す。

読み方	回数	目的・留意点
全体の黙読	１回	黙読の速度を測る
全体のオーバーラッピング	１回	英語のスピードに慣れる
オーバーラッピング	１回	授業の最初にそのパートに慣れるため
重要な言語表現の Read and Repeat	２回	発音を確認し，教師に続いて繰り返すことで表現を覚える
オーバーラッピング	１回	理解できているか確認するため（できる生徒にはこの段階でシャドーイングさせる）
シャドーイング	１回	教科書を閉じ，聞いてどれだけ英語が再現できるかを確認する
日本語→英語の逐語通訳	１回	日本語を聞いて英語が再現できるかを確認する
全体の黙読	１回	最初と最後でどの程度黙読のスピードが上がったか知る

(2) 自分の考えを伝え合う言語活動

ア　１分間スピーチ

各授業の最初に毎回１分間スピーチを行っている。年度当初にプリント（一宮高p. 12 **資料３**）を配布し，スピーチ作成上の条件を説明した。「１週間以内に新しく習った単語または表現を３個以上使うこと」という条件を付けることで，授業で習った表現を実際に応用できるよう工夫してある。一方的にスピーチをするだけでなく，内容に関する質問を２～３問発話者がするために，聞く生徒たちは一生懸命聞くことができるし，話し手が使った新しい表現を理解しているか把握することもできる。スピーチ原稿記入用プリントは**資料４**（一宮高p. 13）のとおりとした。生徒のスピーチ例を右に示す。下線部が条件に合った表現の使用箇所である。

【生徒のスピーチ例】（誤りはそのままにしてある）

I'll talk about my trouble these days. It's about a meal. There is a small vegetable garden in my house. Now, my mother brings ups a bitter gourd there. Bitter gourd is green and made in Okinawa. <u>According to</u> the name, it is very very bitter. The other day, large rain fell. So <u>I had expected</u> that it died. <u>Instead</u>, I was surprised that it grew very big. Unfortunately, it comes out to dinner every day. This is my trouble. I am tired of fried bitter gourd.

Q1 What is a bitter gourd called in Japanese?

Q2 What is my trouble these days?

Q3 Who brings up a bitter gourd?

イ　授業の感想

各課が終わった後，授業の感想文を英語で書かせている（一宮高p. 14 **資料５**）。高校に入学した当初は，英語の授業の進め方の感想を書いている生徒も多かったが，次第に内容についての感想を書く生徒が増えてきた。現在のところ，課題として取り組ませている。

ウ　新出表現を活用した作文

「イ　授業の感想」と同じプリント（**資料５**）を用いて，習った単語・表現を用いて身の回りの出来事を全員に書かせている。単語や表現は覚えることが大切なのはもちろんではあるが，コミュニケーションを図るためには，覚えたものを使えなければいけない。これも生徒たちは喜んで書いている。中にはこの項目を使って一つの話にしてしまう生徒もいる。

(3) アンケート結果

９月下旬と 10 月中旬の２回，担当している英語Ⅰの２クラスの生徒（80 人）にアンケートを取った。**アンケート１**は 77 人，**アンケート２**は 79 人が回答した。

【アンケート１】

質問１　音読をしていますか。

a. 学校でも家でも普段からする	4 人（ 5.2%）
b. 学校ではするが家ではテスト前のみ	41 人（53.2%）
c. 学校ではするが家ではめったにしない	25 人（32.5%）
d. 学校でもサボり気味	2 人（ 2.6%）
e. その他	5 人（ 6.5%）
内訳：授業＋家では気が向いたとき（＋テスト前）	4 人
寝るときに英語をＢＧＭで流しながら寝る	1 人

質問２　音読をしている時の自分のレベルは。

a. ＣＤより遅い，又はＣＤのスピードについていくのがやっと	18 人（23.4%）
b. ＣＤと同じくらいのスピードで声に出して読める	38 人（49.4%）
c. ＣＤに合わせて切れ目，発音，内容などを意識しながら読める	9 人（11.7%）
d. 授業で習ったことなら本を見ないである程度シャドーイングできる	10 人（13.0%）
e. 初見の英文でもある程度シャドーイングできる	1 人（ 1.3%）
無回答	1 人（ 1.3%）

質問３　音読は暗記・リスニング・速読にとって大切だと思いますか。

	暗記	リスニング	速読
a. はい	54 人（70.1%）	53 人（68.8%）	59 人（76.6%）
b. まあまあ	18 人（23.4%）	19 人（24.7%）	14 人（18.2%）
c. あまり	4 人（ 5.2%）	5 人（ 6.5%）	4 人（ 5.2%）
d. ぜんぜん	0 人（ 0.0%）	0 人（ 0.0%）	0 人（ 0.0%）
無回答	1 人（ 1.3%）	0 人（ 0.0%）	0 人（ 0.0%）

質問４　Lesson6（733 語）を読んだとき（黙読）の速さを教えてください。

最初の授業　平均　 7 分 1 秒（107.1 語/分）

最後の授業　平均　 5 分 33 秒（137.6 語/分）

【アンケート２】

○１分間スピーチについて

質問１　スピーチを作ったり発表したりすることで英語力が付くと思うか。

①そう思う	**41 人（51.9%）**	**②ややそう思う**	**28 人（35.4%）**
③あまりそう思わない	2 人　(2.5%)	④そう思わない	0 人　(0.0%)
⑤まだやっていない	7 人　(8.9%)	無回答	1 人　(1.3%)

質問２　スピーチを聞くことで英語力が付くと思うか。

①そう思う	**26 人（32.9%）**	**②ややそう思う**	**49 人（62.0%）**
③あまりそう思わない	4 人　(5.1%)	④そう思わない	0 人　(0.0%)

質問３　質問１・２で③④と答えた人へ，なぜそう思うか。

質問４　１分間スピーチについて，感想や思ったことを自由に書いてください。

○感想・作文プリントについて

質問５　添削までたどり着けたか。

①毎回	**13 人（16.5%）**	**②ほぼ**	**21 人（26.6%）**
③たまに	38 人（48.1%）	④一度もない	7 人　(8.9%)

質問６　意欲的に取り組めているか。

①そう思う	**18 人（22.8%）**	**②ややそう思う**	**31 人（39.2%）**
③あまりそう思わない	25 人（31.6%）	④そう思わない	4 人　(5.1%)

質問７　英語力がつくと思うか。

①そう思う	**43 人（54.4%）**	**②ややそう思う**	**35 人（44.3%）**
③あまりそう思わない	0 人　(0.0%)	④そう思わない	0 人　(0.0%)
無回答	1 人　(1.3%)		

○その他

質問８　教科書の解説，大量の音読，１分間スピーチ，Lesson の感想・作文プリント以外に，授業中にどんな活動をすれば英語力が付くと思うか。(複数回答あり)（たとえば，本文の内容について英語でグループ・ディスカッションするとしたら，②と④に答えてください。）

①ペア・ワーク	7 人　(8.9%)
②グループ・ワーク	14 人（17.7%）
③単語熟語小テスト	44 人（55.7%）
④本文の内容に関することを英語で話す	23 人（29.1%）
⑤本文の英語要約	33 人（41.8%）
⑥本文の内容と似た内容を読む	15 人（19.0%）
⑦先生の「英語での」雑談	15 人（19.0%）
⑧今で十分	9 人（11.3%）
⑨その他	1 人　(1.3%)「歌」

7　成果と課題

(1) 仮説１の検証（アンケート１より）

質問４の結果を見る限り，授業中に複数回のオーバーラッピングからシャドーイングへと音読練習の手順を踏んだ結果，速読できるようになっている。本実践後の Lesson 7（847 語）の最初の授業時に測定した黙読の速度は平均 112.5 語／分で，Lesson 8 の最初の授業時の黙読の速度は平均 108.4 語／分であった。入学したころの速度がおよそ 60 語／分だったことを考えるとずいぶん速くなったのだが，ここ最近は 110 語／分を維持している。今後とも記録を取り続けていこうと思う。

右図は質問２と質問４，そして Lesson 7 の黙読の速度の関係を示したものである。音読がうまくできる生徒，シャドーイングができる生徒の方が速く読めるということが数字で現れた。しかも「c」と「d」では，最初の黙読の速度こそは大きく変わらないが，その課の最後，そして次の課での上達度合いが大きいのがはっきり表れている。生徒にすぐにこの結果を示したところ，音読の声が大きくなったように思われる。そこで，まず「d」を目指し，それから３年生までには「e」ができるようになるのを目標にさせた。

【アンケート１】 質問２	人数	L. 6 最初	L. 6 最後	L. 7 最初
	人	速度（語/分）		
a（ＣＤについていくのがやっと）	18	100. 3	117. 7	103. 6
b（ＣＤについていける）	38	104. 5	137. 0	111. 6
c（切れ目･発音･内容を意識できる）	9	118. 3	145. 6	117. 0
d（本文のシャドーイングできる）	10	118. 7	165. 3	133. 1
e（初見のシャドーイングできる）	1	146. 6	209. 4	145. 2
無回答	1			
全体	77	107. 1	137. 6	112. 5

(2) 仮説２の検証（アンケート２より）

「２　生徒の実態」で示したアンケートでは，スピーチをしたくない生徒が３分の２ほどいたが，英語力が付くかという質問に対しては，質問１，質問２とも９割の生徒が前向きな答えをだした。やりたくはないものの，英語力は付くということを実感しているようだ。

質問５～７の，授業の感想・作文プリントの課題については，意欲的に取り組めている生徒が６割程度いる。そして，ほぼ全員が英語力が身に付くことを実感しているので，今後とも続けていきたい。

(3) 今後の課題

おおむね仮説１，２に関しては妥当であると考えられるが，いくつかの課題は残っている。

ア スピーチについて

アンケート２の質問１と２で，「①そう思う」「②ややそう思う」の内訳にずいぶん差がある。質問３及び質問４の自由記述回答を見ると，発表者の声の大きさや，聞き手の英語力がその原因であると考えられる。

今後，単に前に出てスピーチをさせるだけでなく，相手にうまく伝わるような声の大きさ・スピード，そして適切な語彙の使い方も意識させていきたい。

【アンケート２　自由記述回答】

質問３
- 声が小さい・聞きとりにくい
- 早口・間がほしい
- 知らない単語・難しい単語が多く出てくる
- 理解できない・分からない
- まだリスニング力がない・実力不足

質問４
- 相手に分かりやすく伝えるのは難しい・大切
- 相手に興味をもってもらえるような話をするのは難しい
- 声の大きさが大事だと思った
- 発音やアクセントに気をつけてやっていきたい
- いろいろな単語や文法が思いだせるからよい

イ　授業の感想・作文プリントについて

本来，これらを授業中に取り組ませ，発表させるのが理想かもしれないが，本校の方針

として，１つの Lesson に５時間以上かけられないため，課題にしているのが現状である。課題にしてしまう以上，英語力が身に付くと実感しながらも意欲的に取り組めない生徒が出てしまう。何とか意欲を出させるために，添削をしたり，定期考査においても，授業の内容に関した自由英作文をさせたりしているが，やはり，ある程度授業で取り組ませることも必要である。

ウ　その他

アンケート２で，現在授業や課題で行っていること以外に授業中にどんな活動をすれば英語力が付くと思うか質問したところ，意外に「③単語熟語小テスト」の回答が半数を超えた。生徒たちは読むことで暗記しているが，つづりや正確な意味には不安を感じている。また，「⑤本文の英語要約」や「④本文の内容に関することを英語で話す」にも，多くの回答が得られた。

８　おわりに

本研究で取り上げたシャドーイングなどの音読やスピーチなどの言語活動は，単元構想に組み込んで年間を通して計画的に実施している。今後は，年間学習指導計画とＣＡＮ－ＤＯリストを関連付けて作成することにより，他の言語活動とのバランスを取ることや，適切な評価について検討する必要がある。

また，第１学年の英語Ⅰの授業では音読活動を授業の中心に置いて，英語に慣れることと速読ができるようになることを目標にしているが，第２学年の英語Ⅱやライティングの授業では，**アンケート２**で生徒が回答したことを考慮に入れて，生徒が自分の考えや意見を発表するなどの自己表現活動を中心とした単元構想を立て，さらなる授業改善を進めていきたい。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成 21 年３月告示

○　文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』

○　愛知県総合教育センター(2005)『授業の手引き　高等学校　英語』

○　小金沢宏寿(2003)『リスニング力アップのためのシャドーイング活動』英語教育 2003 年９月号

○　千田潤一(1995)『使える英語をモノにする本』国際コミュニケーションズ

○　豊島澄子(2006)『リーディングの授業における音読に関する研究－リスニング力・速読力の育成を主眼においてー』平成 17 年度県立学校長期研修研究報告書（愛知県総合教育センター）

○　宮迫靖静(2003)『データから見た音読の効果』英語教育 2003 年９月号

【資料１　音読レベルプリント】

音読の記録

音読（ここでは CD に合わせて読むこと＝オーバーラッピング）をしているときの自分のレベルを a～d で書いていき，上達の記録をとってみよう。

a. CDについていくのがやっと

ついていけるようになるために練習あるのみ。

b. CDに合わせて声に出して読める

しばらくは重ねて読めばいいけど，だんだん c を意識してみよう。

c. CDに合わせて切れ目，細かい発音，内容などを意識しながら読める

切れ目のチェックは何度も音読の練習をすればそのうち感覚で分かるようになる。そうすれば，初めて見た文でも文の構造を把握するのに苦労しなくなる。

また，内容が意識できれば，リスニング力がずいぶんついてくるようになるはず。黙読で同じことをすれば，読むスピード倍増！（そもそも，読むスピード以上の英語は聞き取れないから，読むこととリスニングには密接な関係がある。）この段階で本文を何回も読んで，そろそろ暗記できている文もあるのでは？←テストで点が取れる！！

d. 本を見ないようにしてある程度シャドーイングができる

これができるようになれば，リスニングはほぼ完璧。読むのも 150wpm(=words per minute)も完璧♪実は同時通訳の訓練法でもあります。

	１回目	２回目	３回目		１回目	２回目	３回目
1-1				6-1			
1-2				6-2			
1-3				6-3			
1-4				6-4			
2-1				7-1			
2-2				7-2			
2-3				7-3			
2-4				7-4			
3-1				8-1			
3-2				8-2			
3-3				8-3			
3-4				8-4			
4-1				R-2			
4-2				9-1			
4-3				9-2			
4-4				9-3			
R-1				9-4			
5-1				10-1			
5-2				10-2			
5-3				10-3			
5-4				10-4			

【資料２　黙読速度記録及びワードハントプリント】

Lesson6
How many words-per-minute can you read?

(from p76 to p83—733 words in total, excluding titles and a table on page 81)

It took _____ min. _____ sec.① to read the whole passage.

Divide 764 by ①(convert into seconds), and you get _____②
Multiply ② by 60, and you get _____③

You can read ③_____ words per minute (wpm).

WORD HUNT ー Find the words that have the following meanings. ー

Introduction & Part 1

いつでも（２語）

～と思う(s で始める)

健康診断

成績

順番をつける

～に先だって/～の前に（２語）

その代わり

変な/奇妙な

結局

予定に入れる

信念

～に従って（２語）

次の（こと）

封筒

Part 2

～に基づいて（４語）

～による（２語）

優先順位

～のことを聞く（２語）

成績/出来

～と関係がある（４語）

整理する

状況

Part3

返事をする

～に直面する

活動

成績がいい（２語）

道理にかなう（２語）

学期

すぐに（２語）

ムダ

Part 4

ガン

成績が悪い（２語）

同時に（４語）

～にもかかわらず

実りある

手術

結果として

～を発見する

経験する

しっかり取り組む（２語）

必ず～する（２語）

否定

胃

【資料３　１分間スピーチ説明プリント】

Class　　No.　　Name

About "One-minute speech"

・テーマはなんでも OK です。「世間話」で十分です。
・ただし，条件として，
「１週間以内に新しく習った単語または表現（文法事項／構文）を３個以上使うこと」
「１分以内になるようにすること」
・あまり難しいことを話さず，分かる範囲のことを言おう。事前に質問に来てくれても OK。
・ゆっくり，大きな声で話そう。みんなにきいてもらうことを意識しよう。

テーマの例と表現

趣味について

I like～.（好き）　I love～.（めっちゃ好き）　I can't live without～.（ないと生きていけない）
I often go to～.（～によく行く）

学校について

I'm going to belong to the ~ club.（～部に入ろうと思う）
I belong to ~ club（入部後は「～部です」）
I want to be ~ in the future.（将来～になりたい）

ふだんのできごと

I enjoyed it very much.（すごく楽しかった）

その他使える表現

To tell the truth,（実はね…，正直言うとね…）　Frankly,（ぶっちゃけ～）

例

I like visiting Korea. But I'm not so-called "Hanryu." I go to Korea about four times a year. I eat Korean food, buy cosmetics and clothes and so on. To tell the truth, I went to Korea last weekend. I enjoyed Kim Gunmo's concert very much and ate kalbi and yukhe. They were very very yummy and I was moved to tears.　（Toyoshima）

Questions の例

スピーチした人が，クラスのみんなに大きな声できこう。３つぐらいで大丈夫です。
（スピーチした人がたずねるから，疑問文でも you ではなくて I です）
What do I like?（いつもすることをきくとき）
What did I eat yesterday?
What did I buy?
What club am I going to belong?

授業中に答えるときは答えだけで大丈夫です。

【資料４　１分間スピーチ原稿記入用プリント】

One-minute speech

Date: (　　,　　)

Questions

【資料５　授業についての感想文及び新出表現を活用した作文の記入用プリント】

Write your own impression about Lesson (　　) in English.

Make at least 5 sentences about things around you
with words or phrases you learned in this lesson.

Class　　No.　　Name

平成 24 年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業
コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究
－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　６

積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

―「英語の歌」「自己表現活動」「発表」を取り入れた言語活動の工夫―

愛知県立松平高等学校　教諭　山本　徳子

１　はじめに

英語の授業では，どのように教えるかは，教員によっていろいろなアプローチの仕方があるが，生徒の到達レベルや興味・関心に応じて柔軟に授業を工夫し，授業を臨機応変に展開していく必要があると考えている。教員が一人で講義するような授業になってしまっては，生徒は飽きてしまい，参加しなくなってしまう危険性がある。英語による授業が求められる中で，生徒に意欲的に参加させるためには，教員による豊富なアイデア，生徒にとって興味・関心の高い題材を取り入れること，分かりやすいワークシートの作成等が必要になってくる。また，できるだけ生徒に英語を使わせるために，発表の場をいかに効果的に設けるかが課題である。

本校では，１年生以外は分割の少人数で英語を教えることが多く，ペア活動，グループ活動を行いやすい環境になっている。今後，より効果的な言語活動を行うために，達成可能な到達目標を設定し，生徒の学習意欲を喚起しながら，できるだけ楽しく教えて，授業の活性化を図りたいと思う。

２　生徒の実態

本校は，中学校から英語を不得意とする生徒が多いという特徴がある。しかし，生徒達は，達成可能で興味・関心のある活動には積極的になる傾向がある。

第１学年 80 名のアンケート結果によると，授業でコミュニケーション能力を身に付けたいと思っている生徒が 63.8%，４技能の中で英語を「話す力」を高等学校の３年間で身に付けたいと思っている生徒が 51.3%と最も多い。英語の授業を通して身に付けたい能力を尋ねたところ，洋画や洋楽を理解しながら聞けるようになりたい，海外のニュースを英語で読めるようになりたい，将来外国の人に自分の思いや考えを相手に伝えることができるようになりたいと希望している生徒が多いことが分かった。

３　研究の目的

教員が授業で英語を使って内容を理解させ，生徒に自分の伝えたいことを英語で表現させることがこれからの英語教育に求められる。内容のあることを話す場合は，あらかじめ頭の中で整理された文が書けていないと，説得力のあるスピーチを行うことはできない。生徒が希望するようなコミュニケーション能力を養うために，メッセージを正確に聞き取ろうとする意欲，そして自分の考えを伝えるための英作文の意欲・能力を向上させるための授業を考案してみたい。

【目指す生徒像】

英語に興味・関心をもって，意欲的に相手の伝えているメッセージを理解し，自らの考えを英語で伝えることにより，積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒。

4　研究の仮説

仮説１：生徒の身近で興味のある英語の歌を教材として取り入れ，歌詞の中のメッセージを正確に聞き取らせ，歌わせることにより，英語を聞くことへの意欲が増し，生徒の英語学習に対する興味・関心を高めることができるだろう。

仮説２：教科書本文から読み取った内容を基に自分の考えを英語で作文し，クラス全員の前で発表し，相互評価をすることにより，自己表現への意欲が高まるだろう。

5　研究の方法

研究の仮説を検証するため，以下の方法で実践を行うことにした。

(1) 英語学習に対する意欲向上のために，英語の歌を聞かせ，歌わせる授業の工夫の手だて

（第１学年で実施 ）

ア　ワークシートを用いて，正確に聞き取らせて，メッセージを理解させる。

(ｱ) ワークシートの歌詞に空欄の入ったものを準備する。

(ｲ) 単語や熟語表現の意味を確認し，ワークシートに書き込ませる。

(ｳ) 楽曲を聞きながら，空欄に入る語を選択肢の中から選び，ワークシートに書き込ませる。

(ｴ) 教員による詩の解説を聞かせる。

(ｵ) 最も強く心に響いたメッセージを英語で書き取らせ，曲の感想を書かせる。

イ　暗記して，歌わせる指導の工夫を行う。

(ｱ) 何度も発音させて，少しずつ覚えさせ，歌わせる。

(ｲ) 学期末考査で歌詞を書かせることにより，定着を確認する。

(2) 英語による自己表現能力の向上のために，本文の内容についての英問英答を行い，自分自身の考えを英語で書き，発表し，評価し合う授業の工夫の手だて

（第３学年で実施 ）

ア　ワークシートを用いて，本文の内容を理解させる。

(ｱ) 文の構造，単語，熟語の語法を確認しながら，理解させる。

(ｲ) あらかじめノートに書き写してある英文に，解説を記入させる。

(ｳ) 設問に答えながら，ワークシートの空所に語句を記入させる。

イ　英問英答を通して，内容理解を深める。

(ｱ) 文の構造が複雑な英文を，パラフレーズして理解させる。

(ｲ) 英問英答を通して，本文の内容について英語で答えさせる。… 手だてＡ

ウ　自分が訪れたい世界の観光都市の魅力と問題点について記述させる。… 手だてＢ

(ｱ) 具体例や参考文献を示し，書くことへの抵抗感を和らげさせる。

エ　個人による発表と自己評価及び相互評価　… 手だてＣ

(ｱ) 聞き取りのポイントと評価の観点を示す。

(ｲ) 今後の自己表現活動への自信と意欲につながるように評価し，激励する。

(3) 単元構想

1　単元名　　Lesson 10　Sinking Venice

2　単元の目標

・ペアワークにおいて，互いに協力しながら音読に積極的に取り組んでいる。
・自分の意見を英語でまとめた内容をクラスメートに分かりやすく発表できる。
・地盤沈下が激しい観光地の魅力と問題点を理解して簡潔に要約することができる。
・世界の訪れたい観光都市について調べ，その都市の魅力と問題点についてまとめることができる。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・ペアワークにおいて，互いに協力しながら音読に積極的に取り組んでいる。	・自分の意見を英語でまとめた内容をクラスメートに分かりやすく発表できる。	・地盤沈下が激しい観光地の魅力と問題点を理解して簡潔に要約することができる。	・世界の訪れたい観光都市について調べ，その都市の魅力と問題点についてまとめることができる。

4　単元の概要と言語活動

本単元は，ベニスの地盤沈下に関する記事である。問題点を正確に読み取らせた上で，ワークシートにまとめさせ，正確に内容を読み取る能力を養う。また，自分が訪れたい世界の観光都市の魅力と問題点について考えをまとめ，発表し，評価し合うことにより英語による表現能力を養う。

5　単元の指導計画（全４時間）　※1時間：50分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第１次 （２）	【イントロダクション】 ・世界の観光都市の魅力と問題点について教師のオーラル・イントロダクションを聞く。 【内容理解】 ・本時の内容についての説明を聞く。 ・新出単語の発音と意味の確認をする。 ・本文を，教師の後について，区切って読む。 ・ペアで交互に音読する。 ・本文を読み，True or False に答える。 ・英語で質問に答えながら，本文の概要を理解する。 ・地盤沈下が激しい観光地ベニスの問題点を簡潔に要約して，ワークシートにまとめる。	・世界における観光都市の例を挙げ，興味をもたせる。 ・分かりにくい文を，できるだけ分かりやすい表現を使ってパラフレーズして提示し，生徒に理解させる。 ・大きな声で読ませる。 ・聞き手に正確に伝わるように，ゆっくりはっきりと発音させる。 ・ワークシートに答えを記入させる。 手だてＡ ・必要に応じて，個別の支援をする。

第２次 （１） 第３次 （１）	【自己表現作文】 ・世界の訪れたい観光都市について調べ，その都市の問題点と魅力について英語でまとめる。 【発表】 ・クラスの前で発表し，評価し合う。 ・大きな声で，ゆっくりと発表する。	・発表用のレポートに英語で記入させる。 ・例文を提示し，ワークシートに訪れたい理由を３点，問題点とともに書き込ませる。 手だてＢ ・評価のポイントを事前に説明し，発表時に意識させる。ＡＬＴにも評価で協力してもらう。 手だてＣ

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　地盤沈下が激しい観光地の魅力と問題点を理解して簡潔に要約することができる。

イ　説明や物語などを読んで，情報や考えなどを理解したり，概要や要点をとらえたりする。また，聞き手に伝わるように音読する。　（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

○　自分の意見を英語でまとめた内容をクラスメートに分かりやすく発表できる。

ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりする。　（コミュニケーション英語Ⅰ　２(1)）

７　言語活動の充実の工夫

自己表現能力を向上させるためには，スピーキング能力だけでなくライティング能力も必要である。英作文は生徒にとって困難な活動であるが，次のような支援をする。

・英作文の手順が分かるように，ワークシートにあらかじめ作文の骨組みを提示する。
・具体的な例文やつながりを示す語句を提示して取り組みやすくする。
・ＡＬＴがいろいろな国の魅力と問題点を板書し，模範例として発表する。
・教員が生徒の英作文の誤りを指摘して訂正させたり，添削したりする。
・生徒が英作文を発表し相互評価する機会を設けて，活動への意欲をもたせる。

○第２次【自己表現作文】の指導手順及び留意点

①〈どこの国の観光都市について書くのか決める〉教員が，世界各国の例を挙げ，ワークシートで具体的に指示する。到達可能レベルで，生徒にとって興味のある内容であることに留意する。

⇩

②〈論理的に文を構成する〉つながりを示す語句を利用して論理的な構成となるように指導する。

⇩

③〈教員が添削する〉生徒が書いた英文を，教員がチェックし添削する。口頭で，文法的な誤りを指摘し，正しい表現に訂正させる。

⇩

④〈クラスの前で発表し，評価し合う〉クラスの前で，個人で発表し，相互に評価しあう。評価の観点に留意し，正しい発音で，はっきり，ゆっくりと，大きな声で，発表するように励ますことで，発表することに対しての意欲付けを行う。

⇩

⑤〈考査で正確に記述させる〉暗記して解答させ，ライティング能力として評価し，意欲を高める。

６　研究の実際と考察

(1) 英語の歌を聞いて，歌う。

単語の意味を確認後，楽曲を聞きながら空欄補充 → 曲の感想，好きなフレーズとその理由の記入 → 少しずつ暗唱した後，歌う → 考査で評価

楽曲は，できるだけはっきりとした発音で歌われていて，口ずさみやすい曲を選んだ。世界の一流のトップアーティストによる，ゆっくりとしたバラード曲は，英語を聞き，そして理解する上で，最高のリスニング教材になる。楽曲によっては，クラスのムードを落ち着かせる癒し効果もあったようだ。生徒は，英語の歌を鑑賞するのを非常に喜んでいた。

空所に語句を記入するために，真剣に聞こうとする姿勢が必要になり，リスニングにより集中することができたようだ。また，好きなフレーズとその理由を書かせることにより，楽曲の詩を理解しようとする意欲も向上してきたようだ（**資料１**）。定期考査にも空所補充問題として出題すると予告したためか，英語の不得手な生徒も意欲的にかつ楽しみながら暗唱して歌うことができた（**資料２**）。

【資料１　楽曲に対する生徒のコメント】

Heal the World (Michel Jackson) について

〈曲の感想〉

○この曲は，とても良い曲で，世界を癒そうとしていて，とてもすごい曲だと思いました。

○元気を出して，前に進もう，と言われているような感じで，悲しい時に聞いたら元気が出そうだと思った。マイケルジャクソンの声が，落ち着く感じの声だった。良い歌だなと思った。

○タイトルと曲調がすごく合っていて，歌詞がどの部分も全て良くて，純粋な気持ちになれた。

〈好きなフレーズ，その理由〉

○There's a place in your heart.　And I know that it is love.
And this place could be much brighter than tomorrow.
・心の中にある愛という名の場所があるのなら，明日よりも明るい場所だと初めて，知ったから。

○Make a better place for you and me
・もっと素敵な場所にしようというフレーズは，現在も消えかかっている命がある中で，今以上にすべての命を大切に思っているのなら，素敵な場所にしようと思いが強く感じられたから。
・二人で，一緒にがんばろうと言われているようで，自分は一人じゃないと勇気がでる一文だと思った。

○Love is strong
・誰にでも，愛をもって，接することが大切だなと思った。そうすればみんなが幸せだと思う。

○We stop existing and start living.
・ただ存在しているだけでなく，何か目標をもって生きようという問いかけが素敵で，自分も何かがんばろうと思えたから。

【資料２　活動に対する生徒の感想】

○英語の歌が好き，もっと聞きたい，理解したい，歌いたい。

○理解して歌うと感情がこめられる。聴くのが楽しい。

○楽しかった。Hey Jude を好きになった。英語に興味をもてた。

○どんどん英語を覚えて英語をスラスラ言えるようにしたい。

(2) 自己表現活動

どこの国の観光都市について書くのか決める → 論理的に文を構成する → 教員が添削する
クラス員の前で，発表し，評価し合う → 考査で正確に記述

ア　自由英作文

自由英作文に積極的に取り組ませるために，題材は生徒が実際に訪れてみたい国を選ばせた。世界の観光都市の例を英文で生徒に示し，ＡＬＴに模範例を示してもらうことにより，書くことに対する抵抗感が和らぎ，表現することへの意欲向上につながったようだ。生徒は，たとえ困難でも英語を使って自分の考えを表現することは楽しいと感じ,自由に表現することへの意欲を述べている(**資料３**)。考査では，ほとんどの生徒が暗記してきた英文を正確に記述していた（**資料４**)。

今回の活動についてＡＬＴにコメントを依頼したところ，生徒のスピーチがはっきりと大きな声でできており，準備がしっかりできて自信をもっていたこと，そして，このようなスピーチを継続していけば生徒のスピーチの力が向上することが指摘された（**資料５**)。

【資料３　本単元学習後の生徒の感想】

○自分の思っていることを考えたり，英文にするのは楽しい
○覚えるのは，英語が苦手で難しいが，自由に考えるのは楽しい。
○自分の考えを自由に英語で書けるようになりたい。
○現在は，辞書を使って英文を書いたりしているけれど，辞書も使わないで文章を書けるようになりたい。
○自分の好きなことを書ける自由英作文は，書く意欲が出る。

【資料４　生徒自由英作文による中間考査解答例】

I want to visit America.

First, New York and Los Angeles are the best places of entertainment.　I want to feel real entertainments with the body there.

Second, I want to go to Sedona because it is a power spot.

Third, I want to watch baseball games of major leagues. I like baseball very much.

I know there are some problems in America. Many American people have guns. They are very dangerous. A lot of people have guns. Japanese people can't use guns. America has many places where they are not safe.

However I want to go to America after all. I want to see American real entertainment there. My sensitivity will be improved there.

【資料５　言語活動（自由英作文と発表）に対するＡＬＴのコメント】

Most important part of making a speech is having a clear voice.

All the students made clear and loud speeches, including all the girl students who tend to be shy and have soft voices.　Everyone was well prepared for the speech and they looked confident.　If they constantly make these kinds of speeches, they can really improve on their speaking skills.

イ　発表と評価

(ｱ) 個人による発表

スピーキング能力をつけていくためには，やはり発表の場を設ける必要がある。発表という緊張をともなう活動を促すための取組として，個人による発表を実施した。

個人による発表としては，生徒にとって興味・関心の高い内容について自由英作文を書かせ，教員が添削した後，ＡＬＴにも参加してもらって実施した。自分の興味のある内容なので，意欲的に文を考え，伝えようとする姿勢が見受けられた。聞いている生徒も，聞き取りのポイント理解した上で，評価を記入しなければならないので，意欲的に聞く態度ができていた。大きな声で顔を上げて発表することにより，英語による表現力の向上につながったようだ（**資料６**）。

【資料６　発表に対する生徒の感想】

○恥ずかしがらずに自分の思っていることを発表できた。
　現在よりもっとすらすら英語を話せるようになりたい。
○人前で発表するのは，苦手で大きい声を出せなかったが，しっかり文章を作って発表できた。
　現在よりも自分の考えを，英語で自由に話せるようになりたい。

(ｲ) 発表の相互評価

評価の方法としては，評価表を使って，クラスメートを評価させた。評価表には評価の観点を設定した（**資料７**）。評価することにより，生徒達は，聞く時は真剣に聞き，発表する時も，少しでも良い評価を得ようとがんばろうとする姿が見受けられた。聞いている生徒に内容を良く聞き取らせるためにも，聞き取りのポイントを示した。内容を正しく聞き取るために，真剣に聞くようになり，聞いてもらえるのならば真剣に話そうとするムードが生まれたようだ。発表では，正しい発音で，はっきり，ゆっくりと，大きな声で，発表することは重要なことだと理解できたようである。

【資料７　個人発表に対する評価表】

Who is the best presenter?

Name	What country does A want to visit?	Why does A choose there?	Volume 大きさ	Fluency 流れ	Score
Mai	Hawaii	**海で泳ぎたい**	5	4	9
Yutaro	Paris	**エッフェル塔を見たい**	4	3	7

EXCELLENT すごく良い 5　　GOOD 良い 4　　NOT BAD そこそこ 3　　FIGHT がんばれ 2

BEST　PRESENTER
Mai

7　成果と課題

(1) 仮説１の検証

生徒は英語の歌を鑑賞するのを非常に喜んでいた。生徒に英語の歌について，アンケートを実施したところ，英語の歌を今後も聞きたいと回答した生徒は 83%，好きな曲を理解して，歌いたいと回答した生徒は 70%，英語の歌から伝わるメッセージを理解できると回答した生徒は 64%であった。これらの結果から，ほとんどの生徒は，英語の歌を聞くのは楽しいし，理解して歌いたいと思うようになったことが分かった。美しい旋律を美しい声で歌っている曲を聞くことにより，英語の音声がもつ響きに対する興味・関心が高まり，詩の中にあるメッセージを理解しようとする意欲が高まってきたようだ。

(2) 仮説 2 の検証

自分の考えを英文で書くことは苦手な生徒が多い反面，自分の考えを自由に英語で書けるようになりたいという希望を抱いている生徒も多い。表現することへの抵抗感を低くするために，参考資料や，模範例などで，例文を示すことにより，生徒は，自分の考えを英文で書きやすくなった。また，個別指導でいろいろとアドバイスを行うことにより，自分でもやれるという自信につながった。実際，中間考査では，一生懸命練習して自分で書き上げた英文を暗記し，どの生徒もしっかりした記述が答案に書かれていた。課題考査で確認することにより，さらなる意欲向上と自信にもつながった。

クラスメートの前で発表することは，緊張の伴う活動である。生徒たちは，英語で話せるようになりたいという気持ちがある反面，クラスメートの前で発表するのが恥ずかしいという気持ちが働く。個別の発表では，緊張しながらも，理解してもらうために，ゆっくりと，大きな声で話す生徒や，ユーモアで引き付ける生徒もいた。評価し合うことにより，発表者には，少しでも上手に発表して，高得点を取り，褒めてもらいたいという心理も働いたようだった。上手に発表できた生徒にとっては，充実感と話すことへの自信へと，またうまく発表ができなかった生徒にとっても，上手な生徒のスピーチを聞くことにより，もっと上手に話したいという意欲向上につながった。クラスメートを教員だけではなく，生徒が評価することに意味があると思われる。また競争という意識をもたせると負けたくない，勝ちたいという心理が働き，生徒は意欲的にがんばる傾向がある。

(3) 今後の課題

世界平和を歌った曲や，永遠の愛を歌ったものは，生徒の心に響いたようだ。また，外国の文化に触れることにもなり，歌詞のもつ強いメッセージを生の音声を通して心で感じることができた。これをきっかけに英語の音声に興味をもち，意味を考えずに聞いていた曲を，理解して口ずさむようになったり，英語の歌を通して，外国の文化に興味をもつようになったりしたら，学習意欲も高まっていくと思われる。生徒が，自分の好きな英語の歌を聞き，メッセージを正確に聞き取る努力をするように励ましていきたい。

内容のあるメッセージを伝えるためには，ライティングの能力が必要となってくる。生徒の就職のための面接練習で気付いたことだが，日本語のスピーキングにおいても，内容のあることを話す場合は，あらかじめ頭の中で整理された文が書けていないと，説得力のあるスピーキングを行うことはできない。論理の通った文の書き方や，正しい語法・文法で英作文をさせる学習を，日頃から授業に取りいれて積み重ねていくことにより，生徒の作文能力は上達していくと思われる。

また，発表という，生徒達には緊張を伴う活動をさせるためには，励まし続けることが重要になってくる。上手にできた生徒への賞賛により，生徒の学習意欲向上を促し，思うように表現できない生徒へは，根気強く励まし続けていきたいと思う。

８　おわりに

本研究では，積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成のために，「英語の歌」「自己表現活動」「発表」を取り入れた言語活動の工夫について実践し，考察してきた。生徒は，自分のことや，興味・関心のあることを聞いたり，話したりするとき顔が生き生きとしてくる。英語の歌であれば，楽しんで意欲的に聴いたり，歌ったりしようとするし，興味のあることは，積極的に表現しようとする。しかし，英語で表現してみたいという思いはあるのだが，表現方法が分からなかったりして，なかなか思うようには表現できないという悩みを抱えている。正しい英文を覚えて暗唱する勉強方法は，英文法を正しく覚えるという意味では効率はよいのかもしれない。しかし，時間をかけてでも自分の考えを英語にしたものは，自分のものになって，心の中に残るのではないだろうか。また，暗唱させるのであれば，意味のない英文ではなくメッセージ性の高い英文を覚えさせたい。そのためにも，生徒が意欲的に，英語を理解し，表現したくなるような授業を研究し，授業改善に努めていきたい。また生徒達の英語学習に対する積極的な姿勢を養っていきたい。

※以下，ワークシート等の資料

【資料：授業で使用した英語の歌】

○ Michael Jackson	“Heal the world” “We are the world”
○ James Brant	“You are beautiful.”
○ 映画アラジン挿入歌	“A whole new world”
○ 映画タイタニックテーマ曲	“My heart will go on”
○ John Lennon	“Imagine”
○ The Beatles	“Yesterday”　“Hey Jude”
○ Elvis Presley	“Can’t Help Falling in Love”

【資料：自由英作文ワークシート】

住んでみたい国，もしくは，訪れてみたい国について，書きなさい。 **語数は，多ければ多いほど点数は高くなります。** ７文以上書くこと　　A,B,C　３段階で評価します。
I’d like to visit (　live in　　) (　　).
First
Second
Third
I know there are some problems in (　　).
However

【資料：生徒自由英作文例】　※教師が添削したものを２例掲載する。

I'd like to visit Korea.
First I want to buy cosmetics because they are cheap and they have various kinds of them.
Second I want to eat many kinds of Korean foods.
Third I want to wear Chimacyogori.
I know some people don't like Japan.
However there are many places to visit and the food is great.
That is why I like to visit Korea.

I want to live in U.S.A forever.
First I want to see beautiful women that I've never seen.
Second I want to eat a lot of beef because it is so delicious and cheaper than in Japan.
Third I want to go to Olympia Washington because I have friends who live there.
A lot of disaster like hurricane always attack America.
Some people sometimes shoot somebody.
I'm afraid of living there honestly.
I have a friend who lives there. I don't want to lose relationships between us.
I also want to teach them Japanese in the future.

平成24年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業

コミュニケーション能力を育成する外国語科指導の在り方に関する研究

－単元構想の工夫と言語活動の充実－

研究報告　7

英語を通して自分の考えを伝え合うことができる生徒の育成

－ライティングにおける自己表現活動－

愛知県立長久手高等学校　教諭　加藤　祐子

１　はじめに

新学習指導要領本格実施を前に，昨年度より英語Ⅱの授業などで授業改善を目指し，リスニングを各課の導入に用いたり，パラグラフの並べかえで大意をつかんだりといった活動をしてきた。しかし「書く」ことについては授業ではほとんど扱えず，バランスよく活動することができなかった。今年度は３年生の担当で，昨年度あまりできなかった「書く」ことを中心に，英語によるコミュニケーション能力の育成を目指した授業実践について考えた。具体的には「ライティング」の授業で,「書く」ことによるコミュニケーション活動の実践を行い，来年度から始まる「英語表現」の授業につなげたい。

２　生徒の実態

本校３年生理系の１クラスで実践した。ほぼ全員が大学進学を目指しており，受験を控えて学習意欲も比較的高く，授業には真面目に取り組む。しかし英語で表現することに慣れておらず，自由英作文の課題に挑戦するのは難しい。

３　研究の目的

英語に苦手意識があっても，生徒が自由英作文を含めた英語での表現に興味をもてるように，英語で表現したことに対してどのような反応が返ってくるかを体験させるなどの指導方法を探り,「書く」ことを通じたコミュニケーション活動に積極的に取り組む生徒を育成する。

４　研究の仮説

さまざまな場面を設定し，文例を紹介するなど，段階的に英語で「書く」ことに慣れていくような活動を工夫することにより，多用な表現方法を習得して，自己表現をすることができるようになるだろう。

５　研究の方法

本校第３学年生徒を対象としてライティングの授業において以下の方法で実践を行うことにした。

(1) 場面，設定にあった英文を作成させ，意見をまとめるための工夫の手だて

ア　教科書の設定，文例の理解 … 手だてＡ

イ　場面を設定して英作文　　… 手だてＢ

(ｱ)「感謝」「同情」等の気持ちを伝える手紙の作文

(ｲ)「承諾」「断り」を伝える手紙の作文

(ｳ)「お薦めの場所」についてのパラグラフ作成

(2) 生徒間で意見を交換しあうための工夫の手だて

ア　生徒の英作文をクラスで紹介　　… 手だてC

イ　他の生徒の作文についての感想を書く … 手だてD

(3) 単元構想①

1　単元名　　Lesson 21　Lesson 22　Lesson 23

2　単元の目標

・表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。
・「感謝」「同情」等の内容に関して作文し，読み手に分かりやすく伝えることができる。
・他の生徒の手紙を読み，理解し，感想を書くことができる。
・「感謝」「同情」等の表現を理解し，使用している。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。	「感謝」「同情」等の内容に関して作文し，読み手に分かりやすく伝えることができる。	他の生徒の手紙を読み，理解し，感想を書くことができる。	「感謝」「同情」等の表現を理解し，使用している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は２年次に学習したライティング活動を踏まえて，「言語の使用場面」に対応する表現練習を目指したものである。「感謝」「同情」「謝罪」を表す定型フレーズを学び，実際に使用して相手に伝える力を養う。

5　単元の指導計画（全２時間）　※１時間：50分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第１次 (0.5)	【表現の確認】 ・手紙の書き出し，「感謝」「同情」等の表現を確認する。 ・手紙の文例を理解し，文章の構成について学習する。	・個々の文法事項の確認だけでなく，文章の自然な流れも意識させ，気持ちを伝える方法を考えさせる。 手だてA
第２次 (0.5)	【演習】 ・教科書の演習問題に取り組み，さまざまな表現を習得する。	・あまり細かく間違いを指摘しない。 ・他の表現がないか考えさせる。 手だてA
第３次 （１）	【手紙の作成】 ・身近な人に対し，「感謝」「同情」「謝罪」をテーマに手紙を書く。相手や場面は自分で設定する。 ・他の生徒の文章を読んで,感想を書く。	・相手に気持ちが伝わることを目標に作文させる。 手だてB ・添削して返却し，設定のユニークなもの，文章の構成がよいもの等は授業で紹介する。 手だてC ・感想も紹介するなどして書きっぱなしにならないようにする。 手だてD

(4) 単元構想②

1　単元名　　Lesson 24　Lesson 25

2　単元の目標

・表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。
・「承諾」「断り」等の内容に関して作文し，読み手に分かりやすく伝えることができる。
・相手の招待の内容を理解し，「承諾」「断り」の手紙を書くことができる。
・「承諾」「断り」等の表現，及び準動詞について理解し，使用している。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。	「承諾」「断り」等の内容に関して作文し，読み手に分かりやすく伝えることができる。	相手の招待の内容を理解し，「承諾」「断り」の手紙を書くことができる。	「承諾」「断り」等の表現，及び準動詞について理解し，使用している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は２年次に学習したライティング活動を踏まえて，「言語の使用場面」に対応する表現練習を目指したものである。「承諾」「断り」を表す定型フレーズを学び，実際に使用して相手に伝える力を養う。

5　単元の指導計画（全２時間）　※１時間：50分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第１次 (0.5)	【表現の確認】 ・招待への「感謝」「希望」や「断り」「辞退」等の表現方法を確認する。 ・手紙の文例を理解し，文章の構成について学習する。	・個々の文法事項の確認だけでなく，文章の自然な流れも意識させ，気持ちを伝える方法を考えさせる。 手だてＡ
第２次 (0.5)	【演習】 ・教科書の演習問題に取り組み，さまざまな表現を習得する。	・あまり細かく間違いを指摘しない。 ・他の表現がないか考えさせる 手だてＡ
第３次 （１）	【手紙の作成】 ・ペアを作り，お互いをキャンプやパーティーなどに誘う招待文を書く。 ・相手の招待に対し，「承諾」か「断り」の返事を書く。 ・添削されたものをペアで確認し，自分の招待に対する相手の返答を読み，より適切な表現について考える。	・「承諾」でも「断り」でも喜びやおわびの気持ちが伝わるよう意識して文章を作らせる。　手だてＢ ・既習の準動詞を使うことと使用した準動詞には下線を引くよう指示する。

(5) 単元構想③

1　単元名　　Lesson 31

2　単元の目標

・表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。
・基本的なパラグラフ構成を学び，自分でアウトラインを書き，それに基づいてパラグラフが書ける。
・相手の意見を読み，意見を支持する理由，具体例を理解することができる。
・英語のパラグラフ構成について理解し，英文を作成している。

3　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
表現を積極的に学び，自分なりの表現を工夫している。	基本的なパラグラフ構成を学び，自分でアウトラインを書き，それに基づいてパラグラフが書ける。	相手の意見を読み，意見を支持する理由，具体例を理解することができる。	英語のパラグラフ構成について理解し，英文を作成している。

4　単元の概要と言語活動

本単元は英語の基本的なパラグラフ構成，マッピングおよびアウトラインの作り方について学習する。

5　単元の指導計画（全1.5時間）　※1時間：50分

	学　習　活　動（生徒）	言語活動に関する指導上の留意点（教師）
第1次	【パラグラフ構成の確認】 ・オーストラリアについて書かれたモデルパラグラフからマッピングを作り，文の構成を確認する。	・マッピングがどんなものか，また作文をする上で有用であることを理解させる。　手だてA
第2次 (0.5)	【マッピングの作成，パラグラフ構成の考察】 ・自分の「お薦めの場所」についてマッピングを作成し，パラグラフの構成について考える。	・説得力のある文章を作成するためマッピングを使ってアウトラインを考える重要性を意識させる。　手だてB
第3次 (0.5)	【パラグラフの作成】 ・メモに基づいて，「お薦めの場所」についてパラグラフを作成する。 ・ペアになり相手のパラグラフに対し，感想を書く。またどちらか一方を選んで提出する。	・なるべくモデルパラグラフと同じ表現を使わないよう指示する。　手だてB
第4次 (0.5)	【評価】 ・提出されたパラグラフのうち，いくつかを読む。最も説得力のあったものを選び，感想を書く。	・主題，理由，具体例，結論が分かりやすく書いてあるかを確認するようにさせる。　手だてD

６　学習活動と新学習指導要領との関連

○　各課の課題に従って，場面にふさわしい英文を書くことができる。

イ　主題を決め，様々な種類の文章を書く。　（英語表現Ⅱ　２(1)）

７　言語活動の充実の工夫

①生徒に身近な相手や場面を設定させ，現実に即した内容について英作文をさせる。

②読み手を意識して作文させ，他の生徒の文章に感想を書くなどして，意見のやりとりをさせる。

③パラグラフの構成について注意を払うことが，リーディング力の養成にもつながることを意識させる。

６　研究の実際と考察

(1) 場面，設定にあった英文作成

ア　教科書の設定，文例の理解

Lesson 21～23では，「感謝」「同情」「謝罪」をテーマにしたモデルの手紙文を参考に，その構成について説明し，表現を習得させた。書き出し，喜び，励ましを表す表現，謝罪の後の言い訳など，どのような表現を使えば円滑なコミュニケーションにつながるかを確認した。Lesson24，25では，「承諾」「断り」をテーマに，定型表現を紹介した。期待，希望を伝える表現，結びの表現について確認した。Lesson31ではモデルパラグラフ（オーストラリア紹介）の構成をマッピングを使って捉え，論理的に一貫したパラグラフ構成の方法を説明した。主題文，理由，具体例，結論の流れを把握し，分かりやすい文章構成について確認した。

イ　場面を設定して手紙形式で英作文

Lesson 21～23では「感謝」「同情」「謝罪」をテーマに身近な人へのメッセージを書くという設定で，友人や両親にあてて手紙を書くつもりで取り組むよう指示した。友人への手紙だけでなく，両親への感謝の気持ちを綴る者も多く，相手に自分の気持ちを伝えることを意識して作文できた。中には「ドラえもん」から「のび太」に宛てた手紙を書いた生徒もおり，教科書の文例を離れてユニークな設定を使って作文できた者もいた（**資料１**）。

【資料１　生徒作文例】

I am sorry you are punched by Giant.
I broke my arm by him.
He is dangerous so much ･･･
My friends Suneo is punched every day.
It is too bad like your damage.
Get well soon.
I need you for Giant's sacrifice.

※綴りの誤りについては筆者が訂正したものを掲載している。以下の資料についても同じ。

Lesson 24，25ではペアを作り，相手をキャンプやパーティーに誘う文章を作らせ，それに対する「承諾」「断り」の英文を作成させた。ペアで文章のやり取りをすることができ，生徒は比較的熱心

に，また楽しんで英文を作ることができた（**資料２**）。

【資料２　生徒作文例】

誕生パーティー，キャンプなどに相手を誘ってみよう。

Could you come to my birthday party?

Let's enjoy together!

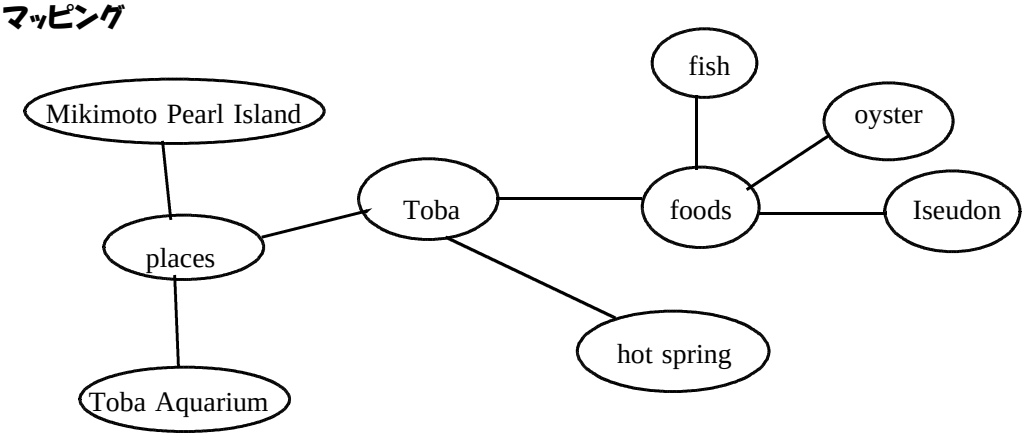
承諾・断りの返事を書いてみよう。どこかに準動詞を使うこと。

I received your invitation to go the party. I wish I could go, but I already have plan that day. That day, I am going to go my grandmother's house and I have to study hard in order to pass the college. I want to enter the college!! So I am studying English for an hour and studying math for an hour･･･at home every day. But I hope you have a great time and everything goes well. Please tell me about it later. After I finished studying to enter the college, let's make plans to get together. I hope to go somewhere with you someday! Thank you for reading. Good bye.

Lesson 31ではモデルパラグラフ（オーストラリア紹介）を使ってマッピングの書き方を理解させた。また主題文，理由，具体例，結論の流れを確認し，パラグラフの構成について確認した。次に生徒本人のお薦めの場所を設定させ，マッピングの作成をさせた。場所の設定に時間がかかる者もおり，学校のある長久手市，修学旅行先の沖縄，自宅など理由が挙げられそうな場所を例示した。その後，理由や具体例について英語でメモを書かせ，それをもとにパラグラフを作成させた。モデルパラグラフと全く同じ文にならないよう出だしに注意させ，読み手を引きつけるような書き出しについても考えるよう指示した。時間不足でモデルと同じ書き出しになってしまった生徒もいたが，大半はそれぞれに工夫を凝らして作文できた（**資料３**）。

【資料３　マッピング，メモ生徒作成例及び生徒作文例】

マッピング



英語でメモ

☆**お薦めの場所**	Toba is my favorite place for two reasons.
☆**理由１**	There are many sightseeing place.
具体例	Mikimoto Pearl Island, Toba Aquarium
☆**理由２**	There are a lot of delicious food.
具体例	Oyster, Iseudon, fish
☆**結論**	You have to visit Toba.

お薦めの場所を紹介

Toba is my favorite place for two reasons.

First, there are many sightseeing spots. We can see Ama and buy pearls in Mikimoto Pearl Island. Toba Aquarium is one of the most popular aquariums in Japan.

Second, there are a lot of delicious foods such as Iseudon, fish, and oysters. Oyster is called "the milk of sea". I encourage a raw oyster.

You have to visit to Toba when you are tired.

⑵生徒間で意見を交換しあう

ア　作文をクラスで紹介

Lesson 21～23では，各課で生徒が作った英文を添削し，いくつかを選んで生徒全員に紹介した。生徒にはその中から気持ちが伝わったと思う作文を選ばせ，それに対し英語でコメントを書かせた。コメントの部分のみを切り取り，作文した生徒に渡るようにした（**資料４**）。

【資料４　生徒英作文紹介プリント及びコメント例】

Power On English Writing　　Lesson21～23(感謝. 同情. 謝罪のメッセージ)

1. Thank you for pleasing me.
I really appreciate you talk with me everyday.
I was very glad that I can be your friend.
I really enjoyed being the same class last year, and I enjoy this year, too.
Please be a good friend from now on, too.

2. I am sorry that I lost your book.
I lost it somewhere.
I run around looking for it.
But, I couldn't find it.
So, I bought you a new book.
Please accept my apologies.

あなたが読んで，一番気持ちが伝わった思うメッセージはどれですか？
一つ選んで，英語でコメントを書いてみよう。

選んだメッセージ：　1

コメント：

I think this message is excellent. If I were received this message, I would be impressed. I have friends such as this message's. So I want to send just like a this message too.

Lesson 31については，できた作文をペアで交換し，理由，具体例が分かりやすく説得力がある，内容が首尾一貫しているなどの観点で良く書けている方を選ばせ提出させた。その中からいくつかをクラスで紹介し，一番良いと思うものを選んで理由を書かせ，書いた本人に渡せるようにした（**資料５**）。

【資料５　生徒作文例及び感想例】

Lesson 31　お薦めの場所を紹介しよう

１．Nara Park is great park in Japan.　There are many deer in the park.　You can give them "Shika Senbei", but you should be careful then.　Because deer dashing to you.　It's dangerous.

And you can see a lot of temples in the park.　There is "Nara Daibutu" that most popular huge statue of Buddha.

And there are many food shop of Soba & Udon.　Both are very good. Specially good is "Nishin Soba". It's delicious.

Nara Park is good.

２．If you are bored, let's go shopping center.　If you go to the shopping center with your mother, you could be bought something you want to.　If you go there with your friends, you can enjoy talking and drop in the book stores.　When you are tired during your shopping, you can rest anywhere in the shopping center.　Because there are many comfortable places.　Such as playroom for children, restroom and food stores and so on.

Probably you would be excited by going shopping center.　There are many variable food shops, so you can eat sushi and hamburgers and so on.

Shopping center is an amazing place.

☆6人のお薦めの場所のうち，あなたが一番行きたいと思った所はどこですか。
英語で理由も書いてみよう。
行きたい場所：Nara Park

理由：Sounds like great.　I love deer but my hand is eaten by deer...　It's crazy and dangerous.
I want to go to Nara Park once more.

(3) アンケートの実施

授業実践後，活動に対する感想などについてアンケートを実施した。

ア　授業前，自由英作文をすることに抵抗感はあったか。

かなりあった	多少あった	あまり無かった	全く無かった
34.2%	**36.8%**	18.4%	10.5%

イ　授業で「感謝，同情」「承諾，断り」，そして「お薦めの場所」についての作文をしたが，それぞれについて取り組みやすさ，抵抗感の軽減はどうだったか。

○「感謝，同情」についての作文

取り組みやすい	比較的取り組みやすい	かなり取り組みにくい	とても取り組みにくい
10.5%	**60.5%**	23.7%	5.3%

抵抗感がかなり減った	抵抗感がやや減った	抵抗感があまり減らなかった	抵抗感が全く減らなかった
10.5%	**52.6%**	23.7%	13.2%

○「承諾，断り」

取り組みやすい	比較的取り組みやすい	かなり取り組みにくい	とても取り組みにくい
13.2%	**55.3%**	26.3%	5.3 %

抵抗感がかなり減った	抵抗感がやや減った	抵抗感があまり減らなかった	抵抗感が全く減らなかった
13.2%	**52.6%**	23.7%	10.5%

○「お薦めの場所」

取り組みやすい	比較的取り組みやすい	かなり取り組みにくい	とても取り組みにくい
18.4%	**47.4%**	28.9%	5.3%

抵抗感がかなり減った	抵抗感がやや減った	抵抗感があまり減らなかった	抵抗感が全く減らなかった
13.2%	**50.0%**	23.7%	13.2%

授業前の自由英作文に対する気持ちを尋ねたところ，７割以上の生徒が抵抗感ありと答えていた。実際に授業でやってみると，「感謝，同情の手紙」は71%，「承諾，断りの英文」は68%の生徒が比較的取り組みやすいと感じており，授業後には64%程度の生徒が英作文に対する抵抗感が幾分減ったと答えている。マッピングについては66%の生徒が取り組みやすいと感じており，63%の生徒の抵抗感が減ったようだ。今回の英作文についてはそれほど難しいとは感じておらず，感想を見ても「楽しめたので機会があったらまたやりたい」などの前向きなコメントが見られた。一方，３割程度の生徒は各課の課題に取り組みにくい，英語で気持ちを伝えることに抵抗感が減らないと答えており，あまり効果の感じられない者もいた。

7　成果と課題

(1)仮説の検証

「書く」ことに段階的に慣れていくことを目的に活動をしたが，多くの生徒はあまり抵抗感なく取り組めたようである。一つ目の活動で，英文を紹介した生徒の一人は，英語の成績が芳しくなく，クラスでも成績は下位に位置しているが，作文の内容がユニークで，他の生徒に紹介したところ，作文には興味をもち，回を重ねるごとにどんどん長い文章を書くようになった。また「英語に親しむよい機会になった」とコメントする生徒もおり，表現することに興味をもつきっかけになったのではないか。しかし，多用な表現を習得するという点では充分とは言えず，より的確に気持ちを伝える手だてを習得させる必要があった。今回は細かい文法的な誤りを指摘せず，まず気持ちを伝える文章を書くということに焦点を置いたが，独創的な文章を書けば書くほど，日本語をそのまま英語にした表現が目立ち，個々の生徒により細かく指導する必要性を感じた。

(2)今後の課題

今回の研究で，自分の気持ちを英語で書くこと，書いた文章を使って他の生徒とやり取りをすることに生徒はこちらが考えるほど抵抗感が無いことが分かった。Lesson 31の活動は，他クラスでも試みたが，やはり生き生きと取り組む様子が見られた。ただ正確な文章を書くという点ではかなり問題があり，文法・語法や構文の知識を身に付けることとそれを使って表現することをバランスよく授業

で扱う必要性を感じた。生徒の中には「自由に書けて楽しかった。もっと英作文がやってみたいと思い始めた」とコメントする者もおり，あまりにも制約があったり，正確さばかりを重視したりすると表現することを楽しめず，本来の目的であるコミュニケーション能力の育成につながらないとも考えられるので，正確さについては段階的に求めていくことも重要であると感じた。また生徒のコメントの中には「卒業後も英語で作文する力は役に立つと思った」という意見もあり，設定を工夫して実用的な場面で使用する表現を多く取り入れれば高校卒業後も活用できる力として捉えられ，動機付けになるのではないかと考えられる。今回は「書く」「読む」という活動しかできなかったが，今後はそれを発表するなど「話す」「聞く」といった活動につなげていきたい。

８　おわりに

本実践では，生徒のコミュニケーション能力育成のために，英作文を中心とした言語活動を実践してみた。生徒の自己表現の能力を高めるためにはさらなる授業改善の工夫が必要である。今後も英語をコミュニケーションの手段として積極的に使おうとする生徒の育成のため，一層努力したい。

参考文献等

○　文部科学省『高等学校学習指導要領』平成21年３月告示
○　文部科学省（2010）『高等学校学習指導要領解説　外国語編　英語編』
○　国立教育政策研究所　教育課程研究センター（2012）『評価基準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校　外国語）』